

防災総合センター一年報

第 2 号

Annual Report of
Center for Integrated Research and Education of
Natural hazards, Shizuoka University

No.2, June 2012

2012 年 6 月

静岡大学防災総合センター

目 次

1	センターの概要	1
1.1	設立趣旨と沿革	1
1.2	組織及びメンバー	2
2	研究成果	5
2.1	個人研究成果	5
2.2	研究業績リスト	34
2.2.1	著書	34
2.2.2	学術論文	36
2.2.3	学会口頭発表	45
2.2.4	その他の著作物	55
2.2.5	受賞	58
2.2.6	特許等	59
3	学内教育活動	60
3.1	新入生セミナー	60
3.2	学際科目「地震防災」	61
3.3	学際科目「地域社会と災害」	62
3.4	静岡大学防災マイスター制度	63
4	プロジェクト・関連行事	64
4.1	科学技術振興調整費「ふじのくに防災フェロー養成事業」	64
4.1.1	事業の概要	64
4.1.2	修了生の個人研究成果	66
4.1.3	修了生の研究業績リスト	69
4.1.4	修了生の社会的活動	70
4.2	ICTを活用した災害時等広域連携化（人材育成）業務	73
4.3	防災学創出に関する調査研究業務	74
4.4	しずおか防災コンソーシアム・土曜セミナー	75
4.5	文部科学省防災教育支援推進プログラム「防災教育支援事業」	76
4.6	防災・日本再生シンポジウム	
	「多角的な災害教訓を踏まえた静岡地域の地域防災を考える」	77

5	社会的活動	79
5.1	外部・公開講演会等	79
5.2	マスメディア・新聞等への掲載	101
5.3	公的な委員会等	128
5.4	学会活動	133

1 センターの概要

1.1 設立趣旨と沿革

静岡大学防災総合センターは、全学組織のひとつとして2008年7月に設置され、静岡大学地域連携協働センターを構成する組織のひとつとしても位置づけられている。防災総合センター設置の目的は、地域連携を通じ、静岡大学における防災教育を多面的に展開させるとともに、防災科学研究、災害時の危機管理能力を組織的に発展させ、地域の防災体制の向上に資することである。

東海地震の発生可能性が指摘されて以来、静岡大学は防災体制構築への先進的な取り組みを続けてきた。1980年代に大学内の建物の耐震診断をおこなって耐震工事を実施するとともに、全学防災対策委員会の下に地震対策検討部会を設置し、地震発生時の詳細な対応策を決定した。

さらに、防災教育の充実を目指して、2004年度から学外講師も含めた十数名の教員が担当する講義「地震防災」を開講するとともに、1年生全員の必修科目である「新入生セミナー」の中で防災の基礎知識と心得に関する講演を行うようになった。この背景には、静岡大学内の各部局に防災と密接に関係する研究テーマをもつ教員が徐々に増えてきたことがある。もともと地震防災は理学だけにとどまらず、工学、情報科学、人文・社会科学、医学などの幅広い分野にわたる総合科学の側面をもっていたからである。こうした教員たちは、各自の分野における防災研究・教育を推進するだけでなく、防災施策の検討を目的とした国や自治体の委員を委嘱されることによって、防災行政にも深く関わるようになった。また、地域社会からの講師派遣要請にも、個別的にはあるが積極的に貢献してきた。

このような防災研究・教育・地域連携の活動実績を背景として、静岡大学は、静岡県防災局（現・静岡県危機管理部）との協力の下に、文部科学省の特別教育研究経費（初年度は特殊要因経費）に「防災教育の地域連携を通じた多面的展開と拡充」を申請した結果、2008年度から4年間にわたる交付が認められることになった。そして、この経費を最大限活用しつつ、これまで各学部・各教員が個別におこなってきた防災研究・教育・地域連携活動を有機的・組織的に結びつけ、より高次かつ困難な地域防災課題の解決に取り組むために設立されたのが、静岡大学防災総合センターである。

本センターでは、2008年11月に1名、2009年に1名の計2名の専任教員を迎えるとともに、学内併任教員、学外客員教員を拡充し、防災研究・教育・地域連携に取り組んできた。2010年には文部科学省の科学技術振興調整費(2011年度からは科学技術戦略推進費)による地域再生人材創出拠点の形成事業「災害科学的基礎を持った防災実務者の養成」に採択され、より活動の幅が広がった。2011年4月には大学会館内に研究室、事務室、セミナー室を集約し活動拠点も整備された。

1.2 組織及びメンバー

2012年3月現在の当センターメンバーは下記の通りである。

センター長

増田俊明（構造岩石学・地球進化学）理学部教授と併任

副センター長

牛山素行（専任准教授、自然災害科学・災害情報学・豪雨災害）

小山真人（火山学・歴史地震学）教育学部教授と併任

専任教員

原田賢治（専任准教授、津波工学）

特任教員

小澤邦雄（特任教授、地震防災）

藤井直之（特任教授、地球物理学・地震予知）

併任教員

土屋 智（研究部門長、農学部教授、地震砂防学・土砂災害）

村越 真（教育部門長、教育学部教授、認知心理学・リスク心理学）

里村幹夫（地域連携・ボランティア支援部門長、理学部教授、測地学・地球物理学）

上利博規（人文社会科学部教授、哲学・芸術分野）

池谷直樹（保健管理センター教授、災害医療）

岩崎一孝（情報学部教授、地理情報システム）

狩野謙一（理学部教授、構造地質学）

寺村 泰（人文社会科学部教授、経済学）

林 愛明（創造科学技術大学院教授、地震地質学・活断層学）

北村晃寿（理学部准教授、第四紀の層序学・古環境学）

小林朋子（教育学部准教授、学校心理学・被災者の心のケア）

藤井基貴（教育学部准教授、教育学（教育哲学・道徳教育））

前田恭伸（工学部准教授、災害情報・リスクコミュニケーション）

木村浩之（理学部講師、地球微生物学・環境ジェノミックス）

生田領野（理学部助教、地震学・測地学）

客員教員

- 青木克憲（客員教授、救急医学・外科栄養学・消化器外科学）
石川有三（客員教授、地震学・地震予知・テクトニクス）
伊藤谷生（客員教授、構造地質学）
鶴川元雄（客員教授、火山物理学・地震学）
笠原英男（客員教授、災害ボランティア論）
風間 聡（客員教授、水工水理学）
片田敏孝（客員教授、災害社会工学）
近藤昭彦（客員教授、地理学）
佐藤博明（客員教授、火山学）
島崎邦彦（客員教授、地震学）
鈴木清史（客員教授、文化人類学・異文化コミュニケーション）
武村雅之（客員教授、強震動・地震災害史）
千木良雅弘（客員教授、地質学・応用地質学）
中川和之（客員教授、災害報道・市民防災）
野津憲治（客員教授、地球化学）
林 拙郎（客員教授、林学・森林工学・砂防学）
安田 清（客員教授、整形外科・災害医療）
山岡泰治（客員教授、地域医療・放射線管理）
矢守克也（客員教授、社会心理学・防災心理学）
吉田明夫（客員教授、地震学）
伊藤英之（客員准教授、火山防災・土砂災害）
柄谷友香（客員准教授、都市防災計画・土木計画）
秦 康範（客員准教授、社会システム工学・安全システム）
林 能成（客員准教授、地震学・地震防災）
吉野篤人（客員准教授、救急医学・災害医学）

学術研究員

- 大森康智
高柳夕芳
横幕早季

特任事務職員

- 山田勝久

事務補佐員

風間明子

迎田晶子

2 研究成果

2.1 個人研究成果

防災総合センターには2012年3月時点で2名の専任教員が所属しているが、広範な課題に対応する防災の分野を2名でカバーすることは極めて困難である。このため当センターでは、多数の学内外研究者を特任教員、併任教員、客員教員というメンバーとして迎え入れ、研究・教育活動のいっそうの充実を図っている。2012年3月現在で、特任、併任、客員教員の総数は44名を数え、学内の全学部に少なくとも1名の併任教員が所在するほか、東北地方～九州地方に渡る全国の大学・研究機関から25名の研究者が客員教員として当センターの活動に加わっていただいている。

本節では、これら当センター関係教員による最近の研究活動のトピックスを紹介する。いずれも日本の防災関係研究分野の第一人者であり、さまざまなユニークな取り組みが行われているところである。なお、論文等の研究業績は、2.2節を参照されたい。

教員名：増田俊明

所 属：併任教授・センター長・理学部教授

防災総合センター長としてまもなく3年目になります。

防災総合センターのセンター長なのに、防災に関わる研究は行ってはいません。その代わりに、防災総合センターで行っている種々の研究プロジェクトのマネージメントや、“潜在的な”防災研究者の掘り起こしをしています。専任教員わずか2名の弱小センターが、学内外の多くの方々の力を借りて、静岡県で発生が考えられる多様な災害の研究を進めようとしているところです。

専門は地球科学のなかの構造岩石学というアヤシイ分野で、岩石の変形について興味があります。具体的には以下のようなことを研究しています。

- ・岩石中の柱状鉱物が破断した組織（マイクロブーディン構造）から、変形を引き起こした外力（古応力値）を見積もる研究：38億年前から400万年前までを対象として。
- ・超微小硬度計を用いての微小領域での弾性的・塑性的な硬さの研究。一般に点接触変形と言われる現象の追求。
- ・地下深部に大量に存在すると考えられる超臨界状態の水の中での岩石・鉱物の変形。

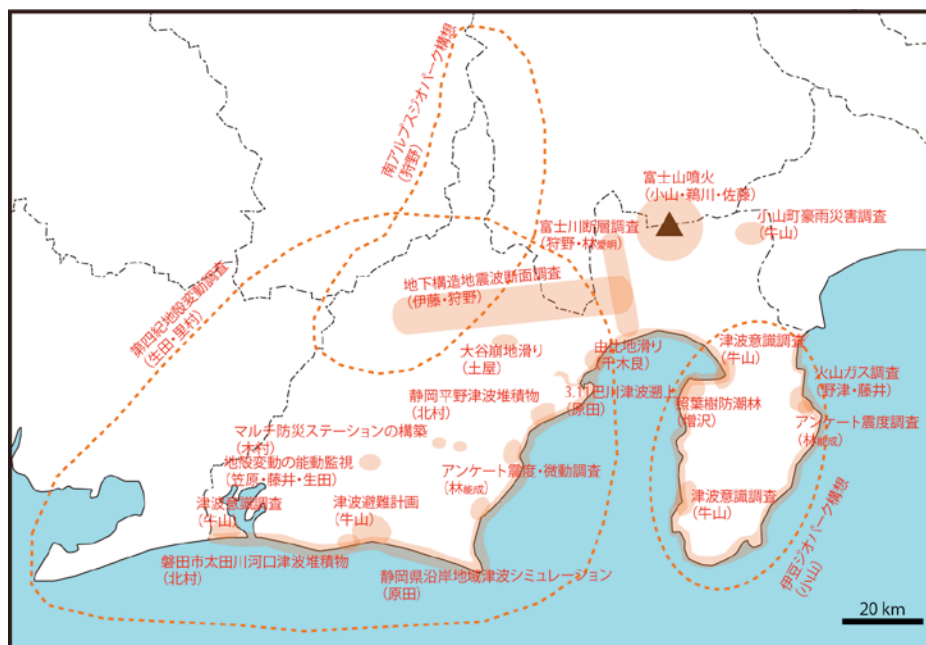


図 2-1 防災総合センターが静岡県周辺で行っている研究プロジェクト

教員名：牛山素行

所 属：専任准教授・副センター長

2011年3月11日に発生した東北地方太平洋沖地震(東日本大震災)に際しては、発災約3週間後の2011年3月29日に最初に現地入りして以降、2012年3月までに9回の現地調査を行った。宮城県仙台市から岩手県田野畑村の範囲で現地踏査したが、詳しい調査は前職時代から調査研究に入っていた岩手県陸前高田市を中心に行っている。同市では死者・行方不明者数1852人(2012年1月現在)、市の人口に対する犠牲者の比率が7.5%という、現代日本の災害としては想像を絶する規模の被害を生じた。災害後最初に現地入りしたのも陸前高田市だったが、地域での防災活動にも関わらせていただいた地域が「街」として完全に消滅していることに激しい衝撃を受けた。当初は研究者としていったい何から手をつけたらよいかかわからないような状態であったが、時間が経つにつれ、従来も取り組んできた人的被害(死者・行方不明者)の特徴を中心に取り組むことに方向が定まってきた。

まずは、公表されている人的被害の統計資料をもとに、市町村別の被害の集計を行った。とはいえ、実はこの基本的な作業自体もまだ暫定的な結果しか示せていない。発災から1年以上が経過した2012年3月に至っても、死者・行方不明者数が確定せず、日々変化しているような状況のためである。また、通常の災害ならば行政機関によってとりまとめられる、災害発生時の時系列的な状況という基本的な情報についても、市役所が壊滅した陸前高田市では手探りで推測していかねばならない状況となっている。このため、災害発生時に撮影された動画やデジカメ画像を様々な人から収集し、これらのタイムスタンプデータや、ネット上の記録、聞き取り調査などを総合して、地震発生から津波到達までのタイムテーブルや、津波の到達状況を再現することを試みた。最近になってようやく人的被害に関する詳しい資料を入手するに至り、解析をはじめている。この災害については、考えなければならないことがあまりに多い。道のりは長いですが、今後の各地での防災に生かす意味でも、取り組みを続けなければならないと考えている。

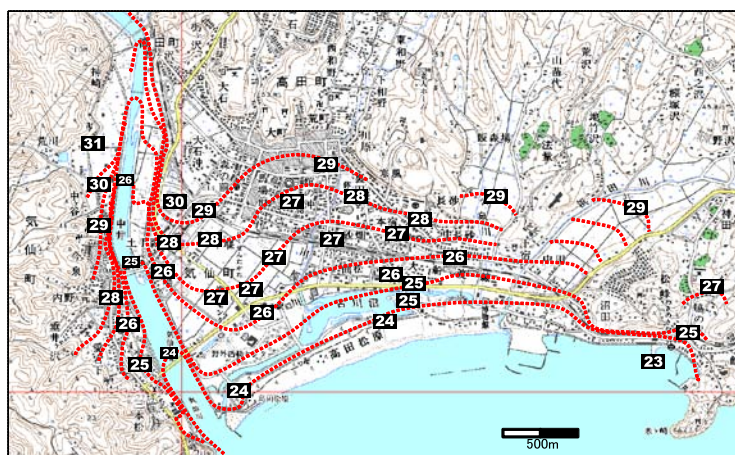


図 2-2 動画・画像をもとに推測した陸前高田市街地への津波到達時刻

教員名：小山真人

所 属：併任教授・副センター長・教育学部教授

静岡県周辺ならびに他地域の火山噴火史，地震活動史，地震火山防災，リスク情報の伝達・教育普及，ジオパークによる地域社会の活性化と防災基盤強化などに関する研究を進めています。また，東日本大震災以降は，火山灰の拡散過程についての知識を生かしながら，静岡県周辺地域への放射性微粒子の拡散・汚染状況についての研究も進めています。詳しい研究成果については，研究室の Web サイト（以下，あるいは「小山研究室」で検索）をご覧ください。 http://sk01.ed.shizuoka.ac.jp/koyama/public_html/Welcome.html

教員名：原田賢治

所属：専任准教授・静岡大学防災総合センター

津波の災害現象や対策について研究をしています。研究の目的としては、津波自体や津波に起因する現象・メカニズムを理解し、津波による被害の軽減に向けて、対策を検討・検証・提案することです。津波自体の現象として、地震による津波の発生、海の中の津波伝播、陸上への津波氾濫を力学に基づいた数値シミュレーションにより解析をし、被害発生状況や地域の危険度検討のためのモデル開発をしています。特に陸上には、津波の運動に取って建物などの様々な障害物や地形の起伏等によって影響を受けて津波は町に被害をもたらします。津波が来襲した時の運動を適切に評価できる手法として数値シミュレーションを開発、改良しています。また、津波対策による効果についても、現地調査や数値解析により研究しています。現地調査は国内だけでなく、インドネシア、チリ、サモアなどで発生した津波による被災状況についても調査をしており、各地域における津波被害や対策についても研究をしています。特に、インドネシア、チリにおける津波対策の検討については、現地の防災担当者や研究者と連携を取って研究を進めています。特に、インドネシアにおいては海岸林による津波減衰効果や適応限界について現地試験や数値解析により、津波対策として海岸林を利用する際のガイドラインの作成を現地行政機関と行っています。現地では、このガイドラインに基づいた海岸林の植林や管理がこれから行われる予定です。また、東日本大震災における津波の被災地においても、仙台、石巻、陸前高田、野田、八戸、三沢、いわき等で海岸林の被害状況の調査を行っており、適応限界についての定量的な評価についての検討を進めています。復興計画の中で、海岸に近い地域に防災公園や防災緑地として樹木を整備する計画がされていますが、今回の津波の様に巨大津波が来襲により木々はなぎ倒され、津波と一緒に流されて背後地域で被害を拡大することにつながります。海岸林が利用できる条件や被害を拡大させないための方策について現地試験や力学的なモデルの検討と組み合わせて数値解析を行い定量的な評価手法の研究を進めています。さらに今後、東海・東南海・南海地震による津波が、静岡県内だけでなく日本の太平洋岸広域に渡り甚大な被害をもたらすとされています。東日本大震災を受け、行政では地震の規模を大きくした地震津波被害想定が検討されており、この想定に基づいた対策が進められることとなります。津波対策を検討する際には、過去の津波履歴や津波規模を考慮して、ハード・ソフトの対策を組み合わせることで実施することになりますが、重要になるのが津波堆積物や歴史資料で、いつ頃どのくらいの津波が地域に来襲したかを明らかにする必要があります。津波堆積物の厚さや分布は調査した限られた場所での情報であり、地域を襲った津波の規模を推定するためには、数値シミュレーションによる再現計算が必要になりますが、津波による土砂の移動特性について十分に解明ができていないため評価が難しい状況です。水理実験により津波による土砂移動および堆積状況の特性を計測、検討し、さらに、精度よく再現する数値シミュレーションモデルの開発、改良を行っています。この検討から、現地調査で発見される津波堆積物から津波規模を適切に推定し津波対策を進めるのに役立つと期待されます。

教員名：土屋 智

所 属：併任教授・農学部教授

ここ数年日本周辺では、温暖化現象に起因するとされる局地的な集中豪雨の発生があり、過去に経験したことがないような豪雨・大雨が大規模な土砂災害を引き起こしている。台湾では、2009 年台風 Morakot がもたらした約 2000mm の大雨により大規模な斜面崩壊が発生、崩落土砂により約 500 名が犠牲者となった。また、2011 年には台風 12 号により紀伊半島を中心に約 1800mm に達する豪雨があり、死者・行方不明者 92 人（土砂災害によるもの 56 名）に達する大きな被害を生じた。



写真 2-2 土屋教授

さて、どのような豪雨が襲ったら、どの規模でどのような土砂移動が発生するかを定量的に特定することは難しい。ある斜面は崩れてもその近隣斜面は未崩壊だったりするか
らで、いつ、どこで、どのような土砂移動が起こるかは現在のところ予想の域を越えず、その発生確率を評価することすらできていない。しかし、これまでの研究成果の蓄積により、一旦事象が発生すれば、その結果を追跡することは可能になっている。後追いではあるが、応用事例を経験として蓄積し、今後に発生するであろう大規模な土砂移動現象の予測（予想ではなく）につなげたいと考えている。

教員名：村越 真

所 属：併任教授：教育学部教授

元々は空間認知・ナビゲーションの認知的メカニズムを研究していました。近年はそれを生かして防災教育やその基礎となるリスク認知の研究を行っています。またその成果を生かした学校を中心とする講演・出張授業などを実施しています。

2010年度には、学生と協同で、学校における危険箇所を地図化する授業の効果を検証する実験を行いました。2時間の授業で意識の面では改善が見られたクラスがあったものの、安定した効果を得るには不十分だという結果を得ました。また2011年度には、学生を対象とした日常生活のハザードの地図化や災害時の状況をイメージする活動の教材としての可能性を検討しました。学生は好評でしたが、効果の検証をするには至っていません。

また、もともと関心のあった危険な状況で活動する登山者のリスクに対する意識や行動の文献研究とインタビュー調査を科研費を受けて実施しています。先鋭的なクライマーも決して死ぬことを前提として活動しているわけではないので、彼らがリスクをどうとらえ、またそれに対してどのような対処を行っているかを詳細に検討することは、日常生活や災害時のリスクにどのように対処していけばよいかの指針を与えてくれると期待されます。

そのほかに、空間認知・ナビゲーション研究とオリエンテーリングの経験を生かして、山岳遭難を防ぐためのナビゲーション講習や啓発活動を一般登山者からガイドに至るまで幅広い層に対して行いました。



写真 2-3 左：藤枝市学校安全部の教員を対象とした研修，右：静岡市消防局の山岳救助隊員のためのナビゲーション講習会

教員名：狩野謙一

所 属：併任教授・理学部教授

○ 赤石山地基盤岩の埋積・隆起・剝削過程の研究

30年間にわたった赤石山地の地質学的研究をまとめつつある。そのなかで、最近20年間での卒論、修論などで得られた600地点以上の付加体泥質岩中のイライト結晶度から最高被熱温度の検討を行った。その結果、南部地域では付加時の温度構造が残されているが、北部では、中期中新世頃の後の熱事変によって温度が上昇していることが明らかになった。赤石山地の隆起の開始は300万年前頃で、100万年前以降に活発化したと考えられている。それを検討するために、京都大学グループと共同して、FT熱年代学による計測をおこなったところ、調和的なデータが得られ、剝削量を見積もることができた。

○ 早川沿いの糸魚川-静岡構造線についての案内看板、パンフレットの作成

山梨県早川町教育委員会と協力して、早川沿いの糸魚川-静岡構造線(糸静線)の断層露頭を一般向けに紹介するために、二カ所で案内看板を設置するとともに、案内パンフレットを作成した。

○ 長野県、茅野-富士見地域の糸静線活断層系に伴う変動地形の再検討

上記地域の活断層地形は良く知られているが、現地調査は十分とはいえなかった。卒論を含めた調査の結果、きわめて保存のよい新鮮な変動地形が観察でき、そのいくつかについて計測・記載を行った。

○ 反射法地震探査による中部地方の地下構造の解明

現防災総合センター伊藤谷生客員教授を中心とするグループで、糸静線周辺および北米濃地域での反射法地震探査による地下構造探査を最近5年間に行ってきた。その結果として、フィリピン海プレート上面の構造、地殻上部の基盤岩類の構造などについての新知見が得られた。

○ 富士川河口断層帯～糸静線横断地下構造探査の準備

東海地震に伴って活動する可能性が大きい富士川河口断層帯、およびその西方の糸静線を横断する側線で、伊藤谷生客員教授と共同して、来る4月6～13日にかけて反射法地震探査を実施する予定である。2011年度は、そのための探査側線の選定と下見を行い、実行計画を立案した。

○ チベット高原北部の変動地形調査

チベット高原北部のKumukol盆地内には大規模な活褶曲が認められる。この活褶曲とチベット高原の上昇過程との関係を考察するために、東京大学理学部池田安隆准教授の研究グループの一員として身現地調査を行い、放射線表面照射年代を測定するための試料を段丘面上から採取した。この試料は現在計測中である。今回の調査では、変動地形の核心部に到達できなかったため、次年度以降に再調査する予定である。

教員名：寺村 泰

所 属：併任教授・人文社会科学部教授

私は、日本経済の歴史、特に戦前から高度成長期にかけての産業政策や貿易政策を研究しています。防災研究とは全く縁が無かったのですが、東日本大震災以降、人文学部の防災対策の見直しの責任者を学部長より命じられたこともあって、防災との関わりができました。東日本大震災以降、人文学部内においても防災、減災、あるいは復興に対して何か貢献できないのかという思いが募り、その結果、現在、研究会が立ち上がっています。

自分の置かれた位置から考えますと、私が果たすべき最大の役割は、防災に関わる自然科学と人文・社会科学の研究の橋渡しをすることだと思っています。全国的にも、防災に関して自然科学と社会科学の協力が必要であるという主張が盛んにされています。具体的な貢献に関しては手探り状態ではありますが、同僚の先生方とも協力しながらやれることからやっつけようと思っています。

その手始めであり、緊急の必要性を感じて推進したのが人文学部の防災規定の見直しでした。詳しくは報告書を出しましたのでそれを見て下さい。

役職柄、評議会などでも発言する機会に恵まれています。ずいぶんと昔から東海地震が叫ばれてきた静岡にある国立大学として、常設の防災教育・研究組織がないことは不思議でなりません。防災総合センターが、真に常設的センターとして発展し、地域の中でも中核的役割をますます発揮できるように、微力ながらお手伝いできればと考えております。

教員名：北村晃寿

所 属：併任准教授・理学部准教授

静岡市は、東海地震などによって、たびたび津波の被害を受けたことは、観測記録や古文書記録から知られている。これらの記録を裏付けるとともに、さらに古文書記録以前の津波の痕跡を探る調査が静岡県各地で行われ、津波堆積物あるいはその可能性が高いイベント堆積物が発見されている。だが、駿河湾奥部から御前崎までの駿河湾西海岸では、津波堆積物の調査が行われていなかった。

そこで、静岡大学から支出された調査費を使って、静岡市東南の大谷地区の 2 地点でボーリングコアを掘削し、津波堆積物を調査した。調査した地点のうち、地点 1 は海岸から約 700 m で、地点 2 は約 1,050 m である。これらの地点の標高約 4-5m から層厚 30cm の分級の良い中粒砂からなる級化層を発見した。この砂層を構成する砂粒子は米粒状であり、調査地域の海浜の砂の形態に類似することから、中粒砂層は津波堆積物の可能性が高い。両地点からは、静岡市の沿岸部に被害を与えた 1096 年の永長地震、1498 年の明応地震、1707 年の宝永地震、1854 年の安政東海地震の津波堆積物は検出できなかった。我々の発見した津波堆積物は、古文書記録にある東海地震に伴う津波よりも規模の大きい津波の痕跡と推定される。この研究成果は、以下の論文に公表した。

北村晃寿・藤原 治・小林小夏・赤池史帆・玉置周子・増田拓朗・浦野雪峰・小倉一輝・北村賀子・増田俊明（2011）静岡県静岡平野南東部における完新統のボーリングコアによる遡上した津波堆積物の調査(速報). 静岡大学地球科学研究報告, 38, 3-19.

現在、推定津波堆積物の年代と規模を解明するための調査を継続している。今後は、静岡市西部の低地と焼津市低地においても津波堆積物の調査を実施する予定である。

教員名：藤井基貴

所 属：併任教員・静岡大学教育学部准教授

専門は教育学のなかの教育哲学および道德教育の領域です。2011年度より防災総合センターの併任教員となり，研究室の学生たちと防災教育と道德教育を連携させる「防災道德」授業の教材および授業開発に取り組んでいます。2011年度には開発した教材を県内の小中学校4校において授業実践しました。その成果をもとに，2012年度には，より多くの学校の先生方に使ってもらえるような教材集を作成したいと考えています。

教員名：木村浩之

所 属：併任講師・理学部講師

南西日本の太平洋岸は、海洋プレートの沈み込みによって有機物を多く含む海底堆積物が蓄積・隆起してできた「付加帯」という地形からなる。付加帯は地下 10 キロの厚い堆積層からなり、地震発生が多い我が国独特の地形といえる。これまでの研究において、静岡県中西部の付加帯に地下 1,500 m まで掘削された複数の大深度掘削井から地下水を採取し、各種化学分析、同位体分析、微生物嫌気培養、遺伝子解析を行ってきた。その結果、地下水中に高濃度のメタンが溶存すること、水素発生型発酵細菌と水素資化性メタン生成菌が優占すること、発酵細菌によって嫌氣的に有機物が分解されて水素ガス(H₂)が生成されること、メタン生成菌によって H₂ と CO₂ からメタンが生成されること、これらの地下圏微生物群集が共生システムを構築して、堆積物中の有機物を分解してメタンを生成していることを明らかにした。

今年度は、静岡県中西部の付加帯に位置する深部掘削井戸（温泉施設：島田市田代の郷温泉）から地下水を採取した。そして、栄養基質（ペプトン+グルコース+酵母エキス）を添加した後、中型嫌気培養槽（液層 5L, 気相 7L）を用いて発酵細菌およびメタン生成菌を含む微生物群集の嫌気培養を試みた。その結果、中型嫌気培養槽（液層 5L）におけるメタン生成速度は、最速 14.0 mmol day⁻¹であることが明らかとなった。また、地下水 1 立方メートルあたりのメタン生成速度を算出したところ、2.68 mol day⁻¹（約 60 リットル[標準状態] day⁻¹）であった。加えて、付加帯の地下水を採取するための深部掘削井戸、メタン分離槽、メタン生成リアクター、水素生成リアクター、各種発電機を組み合わせた自然エネルギー生産システムをデザインした。そして、静岡大学イノベーション共同研究センターの協力のもと特許を出願した。

教員名：生田領野

所 属：併任助教・理学部助教

地下を通ってくる地震の波は、岩石の強さや受けている力といった状態によって伝わり方を変化させます。私は微弱な地震の波を人工的に放射する装置を使って、このような地球の浅い部分（地殻；といっても 30km と結構な深さですが）の状態の変化を監視する研究をしています。また船の上から深さ数キロの海の底がたった数センチ動くのを超音波で捉える海底地殻変動の研究も行っています。これらを通してプレートテクトニクスによって力を溜め込んだ地球表面が地震を起こすまでのプロセスの解明をすることを目指しています。

2011年3月11日に発生した東北地方太平洋沖地震は、私たち地震学研究者に大きな衝撃をもたらしました。1995年の兵庫県南部地震以降この十数年で、海溝型地震の様々な規模の分布やその発生周期について、大変多くの事がわかって来ていました。ところが東北沖でその枠組みの中での想定を超えるマグニチュード9の地震が発生したことで、私たちは改めてまだまだ何も判っていないのだということを思い知りました。

大変残念なことですが、しばしば「防災」の根拠とされる「科学」のあいまいさについて、我々自身がよく評価・認識した上で情報発信をしなくてはならないと強く思います。

教員名：石川有三

所 属：客員教授・(独)産業技術総合研究所招聘研究員

2011年東北地方太平洋沖地震の活動を調べ、2グループの前震活動があり震源が本震の位置へ移動していたことを指摘した。

また、1707年宝永地震など過去の巨大地震の規模を再評価し、駿河・南海トラフを含めた日本周辺で将来発生する可能性のある大地震の規模を研究しています。そのための基礎データとして東アジア地域における地震カタログの編集と改善を行うつもりです。また、地震活動解析手法の開発(Seis-PC)も行い、東海地方の地殻活動の特徴を研究しています。

教員名：笠原英男

所 属：客員教授

関心を持っている研究テーマ 2012. 3. 30.

1. 大学と学生が協働する学内の災害に対応する訓練方法の確立
 - ・ 静岡大学は、災害発生時に学生及び教職員の命を守るために様々な対策を考え実施してきている。
 - ・ 静岡大学が災害発生時を想定して、実行しようと考えている災害対応システムでは学生をはじめ多くの命を守ることは困難と考える。
 - ・ 「自助」災害発生時に自分の命を守る行動に具体性を持たせ、安全に避難する方法と被災後の生存行動を学生と教職員に学ばせる。
 - ・ 「協働」マンパワーの不足を補うためには、学生に発生後に大学を守り地域住民を守る行動を学ばせる。
 - ・ 新入生の防災訓練を基点として、全ての学生及び教職員の防災対策意識の向上を図ることが必要である。
2. 地域防災力の向上
 - ・ 「東日本大震災」の教訓を活かし「東海地震等」大規模な自然災害が発生したときに実際に対応が可能なメニューを取り入れた研究と教育。
 - ・ 地域防災力の向上を図るためには、知識（講義）・実践（訓練）想定対応（ワークショップ）を組み合わせた複合的な講座を確立する。
 - ・ 大規模自然災害の発生のメカニズムと、災害に伴って発生する様々な問題の対処方法を学び解決方法を研究する。
 - ・ 地域防災力の向上を図る目標到達点は「避難所運営と地域の経済復興」を具体的に考えて実行できる人材を教育し育てることである。
3. 被災地を支援する
 - ・ 「東日本大震災」発生後、2011年は毎月1回以上のペースで宮城県本吉郡南三陸町字歌津馬場地区の対向支援を実施した。
 - ・ 目的は、被災者にどのような支援が必要か、支援した結果と効果を見極めて、予想されている「東海地震」の発生後の被災地域のなかでどの様に活かすことができるかを研究中。

教員名：風間 聡

所 属：客員教授・東北大学大学院工学研究科教授

気候変動に伴う水災害のハザード，リスクの変化を数値地図で表現することを試みています．特に洪水氾濫と斜面災害について日本国内の被害地図をもとに，適応策について考察しています．水理計算をもとに確率の取り扱いや期待被害額の算出などを利用しており，様々な分野の協力からリスクを評価しています．斜面災害については，タイのハザード，リスクマップの作成を行っています．地形や降雨パターンが日本と異なるので，斜面災害の性質も異なっています．

教員名：片田敏孝

所 属：客員教授・群馬大学大学院工学研究科教授

私は、「人が死なない防災」の実現という究極の目標を掲げ、自然災害による犠牲者ゼロを目指した種々の研究を行っています。

そのような研究理念のもと、2004年からは岩手県釜石市において津波防災の取り組みを立ち上げました。

釜石市では、防潮堤やギネスブックにも載るような湾口防波堤が整備された結果、住民には「防潮堤や防波堤が整備されたからもう大丈夫」といった、自らの命をハード施設や行政に依存しきってしまう意識が生まれ、住民が自らの命を守ることに對する主体的な姿勢を失っていることが、大きな問題となっていました。地域から忘れ去られている「災いをやり過ぎす知恵」、すなわち「災害文化」をよみがえらせ、津波災害から一人の犠牲者も出さない、災害に強いまちを実現するべく、学校の先生方の協力のもと子どもたちへの津波防災教育をしっかりと行い、さらにはそれをきっかけとして子どもたちの親や地域住民への津波防災の波及を進めてきました。それは、10年20年という長い期間をかけて地域に津波防災文化を定着させる、まさに「災害文化醸成プロジェクト」といったものでした。

そのような中、取り組みを始めてから8年目の2011年3月11日、釜石市は東日本大震災の大津波に襲われました。しかし、津波防災教育を受けてきた小中学校の児童・生徒は、学校管理下になかった5名の小中学生が亡くなりましたが、そのほかの約3000人は全員無事に生き延びてくれました。このことを、新聞やテレビの報道は、「釜石の奇跡」と報じました。釜石市の小中学生の被害が最小限に抑えられたことにおいて、これまで取り組んできた津波防災教育については、一定の効果があつたと言えなくもありませんが、犠牲者ゼロが目標との観点からすれば、取り組みは道半ばであり、力及ばずというところでした。釜石市全体では、およそ900の方が亡くなり、現在(2012.3.30)もおよそ150の方が行方不明となっています。

今後におきましては、東海・東南海・南海地震や、北海道沖での500年間隔地震津波の発生が懸念されています。今回の東日本大震災での教訓を踏まえ、早急に沿岸各地に津波防災を展開しなければならないと考えています。

【主な著書】

- 人が死なない防災：集英社新書（2012.3）
- 命を守る教育－3.11釜石からの教訓－：PHP研究所（2012.3）
- みんなを守るいのちの授業－大つなみと釜石の子どもたち－：NHK出版（2012.1）
- 子どもたちに「生き抜く力」を－釜石の事例に学ぶ津波防災教育－：フレーベル館（2012.2）

教員名：近藤昭彦

所 属：客員教授・千葉大学環境リモートセンシング研究センター教授

2011 年度は福島第一原発の事故により広域放射能汚染の被害を受けた福島県に通い、様々な調査を試行した。当初は文科省の調査チームとともに広域の土壌調査に参加していたが、福島県域スケールのマップからは地域の詳細な汚染状況、すなわち暮らしスケールの汚染状況は見えてこない。そこで、7月から自動車を使った走行サーベイを阿武隈山地北部、特に飯舘村、川俣町を中心に行った。その結果、空間線量率(Sv)の分布は空間的に不均一で、土地被覆が変わると不連続に変わることを明らかにした。作成したマップは直ちに飯舘村、川俣町の住民組織にお渡しし、参考にして頂いた。調査の過程で国の行う調査結果が地域まで十分伝わっていないことが明らかとなった。国によるリスク情報の伝達には課題を残したが、それをわずかながらでも補完することができたかも知れない。作成したマップは再来するハザードに備えるためではなく、放射線のリスクとどう向き合ったらよいのか、住民自らが考える資料として使って頂きたいと思うが、地域の意思の決定は地域ごとの事情をくみ取った上で行うべきである。放射能汚染に対する普遍的な対策というものは考えにくい。除染・帰還という目標を地域が持ったら、災害研究者はその目的の達成を共有した上で協働の枠の中に入りたい。2011年度後半からは川俣町山木屋地区で調査活動を行っているが、その目的は詳細な汚染マップの作成である。空間線量率(μ Sv/h)と放射性物質の沈着量(Bq/m²)を地図化するための複数の手法を試行し、手法を確立させることができたので、消雪を待ち、詳細汚染マップ作成のための調査を開始する予定である。

教員名：佐藤博明

所 属：客員教授・神戸大学名誉教授

主に3つの課題について取り組んでいます。

●マグマの粘性係数に関する実験的研究： 一昨年退職して部屋移転で電気炉が使用し辛くなったため、今年度は新たな実験は行わず、従来の実験結果のまとめを行いました。島弧ソレイト、アルカリ玄武岩、中央海嶺玄武岩、ハワイソレイト、ブルカネロシヨシヨナイト等についての実験結果を纏めると、リキダス相の種類・形態によって結晶が粘性に与える影響が異なってくることが判りました。つまり、リキダス相に薄板状の斜長石や長柱状の単斜輝石が晶出する場合には相対粘度がインシュタインーロスコー（ER）式よりも数倍程度大きな値になるのに対して、リキダス相に短柱状のかんらん石が晶出する場合はER式と同じかそれより小さい相対粘度を示します。

●富士火山の噴火様式の多様性に関する研究： 約1万年前に始まった新富士火山は、ほぼ同じ化学組成の玄武岩を中心としたマグマが活動していますが、噴火様式は、1707年宝永、湯船第二噴火等の爆発的噴火もあれば、864年貞観噴火のように大半が溶岩流出の静かな噴火もあり、その違いが何によっているのかは防災上重要であると思われます。今年度は富士の過去3500年の主な噴出物の斜長石と石基組成の関係から斜長石斑晶が晶出した時のマグマの含水量を検討してみました。富士火山のマグマ溜りでの含水量は3～4%と推定されていますが、非爆発的噴火では浅所でのマグマ脱ガスにより含水量が低下して非爆発的になることが予想されます。実際には爆発的な噴火の噴出物はいずれも斑晶晶出段階で含水量は高いことが確かめられましたが、非爆発的噴火の噴出物は含水量が低い場合と高い場合があり、噴火様式がより浅部でのマグマの脱ガス挙動によることが推定されました。

●霧島新燃岳 2011年噴火噴出物の岩石学的検討と火口溶岩のドレインバックに関する検討： 霧島新燃岳 2011年1月～2月の噴火では安山岩質のサブプリニー式噴火(約0.01km³)と引き続く火口を埋める溶岩流出(0.01km³)が生じています。火口を埋めた溶岩からは間欠的にブルカノ式噴火が生じましたが、一方、この溶岩がドレインバックを起してそれに伴うマグマ水蒸気爆発の危険が示唆されていました。火口を埋めた溶岩試料はブルカノ式噴火で放出されたものが入手でき、それらの分析を行いマグマの粘性係数を見積り、ドレインバックの可能性の有無について検討しています。温度は約950℃、ガラスのSiO₂量は72%、結晶量は50-60%であり、含水量0.1-0.2wt%の場合、粘性係数は1.6～32*10⁸ Pa sと見積もられます。単純な重力によるドレインバック速度は、直径10mの火道の場合で0.23-4.7m³/s程度の流量となり、1月では0.6-12*10⁶m³でかなりの量のドレインバックが見込まれます。実際にはこの1年余りドレインバックは殆ど生じませんでした。国土地理院のGPSによる霧島周辺の基線長測量結果を見ると2011年1月の噴火以降、隆起が再開しており、そのため火道圧が減少せずにドレインバックが生じなかったものと考えられます。

教員名：島崎邦彦

所 属：客員教授・東京大学名誉教授

東日本大震災では巨大津波により、多くの人命が失われ、福島第一原子力発電所で重大事故が発生した。なぜこのような津波災害を避けることができなかつたのか？ 地震調査研究推進本部地震調査委員会や中央防災会議日本海溝・千島海溝周辺海溝型地震に関する専門調査会の審議状況、および東京電力福島第一原子力発電所における事故調査・検証委員会『中間報告』に基づいて検討を行っている。

その結果、次の時間経過が判明した。2002年2月に土木学会原子力土木委員会津波評価部会が『原子力発電所の津波評価技術』をとりまとめた。これに基づき同年3月東京電力では福島第一原子力発電所の津波設計水位をO.P.（小名浜港工事基準面）+5.7mと算出、非常用のディーゼル発電機、冷却系海水ポンプの電動機のかさ上げ等の措置を施した。このように安全措置を行ったわずか4ヶ月後、福島第一原子力発電所の沖にも明治三陸地震級の津波地震（揺れは小さいが大きな津波を発生する地震）が発生する可能性を示した『三陸沖から房総沖へかけての地震活動の長期評価について』を地震調査委員会が公表した。明示されてはいないものの、津波研究者の目で見れば、安全とされた津波設計水位O.P.+5.7mが長期評価によって不十分となることは明らかであった。公表にあたってはこの津波地震の評価が問題視され、内閣府の防災担当大臣が地震調査研究推進本部のある文部科学省の文部科学大臣へ申し入れをする等があり、公表直前に前文に新しくパラグラフが加えられた。

その後、評価結果に信頼度A～D（最も低いものがD）を付すこととなったが、2003年3月津波地震について、マグニチュードA、位置および確率Cがつけられた。そのわずか4ヶ月後、内閣府の中央防災会議は日本海溝・千島海溝周辺海溝型地震に関する専門調査会の設置を決めた。そして04年2月の専門調査会第二回会合で、日本海溝沿いのどこでも明治三陸地震級の津波地震が発生するという地震調査委員会の長期評価はとりあげないこととなった。

2006年9月の原子炉施設の耐震設計審査指針の改訂により、東京電力は08年に上記長期評価に基づき「試算」した結果、福島第一原子力発電所では敷地南部で高い津波波高、O.P.+15.7mを得た。11年3月11日の津波も敷地南部の浸水高が高く、最高O.P.+15.5mを記録した。数値の一致は偶然の一致とも言えるが、08年に「試算」に基づく対策を始めれば、重大事故に至らなかつた可能性が高いと思われる。また、3月11日の津波の犠牲者は、中央防災会議専門調査会の津波波高の推定値の2倍、或いはそれ以上の波高の津波に襲われた地域に多く、長期評価に基づく対策が取られていれば、被害は著しく軽減されたであろう。

教員名：鈴木清史

所 属：客員教授・日本赤十字九州国際看護大学

わたしは文化人類学を専攻しています。主に、先進国を舞台にして少数派と多数派とのせめぎあいの中で生じている文化的社会的現象に関心を寄せてきました。そのなかで、あるときに、鉱山開発と先住民というテーマを考えることがありました。鉱山開発による、先住民への健康被害という問題です。これに関連して、いくつかの会議に出席するようになりましたが、そのことがさらなるテーマの拡大をもたらしました。その結果ここ数年ほどは、南アジアの児童を対象にして、健康にまつわる安心・安全教育の可能性を探っています。そして、2010年にはパキスタンの農村で小学校就学児童を対象に教育ゲームを利用し、資料収集を行いました。

こうした国際的活動と並行して、東日本大震災が発生した後、人びとの身の安全に関わるリスク観と、発災後の地域の社会関係について関心をもち、現地のネットワークを活用させてもらい少しずつ調べつつあります。

教員名：武村雅之

所 属：客員教授・名古屋大学減災連携研究センター 寄付部門教授

地震の揺れや津波の高さの予測が次々に出されていますが、現状の地震に関する科学的水準では想定の精度や方針を十分に検討できるところまでもっていないという印象を強く受けます。それらを参考にするのはいいにしても、結果に振り回されないように、これからの地震防災の基本的考え方を、さまざまな分野の垣根を越えて構築してゆくべき時に来ているように思います。

教員名：千木良雅弘

所 属：客員教授・京都大学防災研究所

私は、地すべりや崩壊を地形・地質学的に研究しています。最近では、2009年8月に台湾で発生した小林村の深層崩壊の調査を行い、その様子は翌2010年の6月にNHKから「深層崩壊が日本を襲う」として紹介されました。2011年9月には紀伊山地で台風12号による深層崩壊が多発し、多くの犠牲者を生じました。これらについても現地調査を行い、それらの発生メカニズムを解明するとともに、発生場所予測の見通しを得ました。台湾では今年から5年間の間に全土を航空レーザー計測し、深層崩壊発生場所の抽出を行う計画が始まっていますが、その研究の相談にもなっています。3月には2009年のスマトラパダン地震による崩壊多発地域の調査を行い、それらが2011年の東北地方太平洋沖地震によって発生した白河などの地すべりと酷似していることを予察的に明らかにしています。また、これは1978年の伊豆大島近海地震によって発生した地すべりとも良く似たものでした。

教員名：野津憲治

所 属：客員教授・東京大学名誉教授

平成 23 年度からは，科学研究費助成事業の基盤研究（C）に採択された課題「単成火山のマグマ上昇はマグマ起源揮発性物質の拡散放出から捉えられるか」の研究を新たに始めている。

マグマに溶け込んでいる揮発性物質は，火山ガスとして火山体の山頂火口や山腹の噴気孔から放出している。最近の研究では，目に見える火山ガス以外にも火山体を覆う土壌を通して滲み出していることが分かり，「マグマ揮発性物質の拡散放出」と呼ばれている。マグマ揮発性物質の中で H₂O に次ぐ最多成分の CO₂ の拡散放出は多くの火山で普遍的にみられ，放出量の時間変化は山体直下でのマグマの上昇下降を反映し，面的な分布は将来の噴火場所の推定に役立つと考えられている。現在伊豆半島東部ではマグマの上昇を示す兆候が続いており，1989 年には伊東沖で海底噴火も起きた。この研究はこの地域に特有の単成火山形成をマグマ揮発性物質の拡散放出から捉えようとする初めての研究で，噴火予知の観点からも有用な情報が得られることが期待できる。

平成 23 年度には CO₂ フラックスメータを購入し，マグマ起源揮発性物質の拡散放出の観測研究を，伊豆東部火山群の群発地震多発地域（伊東市東部）において行った。岩脈状のマグマ上昇は伊豆半島沿岸の海域で起きており，観測を重ねた陸域はそこから数 km 離れている。また比較のためにこの地域で 1989 年噴火の 2700 年前に起きた岩ノ山から北ノ山，矢筈山，伊雄山に至る直線上の噴火地域の割れ目を直行する路線で同様の観測を実施した。どちらの地域でも CO₂ の拡散放出量は生物活動に由来するバックグラウンドレベルであり，今の所マグマ起源の拡散放出は見つかっていない。ただし，群発地震活動の起きていない時期の観測であるので，群発地震活動が活発になってきた時にどうなるかは大変に興味を持たれる。

教員名：林 拙郎

所 属：客員教授・三重大学名誉教授

豪雨や地震に伴って発生する土砂災害（主に地すべり・崩壊・土石流による災害）の全般について災害論の立場から研究しています。人工的な構造物と違い自然斜面は、何の補強もされていないので、構造物よりずっと小さい外力（豪雨や地震力）によって、より危険な斜面から破壊が発生していきます。個別の土砂災害は各斜面の不安定性によって決まりますが、その集合体として山地があります。土砂災害の発生場は、襲来する外力の大きさと地山の強度分布にあり、崩壊面積率という考え方が必要と思えます。

ここでは豪雨による土砂災害について述べましょう。豪雨面からいえば、土砂災害からみた日本の山地の土層構造の成り立ちは、最近のゲリラ豪雨（1日以下の短期集中型強雨）や2012年9月の従来型豪雨のそれぞれに対してどのように対応しているのでしょうか。日本の各地には少雨地域と多雨地域があります。少雨地域では多雨地域に比して、わずかな豪雨（総雨量300mm以下）によって土砂災害が発生するのに対して、多雨地域では倍以上の豪雨量（昨年の紀伊半島豪雨では総雨量が1000mmを超えた）が必要となります。これは、それぞれの地域において山地の土層構造が異なるためと考えられますが、まだ、ほとんど明らかになっていません。豪雨による災害に対して、現在、このような視点に立って土砂災害の研究を進めております。

教員名：柄谷友香

所 属：客員准教授・名城大学大学院都市情報学研究科准教授

未曾有の被害をもたらした東日本大震災から半年が過ぎた。私は発災後から壊滅的な被害を受けた陸前高田市に滞在し、被災された方々と過ごし、生活再建に向けて協働してきた。継続的な参与観察を通じて、東日本大震災級の超広域大規模災害においては、必死の行政対応も手一杯の状況で、「行政＝支援する側、被災者＝支援される側」の従来の構図は成立せず、外部からのノウハウの提供など行政対応力の強化だけでは被災者支援につながらない。すなわち、被災者自身がノウハウを学びながら、生活再建に向けて主体性を発揮できる支援のあり方が問われている。今年度の研究成果として、陸前高田市にある被災地区との協働を通じて、避難所から応急仮設住宅への移行に際し、新たなコミュニティの発足と運営に向けて、いつ誰がどのような役割を担い、被災者ひとり一人の自立再建にいかに関与してきたのかを検討してきた。また、参与観察を通じた被災地の実態を踏まえ、被災者の生活再建に向けた今後の課題について整理した。

教員名：秦 康範

所 属：客員准教授・山梨大学

私の強い関心事項は、持続的な地域の安全安心活動をどのように展開していくかということと、災害リスクを長期的にどのように低減させるかです。少子高齢化と急激な人口減少が不可避なわが国において、災害のリスクをいかにして低減させていくかが大変重要だと考えているからです。その一環として、今年度は山梨県をフィールドとして県内の市町村誌を収集するなど、県内の過去の災害記録を収集したり、地域住民のリスクコミュニケーションを支援するツール開発（行政界を超えた次世代の電子防災マップや拡張現実(AR)技術を用いた防災情報の可視化）を進めてきました。2012年度は市、消防団、地域住民を巻き込んだ形でフィージビリティスタディを実施する予定です。

私が所属している山梨大学土木環境工学科では、2011年4月30日に地域防災・マネジメント研究センターを設立しました。ここでは、地域に根ざした研究組織として、教育、研究を通して山梨の防災に貢献することを目的に、発生が切迫している東海地震を見据え、県と連携して山梨の防災対策強化に向けた事業を展開します。当面の2年間は、巨大災害に備えるための4つの重点課題（集落の孤立化対策、災害時インフラネットワーク維持施策、情報システム、防災教育）を中心に取り組んでいます。

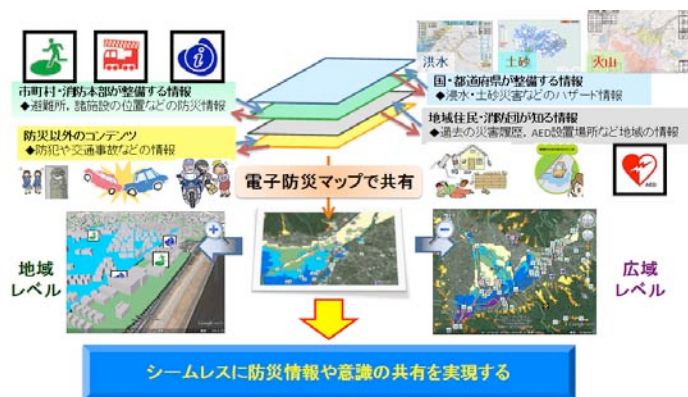


図 2-4 次世代電子防災マップの概念図



図 2-5 拡張現実(AR)技術による防災情報の可視化（笛吹川）

母さんカレーで大やけど! 父さん棚の下敷きに!!



関西大学社会安全学部・静岡大学防災総合センター 林 能成

地震による家具の転倒は、震度6弱程度以上の揺れに見舞われれば必ず起こります。この程度の揺れをもたらす地震は日本中どこでも発生する可能性があります。また被害が発生するのは揺れている最中なので「地震がおきてから考える」では間に合いません。だれもが事前に備え、準備しておくことが重要になってきます。

では、どんな風に対策をとればよいのでしょうか? **写真1**は2006年能登半島地震で発生した室内被害の様子です。いろいろなものが転倒、散乱している様子がわかります。しかし地震前の様子がわからないので、何が対策のポイントなのかを簡単に示すことはできません。

一方、自分の体験に過度にとらわれ

てしまうと地震被害を見誤る危険性もあります。2009年8月に静岡県の駿河湾で起きた地震では静岡県中部のほとんどの場所は震度4から5弱程度の揺れで、めだった被害のない家がほとんどでした。しかし報道が最大震度6弱をくりかえすことによって、自分が経験した揺れも震度6弱だったと勘違いしてしまい、中には「震度6弱でも被害はこの程度なんだ」と思い込んでしまう人がいたのです。つまり最悪の被害を知るだけでは不十分で、揺れの強さの違いによる被害状況の差について具体的なイメージを持つことが重要なのです。

「気象庁震度階級関連解説表」には揺れの強さによる被害の違いが詳しく解説され、パンフレットにはイラストもつけら

れています。ところが気象庁のイラストは震度が大きくなるにつれてインパクトのある被害に視点がうつり、描かれているシーンが次々とかわっています。そのため「震度5強だからこの程度で済んだ、さらに強い揺れになればこんな被害が出る可能性がある」というイメージを持ちにくいと感じました。またイラストに描かれている人物は、困っている様子はありますが、怪我をしたり命の危険にさらされているようには見えません。

そこで場所、時間、人物といった被災前の状況を設定して、揺れの強さによる被害状況の違いを示す一連のイラスト教材を作成しました。イラストには2004年新潟県中越地震や2008年岩手・宮城内陸地震といった近年発生した地震で顕在化した被害もとりいれました。

イラストを描いたのは静岡県内で似顔絵作家として活躍しているたかやまみほさんです。完成品のイラストもさることながら、研究者と画家が協力して作成する試みが地域防災活動の重要な一歩になると考えました。防災を末永く続けるためには顔の見える関係が必要です。

図1は地震が起こる前の様子です。家族構成は夫婦2人、子ども2人、おばあさんの5人です。時間は休日の夕食前で居間に全員が集っています。



写真1 地震による室内被害の様子。

地震防災には、イメージーションが重要。 「震度が違うと、被害はどう変わるか」イラスト教材で学ぼう。

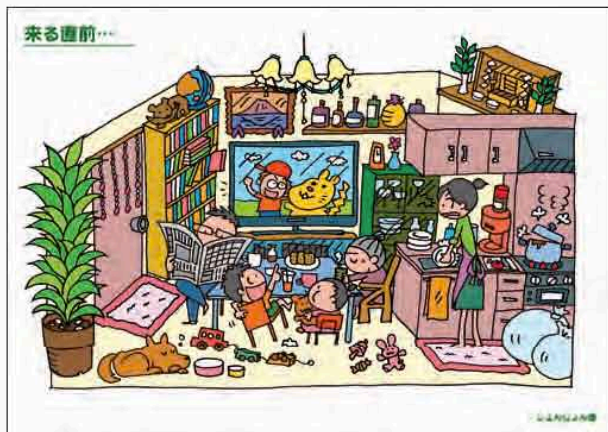


図1 揺れる前の状況。



図3 震度6弱の揺れのあと



図2 震度5強の揺れのあと



図4 震度6強の揺れのあと

地震対策にあまり熱心でない家族という設定なので家具の固定などはしていません。

図2はこの部屋が震度5強の揺れにみまわれたあとです。棚においたものが落ち、本棚の本の一部が落下する被害がみられます。食器棚の食器も一部は落下しています。これが震度6弱になると、被害はかなり大きくなってきます(図3)。本棚は転倒し、その上の置物などは全て落下しています。キッチンでは鍋が転がり落ちました。

図4は震度6強の揺れのあとです。棚は全て転倒し、お父さんはその下敷きになってしまいました。これでは家族を助けることは無理です。薄型テレビは転倒し、おばあさんはその下敷きになってしまいました。キッチンにいたお母さんは無理に火を消そうとして、飛んできた鍋のなかのカレーを体全体にかぶって大やけどです。さらに天袋からフライパンが落下して直撃しています。観葉植物も倒れてドアをふさいでしまいました。

震度6弱を描いた図3と震度6強を描いた図4を比べると被害が格段に大きくなっているのが一目瞭然です。実際、近年の日本各地で発生した地震被害を見ると、震度6強以上で室内の被害がめだって大きくなるようです。なお、この上に震度7を描いたものがあります。興味のある方はイラストレーターかやまみほさんのホームページをごらんください(※1)。

※1
<http://jonigao.jugem.jp/?day=20111015>

2.2 研究業績リスト

2.2.1 著書

- 伯野元彦監修:日本の自然災害 M8.0 大地震襲来—日本は・家族は・住居は, 日本専門図書出版, 2010 (武村雅之が分担執筆).
- 林 勲男 編著:みんなく実践人類学シリーズ 9 自然災害と復興支援, 明石書店, 2010, (柄谷友香が pp.127-154 第 6 章担当).
- 五十嵐敬喜・西村幸夫 編著:地形・地質から見た南アルプスの特質 私たちの世界遺産 3 世界遺産登録・最新事情 長崎・南アルプス, 公人の友社, 2010, (狩野謙一が pp.109-114 を執筆).
- 池谷仙之 監修:しずおか自然史, 静岡新聞社, 2010, (狩野謙一が pp.16-17 を執筆).
- Johansen, B. E., 平松 紘(監訳):世界の先住民環境問題事典, 明石書店, 2010, (鈴木清史が翻訳協力).
- 関西大学 社会安全学部 編:「検証東日本大震災」, ミネルヴァ書房, 2011, (林 能成が p.35-52, 第 1 章 地震のメカニズムと特性—緊急地震速報と新幹線早期警報システム—を執筆).
- 片田敏孝:3.11 が教えてくれた防災の本シリーズ, かもがわ出版, 2011, (監修).
- 片田敏孝:みんなを守るいのちの授業—大つなみと釜石の子どもたち—, NHK 出版, 2012.
- 片田敏孝:子どもたちに「生き抜く力」を—釜石の事例に学ぶ津波防災教育—, フレーベル館, 2012.
- 片田敏孝:人が死なない防災, 集英社新書, 2012.
- 片田敏孝:命を守る教育—3.11 釜石からの教訓—, PHP 研究所, 2012.
- 加藤詔士・吉川卓治 編著, カント『教育学』翻訳考『西洋世界と日本の近代化—教育文化交流史序説—』, 大学教育出版, 2010 年 5 月, (藤井基貴が pp.2-21 を執筆).
- 川上紳一・藤井直之:現代地球科学, (財)放送大学教育振興会, 2011 年 3 月, (藤井直之が 第 1、4、13、14、15 章担当).
- 風間聡:水文学, コロナ社, 165p, 2011.10.
- 北原糸子編:写真集 関東大震災 東京・横浜・被害と復興, 吉川弘文館, 2010 (武村雅之が分担執筆).
- 公益社団法人日本河川協会編:「行政支援」を「行政サービス」に変えるための自助・共助・公助の役割—2006 年 7 月鹿児島県北部豪雨災害を事例として—, 防災を考える—水・土砂災害適応策の深化に向けて—, 技報堂出版, 2012, (柄谷友香が pp.79-121 第 3 章担当).
- 小坂和夫他編著:日本の断層マップ, 培風館, 2011. (千木良雅弘が共同執筆)
- 小山真人:伊豆の大地の物語, 静岡新聞社, 2010.
- 小山真人:火山がつくった天城の風景-伊豆東部火山群 (南西部) のジオマップ-, 静岡新聞,

- 社, 2010.
- 京都大学防災研究所 監修:自然災害と防災の辞典, 丸善出版, 2011, (千木良雅弘が pp.114-116 を執筆).
- 真野明・田中仁・風間聡・梅田信:水理学入門, 共立出版, 189p, 2010.12.
- 村越真:山岳読図大全, 山と溪谷社, 2011.
- 村越真・小泉成行:山岳ナビゲーション, エイ出版, 2011.
- 日本応用地質学会:原典からみる応用地質学—その論理と実用—, 古今書院, 2011, (千木良雅弘が pp.73-101 を執筆).
- 野津憲治:宇宙・地球化学, 朝倉書店, 2010.
- 災害対策全書編集企画委員会:災害対策全書, ぎょうせい, 2011, (片田敏孝が ①災害概論: 2.5 伊勢湾台風, 2.15 東海豪雨と近年の都市型水害/②応急対応:3 緊急災害情報の伝達を執筆).
- 災害対策全書編集企画委員会:災害対策全書 1 災害概論, ぎょうせい, 2011, (小山真人が pp.140-143 「富士山宝永噴火」を執筆).
- 災害対策全書編集企画委員会:災害対策全書 1 災害概論, ぎょうせい, 2011, (千木良雅弘が pp.62-65 を執筆).
- 災害対策全書編集企画委員会:災害対策全書 1 災害概論, ぎょうせい, 2011, (牛山素行が pp.216-219 を執筆).
- 島崎邦彦・西澤邦秀・野田利弘・中林一樹:被害から復興へ 3.11 東日本大震災, 名古屋大学対策室, 2012, (東日本大震災の発生予測をめぐる諸問題).
- 社団法人 全国地質調査業協会連合会・特定非営利活動法人 地質情報整備・活用機構:日本列島ジオサイト地質百選 II, オーム社, 2010, (小山真人が pp.86-87, 「大室山」を執筆).
- 社団法人日本地すべり学会:地震地すべり, 社団法人日本地すべり学会, 2012, (千木良雅弘が p03-110 を執筆).
- 武村雅之・首藤伸夫編著:災害史に学ぶ 「海溝型地震・津波編」, 中央防災会議災害教訓の継承に関する専門調査会, 2011
- 武村雅之:関東大震災を歩く—現代に残る災害の記憶, 吉川弘文館, 2012, (2月27日出版予定).
- 土 隆一 編著:新版 静岡県 地学のガイド —静岡県の地質とその生い立ち—(地学のガイドシリーズ 24), コロナ社, 2010, (狩野謙一が pp.105-124 を執筆).
- 中央防災会議 災害教訓の継承に関する専門調査会・災害史に学ぶ内陸直下型地震 編:「1945 三河地震」, 中央防災会議, 2011, (林 能成が pp.49-56 を執筆).
- 中央防災会議「災害教訓の継承に関する専門調査会」:災害史に学ぶ (火山編), 内閣府 (防災担当), 2011, (小山真人が pp.1-14, 「1707 富士山宝永噴火」を執筆).
- 図上演習研究会編:図上演習入門, 内外出版, 2011, (秦 康範が pp. 173-180 および pp.235-241 を執筆).

2.2.2 学術論文

- Al-Hanbali, A., Bayan Alsaadeh, Akihiko Kondoh: Using GIS-Based Weighted Linear Combination Analysis and Remote Sensing Techniques to Select Optimum Solid Waste Disposal Sites within Mafraq City, Jordan, *Journal of Geographic Information System*, Vol.3, pp.267-278, 2010.
- 天野文子・佐久間太佑・風間聡, 水理氾濫モデルと現地患者数を用いた水系感染症リスクの時空間分布, *水工学論文集*, 第55巻, pp.S643-S648, 2011年3月.
- 千木良雅弘・中筋章人・藤原伸也・坂上雅之:2011年東北地方太平洋沖地震による降下火砕物の崩壊性地すべり, *応用地質*, 52, pp.222-230, 2012.
- Chigira, M.: Geological and geomorphological characteristics of deep-seated catastrophic landslides induced by earthquakes, *Journal of Chinese Soil and Water Conservation*, 42, pp.265-278, 2011.
- Chigira, M., Wu, X., Inokuchi, T., and Wang, G.: Landslides induced by the 2008 Wenchuan earthquake, Sichuan, China. *Geomorphology*, 118, pp.225-238, 2010.
- 藤井基貴:カントにおける『教育学』/教育学におけるカント, 静岡大学教育学部研究報告(人文・社会・自然科学編), 静岡大学教育学部編, pp.105-114, 2012年3月.
- 藤井基貴・生澤繁樹:道徳教育の授業開発に関する実践的研究 ―郷土資料の開発とシティズンシップ教育の課題―, 『静岡大学教育実践総合センター紀要』静岡大学教育学部附属実践センター編, 18号, 2012年3月。(印刷中)
- 藤井基貴・高木宏康・加藤弘通:小学校教師の校内研修に対する認識, 『静岡大学教育実践総合センター紀要』静岡大学教育学部附属実践センター編, 18号, 2012年3月。(印刷中)
- Fujii, N, and M. Kumazawa, Detection of Transient Phenomena Due to Active Scatterers, pp. 93-103, In J.Kasahara, V.Korneev, and M.Zhdanov (eds.) *Active Geophysical Monitoring*, vol. 40. *Handbook of Geophysical Exploration: Seismic Exploration*, Elsevier, 2010.
- 秦 康範・近藤伸也・目黒公郎・大原美保・座間信作・遠藤 真・小林啓二・鈴木猛康・野田五十樹・下羅弘樹・竹内郁雄・小林悟史・荒川淳平・吉本健一:首都直下地震における情報連携デモンストレーションの実施, *土木学会論文集 F5(土木技術者実践)*, Vol.67, No.1, 2011.
- 秦 康範:東日本大震災の特徴と我が国の地震リスクの現状, *監査研究*, No.448, pp.12-18, 2011.
- Hao, D. M., Tomokazu Tashiro, Miharuru Kato, Rumi Sohrin, Chie Katsuyama, Kazuyo Nagaosa, Hiroyuki Kimura and Kenji Kato: Population dynamics of Crenarchaeota and Euryarchaeota in the mixing front of river and marine waters: *Microbes and Environments* Vol.25, No.2, pp.126-132, 2010.
- 原 朗 編:高度成長始動期の日本経済, 日本経済評論社, 2010年6月,(寺村泰が pp.225-253

- を執筆).
- 原 朗・石井寛治・武田晴人 編:日本経済史 第5巻, 東京大学出版会, 2010年9月, (寺村泰が pp.261-269 を執筆).
- 原田一平・松村朋子・原慶太郎・近藤昭彦:近代化の過程における日本の森林変遷に関する空間解析, 景観生態学, Vol.16, No.1, pp.17-32, 2011.
- 原田賢治・今井健太郎・Tran The Ahne・藤木悦史:津波斜面遡上による陸域での堆積砂形成に関する水理実験, 土木学会論文集 B2(海岸工学), Vol.67, No.2, I_251-I_255, 2011.
- 林 拙郎・荒木敏行・山田 孝・沼本晋也:2007年能登半島地震による斜面崩壊の発生要因, 砂防学会誌, Vol.63, No.3, pp.19-26, 2010.
- 林 拙郎・山田 孝:シリーズ「近年の土砂災害」一岐阜県八百津町の豪雨による土砂災害一, 水利科学, Vol.55, No.3, pp.74-82, 2011.
- 林拙郎・荒木敏行・山田孝・沼本晋也:地震による崩壊斜面の面積率に関する研究一2007年能登半島地震を例にして一, 砂防学会誌, Vol.64, No.3, pp.21-27, 2011.
- 林 能成:東日本大震災における鉄道の避難誘導, 社会安全学研究, Vol.2, pp.36-37, 2012.
- Higashi, R., Akira Tsukagoshi, Hiroyuki Kimura and Kenji Kato: Male dimorphism in a new interstitial species of the genus *Microloxoconcha* (Podocopida: Ostracoda), *Journal of Crustacean Biology* Vol31, No.1, pp.142-152, 2011.
- 平石成美・千木良雅弘:紀伊山地中央部における谷中谷の形成と山体重力変形の発生, 地形, 32, pp.389-409, 2011.
- 蛭間芳樹・秦 康範・目黒公郎・近藤伸也:新潟県庁の危機管理における環境適応と組織能力の「カイゼン」一2004年新潟県中越地震と2007年新潟県中越沖地震の事例から一, 地域安全学会論文集, No.14, 2011.
- 飯村耕介・田中規夫・原田賢治・谷本 勝利:樹林密度の異なる植生帯を組み合わせたときの津波軽減効果に関する研究, 土木学会論文集 B2(海岸工学), Vol. 66, No. 1, pp.281-285, 2010.
- Ikehata, K., Yasuda, A., and Notsu, K., The geochemistry of volatile species in melt inclusions and sulfide minerals from Izu-Oshima volcano, Japan, *Mineralogy And Petrology*, Vol.99, pp.143-152, 2010.
- Ikehata, K., K. Notsu and T. Hirata, Copper isotopic characteristics of copper-rich minerals from Besshi-type volcanogenetic massive sulfide deposits, Japan, determined using a femtosecond LA-MC-ICP-MS, *Economic Geology*, Vol.106, pp.307-316, 2011.
- Ishibe, T., K. Shimazaki, H. Tsuruoka, Y. Yamanaka, and K. Satake, Correlation between Coulomb stress changes imparted by large historical strike-slip earthquakes and current seismicity in Japan, *Earth Planets Space*, 63, pp.301-314, 2011.
- Ishibe, T., K. Shimazaki, K. Satake, H. Tsuruoka: Change in seismicity beneath Tokyo

- metropolitan area due to the 2011 off the Pacific Coast of Tohoku Earthquake, *Earth Planets Space.*, 63, pp.731-735, 2011.
- 石川有三:東北地方太平洋沖地震の概要, *情報地質*, Vol.22, No.3, pp.143-147, 2011.
- 金井昌信・島 晃一・児玉 真・片田敏孝:洪水避難に関する行動指南情報のメタ・メッセージ効果の検討, *災害情報学会誌*, No.9, pp.161-171, 2011.
- 金井昌信・片田敏孝:津波襲来時の住民避難を誘発する社会対応の検討ー2010年チリ地震津波の避難実態からー, *災害情報学会誌*, No.9, pp.103-113, 2011.
- 神田克久・武村雅之:1900年以降の宮城県北部の内陸地震の震度による短周期地震波発生域と地震規模の推定, *歴史地震*, 25, pp.63-74, 2010.
- 神田克久・武村雅之:震度データによる1914年秋田仙北地震の短周期地震波発生域と地震規模の推定および1896年陸羽地震との比較, *地震(第2輯)*, 63, pp.207-221, 2011.
- Kamiya, N., Tsunomori, F., Kagi, H. and Notsu, K., Dynamic light scattering study of the inhibiting effect on crystal growth of calcium carbonate, *Bull. Chem. Soc. Japan*, Vol.84, pp.344-348, 2011.
- 柄谷友香・高島正典:水害後の訴訟回避に向けた地域リーダーの対応と役割ー行政と住民をつなぐコミュニケーション・ルールの検討ー, 『*地域安全学会論文集*』, No.13, pp.471-479, 2010.
- Kasahara, J., K. Tsuruga, Y. Hasada, T. Kunitomo, R. Ikuta, T. Watanabe, K. Yamaoka, N. Fujii, and M. Kumazawa, Detection and Continuous Monitoring of Strong Seismic Reflectors at the Subducting Philippine Sea Plate using ACROSS Methodology, pp. 435-447, In J.Kasahara, V.Korneev, and M.Zhdanov (eds.) *Active Geophysical Monitoring*, vol. 40. *Handbook of Geophysical Exploration: Seismic Exploration*, Elsevier, 2010.
- 柏俊輔・朝岡良浩・風間聡, 積雪深データ同化による融雪出水解析, *水工学論文集*, 第55巻, pp.S403-S408, 2011年3月.
- 片田敏孝・金井昌信・細井教平・桑沢敬行:希望者参加型の防災実践の限界ー津波避難個別相談会の実施を通じてー, *土木学会論文集 F5(土木技術者実践)*, Vol.67, No.1, pp.1-13, 2011.
- 片田敏孝・金井昌信・児玉 真・及川 康:防災ワークショップを通じた大規模氾濫時における緊急避難体制の確立, *土木学会論文集 F5(土木技術者実践)*, Vol.67, No.1, pp.14-22, 2011.
- 片田敏孝・及川康・木村秀治:情報提供戦略の違いがダムの社会的イメージに及ぼす影響, *土木学会論文集 F5(土木技術者実践)*, Vol.67, No.1, pp.23-31, 2011.
- 片田敏孝・木下 猛・金井昌信:住民の防災対応に関する行政依存意識が防災行動に与える影響, *災害情報学会誌*, No.9, pp.114-126, 2011.
- Kato, A., T. Iidaka, R. Ikuta, Y. Yoshida, K. Katsumata, T. Iwasaki, S. Sakai, C.

- Thurber, N. Tsumura, K. Yamaoka, T. Watanabe, T. Kunitomo, F. Yamazaki, M. Okubo, S. Suzuki and N. Hirata, Variations of fluid pressure within the subducting oceanic crust and slow earthquakes, *Geophysical Research Letters*, Vol.37, L14310, doi:10.1029/2010GL043723, 2010.
- Kimura, H., Robert Young, Asuncion Martinez and Edward F. DeLong: Light-induced transcriptional responses associated with proteorhodopsin-enhanced growth in a marine flavobacterium, *The ISME Journal*, Vol.5, No.10, pp.1641-1651, 2011.
- Kimura, H., Kousuke Mori, Hiroaki Nashimoto, Satoshi Hanada and Kenji Kato: In situ biomass production of hot spring sulfur-turf microbial mat, *Microbes and Environments*, Vol.25, No.2, pp.140-143, 2010.
- Kimura, H., Hiroaki Nashimoto, Mikio Shimizu, Shohei Hattori, Keita Yamada, Keisuke Koba, Naohiro Yoshida and Kenji Kato: Microbial methane production in deep aquifer associated with the accretionary prism in Southwest Japan, *The ISME Journal*, Vol.4, pp.531-541, 2010.
- Kimura, H., Kousuke Mori, Hiroaki Nashimoto, Shohei Hattori, Keita Yamada, Keisuke Koba, Naohiro Yoshida and Kenji Kato: Biomass production and energy source of thermophiles in a Japanese alkaline geothermal pool, *Environmental Microbiology*, Vol.12, No.2, pp.480-489, 2010.
- Kimura, H., Kousuke Mori, Tomokazu Tashiro, Kenji Kato, Toshiro Yamanaka, Jun-ichiro Ishibashi and Satoshi Hanada: Culture-independent estimation of optimal and maximum growth temperatures of archaea in subsurface habitats based on the G+C content in 16S rRNA gene sequences, *Geomicrobiology Journal*, Vol.27, pp.114-122, 2010.
- 北村晃寿・藤原 治・小林小夏・赤池史帆・玉置周子・増田拓朗・浦野雪峰・小倉一輝・北村賀子・増田俊明:静岡県静岡平野南東部における完新統のボーリングコアによる遡上した津波堆積物の調査(速報), *静岡大学地球科学研究報告*, 38, pp.3-19, 2011.
- 北村晃寿・若山典央, 宮城県仙台平野大沼周辺における遡上した津波堆積物の調査. *静岡大学地球科学研究報告*, 38, pp.1-2, 2011.
- 小山真人・村越 真・上西智紀:ジオパークのガイド養成過程における大地の成り立ちの理解とその価値への気付きー伊豆半島在住の高校生に対するケーススタディー, *静岡大学教育実践総合センター紀要*, No.19, pp.11-18, 2011.
- 小山真人・村越 真・上西智紀:ジオパークのガイド養成過程における大地の成り立ちの理解とその価値への気付きー伊豆半島在住の高校生に対するケーススタディー, *静岡大学教育実践総合センター紀要*, No.19, pp.11-18, 2011.
- 李 海蘭・近藤昭彦・沈 彦俊:衛星リモートセンシングによる中国三江平原の水田面積の変化に関する研究, *水文・水資源学会誌*, Vol.24, No.6, pp.328-336, 2011.

- Masuda, T., Miyake, T., Enami, M., Ultra-high residual compressive stress (>2 G Pa) in a very small volume (<1 μm^3) of indented quartz, *American Mineralogist*, **96**, 283-287, 2011.
- Masuda, T., Miyake, T., Kimura, N., Okamoto, A., 2011, Application of the microboudin method to palaeodifferential stress analysis of deformed impure marbles from Syros, Greece: Implications for grain-size and calcite-twin palaeopiezometers, *Journal of Structural Geology*, **33**, 20-31, 2011.
- 松富英夫・原田賢治・A. Bagyo WIDAGDO・Subandono DIPOSAPTONO:Casuarina の倒伏・抜根条件と 2010 年 Mentawai 地震津波でのその検証, 土木学会論文集 B2 (海岸工学), Vol.67, No.2, I_301-I_305, 2011.
- 松富英夫・原田賢治・小笠原敏記・片岡俊一:2010 年チリ地震津波の諸相, 土木学会論文集 B2 (海岸工学), Vol.67, No.2, I_291-I_295, 2011.
- 松富英夫・原田賢治・Aloysius Bagyo Widagdo : 海岸樹木の倒伏, 抜根, 折損に関する現地試験ーインドネシアの Casuarina を例にー, 東北地域災害科学研究, Vol.47, pp.69-76, 2011.
- 松富英夫・原田賢治・Subandono Diposaptono:2010 年 Mentawai 地震津波と海岸樹木の被害形態, 東北地域災害科学研究, Vol.47, pp.77-82, 2011.
- 松富英夫・原田賢治・小笠原敏記・片岡俊一 : 2010 年チリ地震津波の諸相, 東北地域災害科学研究, Vol.47, pp.83-88, 2011.
- 松富英夫・原田賢治:建物周りの津波痕跡分布とその活用 - 2009 年サモア地震津波を例に -, 土木学会論文集 B2 (海岸工学), Vol. 66, No. 1, pp.271-275, 2010.
- Mikada, H., J. Kasahara, N. Fujii and M. Kumazawa, Active Monitoring using Submarine Cables - Leveraging Offshore Cabled Observatory for Passive Monitoring, pp. 463-472, In J.Kasahara, V.Korneev, and M.Zhdanov (eds.) Active Geophysical Monitoring, vol. 40. Handbook of Geophysical Exploration: Seismic Exploration, Elsevier, 2010.
- Mimura, N., Kazuya Yasuhara, Seiki Kawagoe, Hiromune Yokoki and So Kazama, Damage from the Great East Japan Earthquake and Tsunami - A quick report, Mitigation and Adaptation Strategies for Global Change, Vol.16, No.7, pp.803-818, Jun 2011.
- 村越 真・小山真人・上西智紀:ジオパークでの地形・地質学的特徴把握を促進する地図表現の検討ー赤色立体地図を事例としてー, 地図, Vol.49, pp.17-27, 2011.
- 村越 真・小山真人・大石勝博・岩田孝仁:退避タイミングの教示とイメージトレーニングの地震時退避行動への効果:緊急地震速報の有無による比較, 災害情報, No.9, pp.94-102, 2011.
- 村越真:2007 年本州中部における登山目的による山岳遭難の実態, 体育学研究, Vol.55, No.1,

- pp.177-191, 2010.
- 村越真・小山真人・大石勝博・岩田孝仁: 退避タイミングの教示とイメージトレーニングの地震時退避行動への効果 緊急地震速報の有無による比較, 災害情報, No.9, pp.94-102, 2011.
- 村越 真・山本祐一:校内ハザードマップ作成による学習者の危険認知スキルへの効果, 静岡大学教育実践総合センター紀要、No.19, pp.103-111, 2011.
- 村越 真・小山真人・上西智紀:ジオパークでの地形・地質学的特徴把握を促進する地図表現の検討ー赤色立体地図を事例としてー, 地図, Vol.49, No.3, pp.17-27, 2011.
- 村澤直樹・片田敏孝:漁民の津波沖出し行動の適正化支援を介した地域の津波防災への波及展開ー防災無関心層へのコミュニケーション・チャンネル開拓の試みー, 災害情報学会誌, No.9, pp.148-160, 2011.
- 中川和之:足元のローカルを楽しみながら備える「ジオパーク」で進む地域文化としての防災, 自然災害科学, Vol.29, No.3, pp.337-343, 2010.
- Notsu, K., and Mori, T., Chemical monitoring of volcanic gas using remote FT-IR spectroscopy at several active volcanoes in Japan, Applied Geochemistry, Vol.25, pp.505-512, 2010.
- 沼本晋也・林拙郎・河井 智・野々田稔郎:裸地化した林床における強度間伐の影響, 水利科学, Vol.54, No.6, pp.84-106, 2011.
- 沼田宗純・秦 康範・大原美保・目黒公郎:広域災害医療情報を共有するための IT トリアージシステム(TRACY)の開発, 土木学会論文集 F5 (土木技術者実践), Vol.67, No.1, pp.67-77, 2011.
- NUMADA, M., Yasunori HADA, Miho OHARA, Kimiro MEGURO: “DEVELOPMENT OF IT TRIAGE SYSTEM (TRACY) TO SHARE REGIONAL DISASTER MEDICAL INFORMATION” , 8CUEE CONFERENCE PROCEEDINGS, 8th International Conference on Urban Earthquake Engineering, 2011.
- Ohira, W., K Honda and K. Harada: Reduction of tsunami inundation by coastal forests in Yogyakarta, Indonesia: a numerical study, Natural Hazards and Earth System Sciences, Vol.12, pp.85-95, 2012.
- 及川康・Keerati SRIPRAMAI・渡邊寛・片田敏孝:延焼リスク低減のための地域防災力の内発的向上方策に関する考察, 社会技術研究論文集, Vol.8, pp.91-100, 2011.
- 奥村与志弘・原田賢治・河田恵昭:2009年サモア諸島沖地震津波における住民の避難行動特性とその後の変化ー米領サモア現地調査を踏まえてー, 土木学会論文集 B2(海岸工学), Vol. 66, No.1, pp.1371-1375, 2010.
- Ono, K., S. Kazama and S. Kawagoe, Analysis of the risk distribution of slope failure in Thailand by the use of GIS data, Environmental Hydraulics, Vol.2, pp.1189-1194, Jun 2010.

- Ono, K., and So Kazama, Analysis of extreme daily rainfall in southeast Asia with a gridded daily rainfall data set, *Hydro-climatology: Variability and Change*, IAHS Publication 344, pp.169-175, Jun 2011.
- 小野桂介・風間聡, 東南アジア熱帯地域における降雨極値の空間解析, *水工学論文集*, 第55巻, pp.S283-S288, 2011年3月.
- Ono, K., T. Akimoto, L. N. Gunawardhana, S. Kazama, and S. Kawagoe, Distributed specific sediment yield estimations in Japan attributed to extreme-rainfall-induced slope failures under a changing climate, *Hydrology and Earth System Science*, Vol.15, pp.197-207, January 2011.
- 大山勲・秦 康範・鈴木猛康・佐々木邦明・三井あゆみ:地震災害を対象とした住民・行政協働による地域防災力向上に関する取り組み, *土木学会論文集 F5 (土木技術者実践)*, Vol.67, No.2, pp.116-129, 2011.
- Pérez, N. M., Hernández, P. A., Padilla, G., Nolasco, D., Barrancos, J., Melian, G., Padrón, E., Dionis, S., Calvo, D., Rodríguez, F., Notsu, K., Mori, T., Kusakabe, M., Arpa, M. C., Reniva, P. and Ibarra, M., Global CO₂ emission from volcanic lakes, *Geology*, Vol.39, pp.235-238, 2011.
- 佐々木邦明・飯島陽介・鈴木猛康・大山勲・秦 康範:ワークショップの運営支援のためのテキスト分析 防災まちあるきワークショップを対象として, *土木学会論文集 F4 特集号*, 2010.
- 佐々木邦明・望月裕子・鈴木猛康・秦 康範:水害に対する備えと意識に対する行動プラン作成依頼の効果分析, *土木計画学研究・論文集*, Vol.27, No.2, pp.337-343, 2010.
- Shimazaki, K., H. K. Kim, T. Chiba, and K. Satake: Geological evidence of recurrent great Kanto earthquakes at the Miura Peninsula, Japan, *J. Geophys. Res.*, 116, B12408, doi:10.1029/2011JB008693, 2011.
- SRIPRAMAI, K., Yasushi OIKAWA, Hiroshi WATANABE and Toshitaka KATADA: A STUDY ON A COOPERATIVE RELATIONSHIP TO THE IMPROVEMENT OF THE REGIONAL FIRE FIGHTING VALIDITY-Case Study in Bangkok, Thailand, *土木学会論文集 F5 (土木技術者実践)*, Vol.67, No.1, pp.55-66, 2011.
- 末岡 茂・Kohn, B.P.・池田安隆・狩野謙一・堤 浩之・田上高広:低温領域の熱年代学的手法に基づいた赤石山脈の隆起・削剥史の解明, *地学雑誌*, Vol.120, No.6, pp.1003-1012, 2011.
- Suppasri, A., Erick Mas, Shunichi Koshimura, Kentaro Imai, Kenji Harada and Fumihiko Imamura: Developing Tsunami Fragility Curves from The Surveyed Data of The 2011 Great East Japan Tsunami in Sendai and Ishinomaki Plains, *Coastal Engineering Journal*, (accepted).
- 鈴木清史:危機情報共有手法としての APELL の検討, 『アジア研究』(Asian Studies) 静岡

- 大学人文学部, pp. 33-41, 2011.
- 鈴木清史:安心・安全教育ツール開発の手がかりを求めて、『アジア研究』(Asian Studies) 静岡大学人文学部, pp. 141-148, 2011.
- 鈴木清史:農村開発を通じた村おこしの試み — パキスタン・イスラム共和国パンジャブ州の村の事例から —, 平成 21 年度『グローバル化のなかでのアジアの環境と生活文化』静岡大学人文学部・農学部, pp.3-16, 2010.
- 鈴木清史・吉川肇子・村尾 智:地域リスク問題をともに考える住民参加型プログラムの開発: スモール・スケール・マイナーの事例, 『日本リスク研究学会誌』, Vol.20, No.1, pp. 41-48, 2010.
- 鈴木清史:オーストラリアの戸惑い—2つの巨大貿易国のはざまで—, 『アジア研究』(Asian Studies) 静岡大学人文学部, No.5, pp.53-64, 2010.
- 鈴木清史:うつろうパートナー: オーストラリアから見た中国と日本, シンポジウム「日本とアジアの相互の照射—近代日本とアジアはお互いをどのように捉えてきたか—」抄録, pp. 47-52, 2010.
- 鈴木猛康・大山勲・秦 康範・小俣昌樹:地域 SNS 減災情報システムへの世帯個人情報登録, 地域安全学会論文集, No.12, pp.443-452, 2010.
- 鈴木猛康・秦 康範・目黒公郎・沼田宗純・野田五十樹, 下羅弘樹:住民, 行政, 病院の情報システム連携による安否確認の試み, 安全問題研究論文集, Vol.5, pp.31-36, 2010.
- 鈴木猛康・秦 康範・佐々木邦明・大山 勲:住民・行政協働による減災活動を支援する情報共有システムの開発と適用, 災害情報, No.9, pp.46-59, 2011.
- 武村雅之・高橋裕幸・津村建四朗:1914(大正 3)年秋田仙北地震の被害データと震度分布, 歴史地震, 25, pp.1-27, 2010.
- 武村雅之・篠原憲一:神奈川県平塚市での関東大震災の跡-慰霊碑巡礼の記録, 歴史地震, 25, pp.91-100, 2010.
- 武村雅之:神奈川県秦野市での関東大震災の跡—さまざまな被害の記憶, 歴史地震, 26, pp.1-13, 2011.
- 武村雅之:『震災予防調査会報告』第 100 号の今日的意義, 首都圏形成史研究, 創刊号, pp.55-76, 2012.
- 寺村泰:戦後北米向け陶磁器輸出における輸出カルテルの実態—1954 年のバンブーチャイナ問題を事例として—, 静岡大学『経済研究』, 第 15 巻, 4 号, pp. 13-29, 2011 年 2 月.
- THUY N. B.・谷本勝利・田中規夫・原田賢治・飯村耕介:海岸樹林端部付近における樹木(アダン)に働く津波曲げモーメント, 土木学会論文集 B2 (海岸工学), Vol. 66, No. 1, pp.276-280, 2010.
- 富田孝史・有川太郎・熊谷兼太郎・松富英夫・原田賢治・Subandono Diposaptono:2010 年 Mentawai 地震津波の現地被害調査, 土木学会論文集 B2 (海岸工学), Vol.67, No.2,

- I_1281-I_1285, 2011.
- Triyoso,W., and K.Shimazaki: Testing various seismic potential models for hazard estimation against a historical earthquake catalog in Japan, *Earth Planets Space*, 63, pp.1-9, 2011.
- Tsou, C.-Y., Feng, Z.-Y., and Chigira, M.: Catastrophic landslide induced by Typhoon Morakot, Shiaolin, Taiwan, *Geomorphology*, 127, pp.166-178, 2012.
- Tsuchiya, S. and Imaizumi. F.: Large sediment movement caused by the catastrophic Ohya-kuzure landslide, *Journal of disaster research*, Vol.5, No.3, pp.257-263, 2010
- Tsuchiya, S.: Large (March 26, 2004) landslide on Sulawesi island, Indonesia, and its stability analysis, *Horizons in earth science research*, Vol.3, pp.229-243, May 2011.
- Tsunematsu, N., Hiroaki Kuze, Tomonori Sato, Masamitsu Hayasaki, Feifei Cui, Akihiko Kondoh: Potential impact of spatial patterns of future atmospheric warming on Asian dust emission, *Atmospheric Environment*, Vol.45, pp.6682-6695, 2011.
- 牛山素行・片田敏孝:2009年8月佐用豪雨災害の教訓と課題, *自然災害科学*, Vol.29, No.2, pp.205-218, 2010.
- 牛山素行・高柳夕芳:2004~2009年の豪雨災害による死者・行方不明者の特徴, *自然災害科学*, Vol.29, No.3, pp.355-364, 2010.
- 牛山素行:「ゲリラ豪雨」と災害の関係について, *水工学論文集*, No.55, pp.505-510, 2011.
- 太田好乃・牛山素行:2008年の調査にもとづく市町村における豪雨防災情報活用の課題, *自然災害科学*, Vol.30, No.1, pp.81-92, 2011.
- 牛山素行・高柳夕芳・横幕早季:年齢別にみた近年の豪雨災害による犠牲者の特徴, *自然災害科学*, Vol.30, No.3, pp.349-357, 2011.
- 牛山素行・横幕早季・貝沼征嗣:2010年9月8日静岡県小山町豪雨災害における避難行動の検証, *水工学論文集*, No.56, pp.1093-1098, 2012.
- 牛山素行・横幕早季:平成23年7月新潟・福島豪雨による災害の特徴, *自然災害科学*, Vol.30, No.4, pp.455-462, 2012.
- 牛山素行・野田敦夫:2010年2月28日チリ地震津波の際の避難行動に関する調査速報, *津波工学研究報告*, No.27, pp.73-82, 2010.
- 牛山素行:シンポジウム 水の知の最前線 襲う水,うつる水,奪い合う水--水の脅威に立ち向かう 近年の豪雨災害と災害情報を巡る課題 (特集 駒場リサーチオープンキャンパス公開), *生産研究*, Vol.62, No.5, pp.527-532, 2010.
- 牛山素行・横幕早季:東日本大震災に伴う死者・行方不明者の特徴(速報), *津波工学研究報告*, No.28, pp.117-128, 2011.
- 山田忠・柄谷友香:水害リスクの受容と防災行動の役割分担との関連性に関する研究—大垣市荒崎地区を対象に一, *自然災害科学*, Vol.30, No.4, pp.441-453, 2012.
- 山田忠・柄谷友香・松本康夫:コミュニティ活動が水害対応や対策への役割分担に与える影

- 響に関する研究, 『水工学論文集』, 第 55 卷, CD-ROM, 2010.
- Yamada, T., and Yuka Karatani: Effects of Local Community Activities on Views Concerning Flood Responses and Countermeasures, *Journal of Hydroscience and Hydraulic Engineering*, (頁未定/登載決定), 2012.
- Yamasaki, S. and Chigira, M.: Weathering mechanisms and their effects on landsliding in pelitic schist, *Earth Surface Processes and Landforms*, Vol.36, No.4, 481-494, 2011.
- 吉田昌弘・千木良雅弘:1968 年十勝沖地震によって降下火砕物層に発生した崩壊と風化との関係について, *応用地質*, 52, pp.213-221, 2012.
- Yoshihiro Okumura, Kenji Harada and Yoshiaki Kawata: Evacuation behavior in the 29 September 2009 Samoa Islands Region Earthquake Tsunami, *Journal of Earthquake and Tsunami*, Vol.5, No.3, pp.217-229, 2011.

2.2.3 学会口頭発表

- 安次嶺一磯・相馬成樹・近藤昭彦, リモートセンシングと GIS による生物の生息環境に関するマクロ解析ーアライグマとカミツキガメを例としてー, 日本地球惑星科学連合大会 2011(幕張メッセ), 2011 年 5 月 24 日.
- Chigira, M. and Yamasaki, S.: Anatomy of gravitationally deformed slopes, *European Geosciences Union General Assembly*, abstract, EGU2010-6185, 2010.
- Chigira, M. and Hariyama, T., Gravitational deformation of shale on a dip slope - in situ observation-, *International Symposium on Slope Tectonics*, 2011.
- Chigira, M., Doshida, S., and Nakamura, T.: Morphological features of slope movements identified by the airborne laser scanner, *Proceedings of the 11th Congress of the International Association of Engineering Geology and Environment*, pp.103-110, 2010.
- Chigira, M., Hiraishi, N., and Matsushi, Y.: Regional tectonics, geomorphic development, and gravitational slope deformation in the outer belt of the southwest Japan, *International Symposium on Slope Tectonics*, 2011.
- Chigira, M., Site characteristics of landslides induced by earthquake and the relation between landslide distribution and fault ruptures, *An International Symposium on Earthquake Induced Landslides and Disaster Mitigation at the 3rd Anniversary of the Wenchuan Earthquake*. May 2011 (Keynote paper).
- 藤井基貴・上地香杜・松永尚徳, 静岡大学における『防災道徳』教育の授業開発, 大学教育改革フォーラム in 東海 2012 ポスターセッション, 2012 年 3 月 3 日.
- 藤井基貴・宮田舞・松原央達:『リベラルアーツカフェ～静岡の教養～』の活動, 大学教育改革フォーラム in 東海 2012 ポスターセッション, 2012 年 3 月 3 日.

- 藤井基貴,『防災道徳』教育の授業開発—その成果と課題—,平成 23 年度自然災害科学中部地区 研究集会,2012 年 2 月 29 日.
- 藤井基貴,18 世紀ドイツにおける子育ての近代化—ファウスト『衛生問答』に注目して,教育史学会,2011 年 10 月 1 日.
- 藤井基貴・高木宏康,中部教育学会小学校教師の校内研修に対する認識,2011 年 6 月 25 日.
- 藤井基貴・宮田 舞,『リベラルアーツカフェ ～静岡の教養～』の活動,2011 年 6 月 25 日.
- 藤井基貴・宮田 舞,『リベラルアーツカフェ～静岡の教養～』の展開,大学教育改革フォーラム in 東海 2010,ポスターセッション,2011 年 3 月 13 日.
- 藤井基貴・玉置雅野,『白川町ユースカレッジの取り組み』—中高生の夢を育てるノンフォーマル教育の展開と課題,日本学習社会学会,2010 年 11 月 7 日.
- Fujii, M., Shigeki Izawa and Atsushi Adachi, The Acceptance of Western Educational Thought and its Influence in Japan: Immanuel Kant, John Dewey, and Helen Parkhurst, 33rd Annual Global Studies Conference, October 2010.
- FUJII, N., Monitoring for an Anticipated Eruption at the East-Izu Monogenetic Volcano Region, MAKAVOl 2011, Teneguia Workshop, Oct 2011.
- 秦 康範・鈴木猛康・大山勲・佐々木邦明,地域コミュニティを対象とした地域防災力向上の試み,地域安全学会梗概集, No.26, pp.47-50, 2010 年 6 月.
- 秦 康範・大山勲・鈴木猛康・佐々木邦明,住民・行政協働ユビキタス減災情報システム(1),日本災害情報学会,第 12 回研究発表大会予稿集, pp.223-228, 2010 年 10 月.
- 秦 康範・目黒公郎・大原美保・近藤伸也・座間信作・遠藤真・小林啓二・鈴木猛康・野田五十樹・下羅弘樹・竹内郁雄・小林悟志・荒川淳平・吉本健一,首都直下地震を想定した情報連携デモンストラーション,第 13 回日本地震工学シンポジウム論文集, 4p(CD-ROM), 2010 年 11 月.
- 秦 康範・藤田将行・中瀬 仁・加藤孝明・関澤 愛,1995 年兵庫県南部地震における電気火災分析のためのデータベース構築,第 2 回相互連関を考慮したライフライン減災対策に関するシンポジウム講演集, pp.128-131, 2010 年 12 月.
- 秦 康範,大山 勲,鈴木猛康,佐々木邦明,地震時の地域の安否確認を目的とした発災対応型訓練,日本災害情報学会,第 13 回研究発表大会予稿集, pp. 407-408, 2011 年 10 月.
- 秦 康範,原田悠平,中瀬 仁,加藤孝明,関澤 愛,出火日時と送電再開日時に着目した 1995 年兵庫県南部地震における火災の特徴,土木学会,第 3 回相互連関を考慮したライフライン減災対策に関するシンポジウム講演集, pp.112-115, 2011 年 12 月.
- 原田賢治・松富英夫・A. Bagyo Widagdo,海岸林の成長による津波減衰効果の検討と管理手法の提案—インドネシア沿岸における適応性の検討—,第 29 回日本自然災害学会,2010

年 9 月.

原田賢治・青木貴之・松富英夫・A. Bagyo Widagdo, 津波による海岸樹木の倒伏に関する基礎検討, 第 60 回理論応用力学講演会, 2011 年 3 月.

Harada, K., Kentaro Imai, Tran The Ahne, Toshifumi Fujiki, Experimental study on the distribution of transported sand by tsunami run-up on a slope, AOGS2011, August 2011.

原田賢治・松富英夫・Bagyo Widagdo, 海岸林による津波減衰効果のインドネシアにおける検討, 第 61 回理論応用力学講演会, 2012 年 3 月.

畠山修一・鈴木猛康・秦 康範, 地域特性を反映させた家具固定化を推進するための啓発ビデオの作成, 土木学会, 第 65 回年次学術講演会講演概要集, 2010 年 9 月.

林 拙郎・内田芳貴・櫻本智美・沼本晋也:森林斜面における立木の土砂堆積への影響ー三重県宮川調査区域と福井県美山調査区域の事例ー, 第 59 回平成 22 年度砂防学会研究発表会概要集, 2010 年 5 月.

林拙郎・山田孝:最近の豪雨の特徴と土砂災害の発生雨量, 第 60 回平成 22 年度砂防学会研究発表会概要集, 2011 年 5 月.

林 能成・鈴木雄大, アンケート調査から明らかになった 2009 年駿河湾の地震による揺れと被害の特徴, 地球惑星科学関連合同大会, SSS016-02, 2010 年 5 月 25 日.

林 能成, 防災に地震学をいかす ~新幹線からコミュニティ防災まで~, 京都大学防災研究所地震・火山研究グループ研究会, 2010 年 7 月 23 日.

林 能成・鈴木雄大, 2009 年駿河湾の地震における被害の拡大・抑止要因, 日本地震学会秋季大会, B21-01, 2010 年 10 月 28 日.

林 能成, 個人の被災体験を地域防災活動にいかす試み, 災害科学を基礎とした地域防災活動に関する総合討論会, 京都大学宇治おうばくプラザセミナー室, 2010 年 12 月 6 日.

林 能成, 防災と事故対応, 関西大学社会安全学セミナー第 9 回・関西大学高槻ミュージックキャンパス 9 回, 2010 年 12 月 11 日.

林 能成, 津波目撃証言からみた海の先端計測による防災への期待, シンポジウム「海の先端技術で測るー海底地殻変動・津波ー」, 2011 年 1 月 18 日.

林 能成, 津波避難の課題~現地聞き取り調査から~, 関西大学社会安全学セミナー 第 1 回. 2011 年 5 月 14 日.

林 能成, 防災教育における地産地消 ~静岡県が直面する地震津波連続災害の軽減をめざして~, 地球惑星科学関連合同大会, GSC022-07, 2011 年 5 月 23 日.

林 能成, いかにして巨大津波から避難したか? ~陸前高田市におけるインタビュー調査からの考察(序報)~, 地球惑星科学関連合同大会, MIS036-P172, 2011 年 5 月 27 日.

林 能成, インドネシアにおける津波災害体験談の収集と教育プログラム開発, 日本地域学会特別セッション「インドネシアの災害復興からの提言」 日本地域学会大会(和歌山

- 大学) , 2011 年 10 月 8 日.
- 林 能成・高山みほ, 震度による被害状況の違いを視覚化する教材～被災前状況を設定した被害状況イラストの作成～, 日本地震学会秋季大会, B21-01, 2011 年 10 月 13 日.
- 林 能成, 緊急地震速報の現状と課題～東日本大震災では本当はうまくうごいたのか～, 第 16 回関西大学先端科学技術シンポジウム, 2012 年 1 月 24 日.
- Hayashi, Y., Social Problems on Tokyo Metropolitan Earthquake, SCEC-ERI Joint Workshop, December 2011.
- Hayashi, Y., Munasri, M. Nakamura and S. Didik, Characteristics of tsunami behavior observed by survivors of 2004 Sumatra-Andaman earthquake and 2010 Mentawai islands slow earthquake, The International workshop on Subduction processes, tectonics, and related topics along the Sumatra-Java arc, March 2011.
- Hayashi, Y., Munasri, S. Didik and M. Nakamura, The Drill Book of Tsunami Evacuation Based on Recreated Pictures and Stories of Victims, Asian Seismological Commission (ASC), S8-06, November 2010.
- 樋口慈・土屋智・逢坂興宏, 空中写真解析による大谷崩「一の沢」の年平均生産土砂量の評価, 平成 23 年度 (社) 砂防学会研究発表会概要集, pp.538-539, 平成 23 年 5 月.
- Hiraishi, N. and Chigira, M.: Formation of inner gorge and landslide occurrence by knickpoint recession in the KiiMountains, southwest Japan, European Geosciences Union General Assenbly, abstract, EGU2010-4310, 2010.
- Huang, L., Akihiko Kondoh, The changes in water area and wetland vegetation and water pollution in Baiyangdian, China, Japan Geosciences Union Meeting 2011(at Makuhari), May 2011.
- 池田安隆・岩崎貴哉・狩野謙一・伊藤谷生・佐藤比呂志・阿部信太郎・金 幸隆・菊池伸輔・東中基倫・須田茂幸・小沢岳史・阿部 進・川中 卓, 反射法地震探査, 重力探査, および変動地形から明らかになった糸魚川-静岡構造線の地下構造と活動様式, 地球惑星科学連合大会, 2010 年 5 月.
- 生田領野・島村航也・田所敬一・奥田隆・杉本慎吾・渡部豪・佐柳敬造・安藤雅孝, 海底地殻変動観測データの新たな手法による再解析と精度の向上, 日本地球惑星科学連合 2010 年大会, 2010 年 5 月.
- 生田領野・田所敬一・奥田隆・杉本慎吾・渡部豪・安藤雅孝, GPS/音響結合海底地殻変動解析における海中音速の傾斜構造の導入, 日本地球惑星科学連合 2011 年大会, 2011 年 5 月.
- 生田領野・里村幹夫・藤田明男・島田誠一, 2011 年東北太平洋沖地震の小さく強いアスペリティ, 日本地震学会 2011 年秋季大会, 2011 年 10 月.
- 石橋秀巳・佐藤博明, 結晶を含むマグマの粘性率測定実験: 伊豆大島 1778 年玄武岩の例, 日本地球惑星科学連合大会 幕張, 2011 年 5 月.

- 石川有三・中村浩二，グループ化して分布する火山下の低周波地震，2010年 地球惑星科学関連学会連合大会予稿集 SCG085-P02，2010年5月23日．
- 石川有三・黄為鵬，何がマグニチュードの上限を決めるか？，2010年 地球惑星科学関連学会連合大会予稿集 SSS025-06，2010年5月25日．
- 石川有三・吉武由紀・長町信吾，空中電位と地震の関係，2010年 日本地震学会秋季大会予稿集 D12-06，2010年10月27日．
- 石川有三，東北地方太平洋沖地震と関連する地震活動，2011年 日本地球惑星科学連合大会緊急セッション 千葉市，2011年5月27日．
- 石川有三，1707年宝永地震の規模の再評価，2011年 日本地震学会秋季大会予稿集，D11-09，pp.121，2011年10月12日．
- 伊藤谷生・狩野謙一・佐藤比呂志・岩崎貴哉・池田安隆・小嶋 智・山北 聡・津村紀子・小原一成・深畑幸俊・菊池伸輔・溝畑茂治・阿部 進・高橋明久・村田和則・駒田希充・早川 信・古屋 裕，深部地殻構造探査によって明らかになりつつある中部日本地殻構造，地球惑星科学連合大会，2010年5月．
- 伊藤谷生・狩野謙一・小嶋 智・岩崎貴哉・池田安隆・佐藤比呂志・パナヨトプロス ヤニス・小原一成・小村健太郎・浅野陽一・武田哲也・山北 聡・河本和朗・三宅康幸・大塚 勉・深畑幸俊・松波孝治・阿部信太郎・溝畑茂治・阿部 進・菊池伸輔・村田和則・藤原 明・山田浩二・駒田希充・津村紀子・早川 信・古屋 裕・佐藤利典・宮内崇裕・金田平太郎・橋間昭徳・川中 卓・高橋明久・須田 茂幸，中部日本深部地殻構造解明研究の新展開，日本地質学会，2010年9月．
- 貝沼征嗣・牛山素行・横幕早季，2010年9月8日の大雨による静岡県小山町での災害について，第30回日本自然災害学会学術講演会講演概要集，pp.119-120，2011年11月19日．
- 貝沼征嗣・牛山素行，実災害記録に基づく豪雨災害対応行政危機管理演習構築の試み，平成23年度自然災害科学中部地区研究集会，pp.37-38，2012年2月29日．
- 柄谷友香，応急仮設住宅における自治会運営の現状と課題－陸前高田市における半年間の参与観察を通じて－，第30回日本自然災害学会学術講演会梗概集，CD-ROM，2011．
- 柄谷友香，東日本大震災後の仮設住宅における自治会運営の現状と課題，地域安全学会研究発表会梗概集，査読無，CD-ROM，2011．
- 笠原順三・伊藤慎司・羽佐田葉子・高野正充・ギデアンドレ・藤原友宏・鶴我佳代子・藤井直之，淡路島におけるアクロス震源を用いたタイムラプス試験観測－シンセティックな上下・水平加震の生成，物理探査学会 第125回(平成23年度秋季)学術講演会，2011年9月．
- 笠原順三・伊藤慎司・藤原友宏・羽佐田葉子・鶴我佳代子・生田領野・藤井直之・山岡耕春・西上欽也・伊藤 潔，淡路島野島断層付近におけるアクロス震源を用いたタイムラプス試験観測－観測結果(1)，物理探査学会 第125回(平成23年度秋季)学術講演会，

2011年9月.

笠原順三・山石 毅・伊藤慎司・藤井直之・中川 功・羽佐田葉子・山岡耕春・生田領野・西上欽也, 淡路島野島断層付近における空気注入に伴う地中における空気の拡散過程と降雨の影響, 物理探査学会 第125回(平成23年度秋季)学術講演会, 2011年9月.

笠原順三・伊藤慎司・藤原友宏・羽佐田葉子・鶴我佳代子・生田領野・藤井直之・山岡耕春・西上欽也・伊藤 潔, 野島断層付近での地下への空気の圧入に伴う変化の検出実証試験, 日本地震学会 2011年度学術講演会, 2011年10月.

笠原順三・伊藤慎司・羽佐田葉子・高野正充・ギデイアンドレ・藤原友宏・鶴我佳代子・藤井直之, 地震波アクロス震源を用いた上下加震と水平加震の合成試験観測, 日本地震学会 2011年度学術講演会, 2011年10月.

Kasahara, J., S. Ito, T. Fujiwara, Y. Hasada, K. Tsuruga, R. Ikuta, N. Fujii, K. Yamaoka, K. Nishigami, and K. Ito, Observation of abrupt changes associated with air injection into the ground by the time lapse experiment using an ultra-stable seismic source, AGU Fall Meeting, T51I-01, December 2011.

Kasahara, J., S. Ito, Y. Hasada, M. Takano, G. Andre, T. Fujiwara, K. Tsuruga, and N. Fujii, Generation of vertical and horizontal vibrations by a synthetic method using an ultra-stable and continuous seismic source for the time lapse measurements, AGU Fall Meeting, T43B-2310, December 2011.

片田敏孝・村澤直樹・金井昌信, 漁船の津波沖だし行動に関するルール策定効果の検証, 日本災害情報学会第13回研究発表大会, 2011年10月.

Kazama, S., Economic predictions of flood damages with respect to the extreme rainfall in Japan, Climate Adaptation Futures Conference, Gold Coast, Australia, 2010.6.30.

Kazama, S., Flood impact attributed to climate change in Japan, IUGG, Melbourne, Australia, 2011.7.1.

菊池伸輔・池田安隆・岩崎貴哉・阿部 進・伊藤谷生・狩野謙一・佐藤比呂志・青木 直史, 反射パターン認識技術による地殻構造イメージングの高精度化, 地球惑星科学連合大会, 2011年5月.

木村浩之, 地下圏微生物の分子情報からの温度プロファイリング, 深海掘削ワークショップ 東京, 2011年5月.

木村浩之・道林克禎, 微生物分子温度計: 地下圏の温度プロファイリング, 日本鉱物科学会 2011年年会 水戸, 2011年9月.

木村浩之・Young C・Martinez A・DeLong EF, プロテオロドプシンを有する海洋細菌の網羅的遺伝子応答解析, 第27回日本微生物生態学会 京都, 2011年10月.

小林理紗・岩崎貴哉・池田安隆・伊藤谷生・狩野謙一・佐藤比呂志・東中基倫・阿部 進・須田茂幸・川中 卓, 糸魚川-静岡構造線中部の断層構造--2007年諏訪-辰野測線の屈折/広角反射法解析-, 地球惑星科学連合大会, 2011年5月.

駒田希充・小原一成・菊池伸輔・小嶋 智・津村紀子・狩野謙一・小村健太郎・武田哲也・浅野陽一・岩崎貴哉・佐藤利典・溝畑茂治・須田茂幸・山田浩二・金田平太郎・池田安隆・山北 聡・松波孝治・深畑幸俊・加藤 潔・早川 信・佐藤比呂志・阿部信太郎・古屋 裕・朱里泰治・村田和則・高橋明久・阿部 進・川中 卓・伊藤谷生, 北美濃深部構造探査による中部日本北西部の地殻構造解明(第1報), 日本地球惑星科学連合大会, 2010年5月.

近藤昭彦・小林達明・鈴木弘行, 放射能汚染と地理学—汚染の分布をいかに地図化する—, 日本地理学会シンポジウム「東日本大震災と地理学—ハザードマップを再考する—」(首都大学東京), 2012年3月28日.

近藤昭彦・山口英俊・早川敏雄・下条亮介, 福島第一原発事故によって拡散した放射性物質に起因する空間線量率の分布の特性, 日本地理学会 2011年度秋期学術大会(大分大学), 2011年9月23日.

小山真人, 南から来た火山の贈り物—伊豆半島ジオパーク構想の概要と現状—, 第50回日本地すべり学会研究発表会特別講演, 静岡, 2011年9月(招待講演).

小山真人・村越 真・吉川肇子, 地震・火山に関する防災情報の実効性検証の現状と課題, 日本地球惑星科学連合 2011年大会, 2011年5月(招待講演).

小山真人・肥田光弘・植田基靖, 「南から来た火山の贈り物」伊豆半島ジオパーク構想と実現への取組, 日本地球惑星科学連合 2011年大会, 2011年5月.

小山真人・鈴木雄介・荒井健一・中村一郎, 航空レーザー測量と赤色立体地図にもとづく伊豆東部火山群の分布・噴火史の再検討, 日本火山学会 2010年秋季大会, 2010年10月.

小山真人, 伊豆東部火山群(東伊豆単成火山地域)の分布・噴火史の再検討, 日本地球惑星科学連合 2010年大会, 2010年5月.

Li, H., Akihiko Kondoh, Analyses on Cultivated Land Changes in North-East China by Satellite Remote Sensing, Japan Geosciences Union Meeting 2011(at Makuhari), May 2011

増田俊明・松村太郎次郎・大森康智, 深成岩貫入岩体の周囲の応力場: 接触変成面構造パターンの多様性, 日本地質学会第118年学術大会・日本鉱物科学会2011年年会合同学術大会, 2011年9月.

松富英夫・原田賢治・小笠原敏記・片岡俊一, 2010年チリ津波における養殖施設の被害調査, 第29回日本自然災害学会, 2010年9月.

森浩二・飯野隆夫・石橋純一郎・木村浩之・浜田盛之・鈴木健一郎, 白馬八方・中房温泉からの新規高温性細菌の分離, 第27回日本微生物生態学会 京都, 2011年10月.

森谷祐介・大森康智・増田俊明, 石英表面における点接触部の高速圧力溶解, 日本地球惑星科学連合2011年大会, 2011年5月.

諸橋良・佐野友絵・原田賢治, 静岡市清水区における巴川を遡上した東北地方太平洋沖地

震に伴う津波，第30回日本自然災害学会，2011年11月。

望月 麻紗樹・小山真人・林 能成，アンケート震度調査にもとづく2009年12月の伊豆半島東方沖地震の詳細震度分布，日本地球惑星科学連合2011年大会，2011年5月。

村越 真・小山真人・上西智紀，ジオパークのガイド養成過程における大地の成り立ちの理解とその価値への気付き，日本地球惑星科学連合2011年大会，2011年5月。

村越 真・小山真人・上西智紀，ジオツアーによる大地の成り立ちの理解とその価値への気付き：伊豆半島の地元高校生を対象とした検証，日本火山学会2010年秋季大会，2010年10月。

村越 真・小山真人・上西 智紀，ジオツアーによる大地の成り立ちの理解とその価値への気付きー伊豆半島の地元高校生を対象とした検証ー，日本火山学会大会，2010年。

村越真，ジオパークのガイド養成過程における大地の成り立ちの理解とその価値への気付き，日本地球惑星科学連合大会2011年大会（幕張），2011年5月23日

村越真，空間的課題の問題解決過程，認知科学会，2011年9月

村田和則・菊池伸輔・津村紀子・狩野謙一・阿部 進・溝畑茂治・須田茂幸・岩崎貴哉・佐藤比呂志・池田安隆・佐藤利典・山北 聡・小嶋 智・阿部信太郎・駒田希充・早川信・三宅康幸・大塚 勉・深畑幸俊・河本和朗・金田平太郎・橋間昭徳・パナヨトプロス ヤニス・宮内崇裕・平田 直・高橋明久・川中 卓・伊藤谷生，南-中央アルプス横断地震探査によって解明された中部日本南東部地殻構造と外帯構造の変形過程復元，地球惑星科学連合大会，2010年5月。

中川和之，地震動予測図は、社会の期待にどこまで応えているか＝住宅耐震化促進に一役，第13回日本地震工学シンポジウム，2010年11月。

中川和之，「地震」を社会と共有するための取り組みはどこまで進んだか，日本地球惑星科学連合，2010年5月。

中川和之・地震火山子どもサマースクール実行委員会，11年続けてきた子ども向けジオツアー「地震火山子どもサマースクール」，日本地球惑星科学連合，2010年5月。

根本泰雄・上西智紀・斎藤 誠・岩田孝仁・中川和之・小山真人・美澤綾子・荒井賢一・南島正重・宮嶋 敏・中島 健・伊東明彦・数越達也，日本地震学会主催教員免許状更新講習の講座で求められる教育内容，日本地震学会2011年秋季大会，2011年10月。

大森康智・増田俊明，超微小硬度計を用いた変成岩中の力学的不均一性の測定，日本地質学会第118年学術大会・日本鉱物科学会2011年年会合同学術大会，2011年9月。

大山勲・鈴木猛康・秦 康範・佐々木邦明，住民・行政協働ユビキタス減災情報システム(2)，日本災害情報学会，第12回研究発表大会予稿集，pp.228-234，2010年10月。

朴慧美・孫バイ・近藤昭彦・開発一郎，新疆ウイグル自治区における降水特性と土壌水分の時空間変動に関する研究，日本地球惑星科学連合大会2011(幕張メッセ)，2011年5月24日。

佐々木邦明・飯島陽介・鈴木猛康・大山勲・秦 康範，防災まちづくりワークショップに

- おける討議の可視化とそれを通じた内容の把握, 土木学会, 第 65 回年次学術講演概要集, 2010 年 9 月.
- 佐藤博明・御堂丸直樹・藤田奈穂, 富士火山玄武岩に見られる噴火様式と斜長石組成の関係, 日本地球惑星科学連合大会 幕張, 2011 年 5 月.
- 佐藤博明・石橋秀巳・ヴェーテレ フランチェスコ・中村秀明・齋藤将孝, 結晶作用に伴うマグマの粘性係数変化, 日本地球惑星科学連合大会 幕張, 2011 年 5 月.
- 佐藤博明・鈴木桂子・佐藤鋭一・和田恵治・佐野恭平, 霧島新燃岳 2011 年噴出物の岩石学的性質, 日本地球惑星科学連合大会 幕張, 2011 年 5 月.
- Sato, H., Vetere, F., Ishibashi, H., De Rosa, R. and Donato, P., Viscosity changes during crystallization in shoshonitic magmas: new insights on the lava flows emplacement, International Union of Geodesy and Geophysics, July 2011.
- 瀬尾浩幸・鈴木猛康・秦 康範, 車両走行データに基づいた道路段差走行アルゴリズムの開発, 土木学会, 第 65 回年次学術講演会講演概要集, 2010 年 9 月.
- 相馬成樹・安次嶺一磯・近藤昭彦, リモートセンシングによる谷津田の土地利用変化に関する研究ー北総台地における谷津田の耕作放棄地の実態ー, 日本地球惑星科学連合大会 2011(幕張メッセ), 2011 年 5 月 24 日.
- 孫バイ・近藤昭彦・開発一郎・小池俊雄, 東アジア乾燥地域における土壌水分の時空間変動に関する研究, 第 19 回リモートセンシングフォーラム(東京農業大学), 2012 年 3 月 5 日.
- 末岡 茂・KOHN B.P.・田上高広・堤 浩之・長谷部徳子・田村明弘・荒井章司・池田安隆・狩野謙一・山田国見・平田岳史, 低温領域の熱年代学的手法に基づいた木曾・赤石山脈の隆起・剝削史, 日本地質学会・日本鉱物科学会合同学術大会, 2011 年 9 月.
- 数越達也・齋藤 誠・小山真人・岩田孝仁・中川和之・上西智紀・伊東明彦・根本泰雄・荒井賢一・中島 健・美澤綾子・南島正重, 教員サマースクール 2011「地震・火山を学校でどう教えるか」の実施と教員免許状更新講習の開設, 日本地震学会 2011 年秋季大会, 2011 年 10 月.
- 鈴木猛康・秦 康範・大山勲・佐々木邦明・深尾嘉彦, 住民・行政協働ユビキタス減災情報システムを用いた山梨県の災害情報リテラシー向上の試み, 第 41 回土木計画学研究発表会(春大会), 2010.
- 鈴木猛康・秦 康範・大山 勲・佐々木邦明・深尾嘉彦, 住民・行政協働ユビキタス減災情報システム(3), 日本災害情報学会, 第 12 回研究発表大会予稿集, pp.235-240, 2010 年 10 月.
- 鈴木猛康・秦 康範・目黒公郎, 首都直下地震における広域連携のための災害対応管理システム, 第 13 回日本地震工学シンポジウム論文集, 8p(CD-ROM), 2010 年 11 月.
- 高柳夕芳・牛山素行, 静岡県における 1970 年代以降の豪雨災害による犠牲者の特徴, 第 29 回日本自然災害学会学術講演会講演概要集, pp.149-150, 2010 年 9 月 16 日.

- 武村雅之・地震火山こどもサマースクール実行委員会，震災から生まれた新しい防災教育：地震火山こどもサマースクール 10 年の歩み，日本地球惑星科学連合 2010 年大会，2010 年 5 月.
- 寺村 泰，市場の棲み分け—陶磁器輸出の事例，政治経済学・経済史学会 2011(平成 23)年度秋季全国大会(立命館大学)パネルディスカッション，2011.
- Thanh Duyen Trinh Thi, Akihiko Kondoh, Distribution of crop patterns in Mekong delta - Application of remote sensing -, Japan Geosciences Union Meeting 2011(a t Makuhari), May 2011.
- 遠山忠昭・牛山素行，静岡県気象災害小史からみる大雨災害の特徴，平成 23 年度自然災害科学中部地区研究集会，pp.19-20，2012 年 2 月 29 日.
- Tsou, C.Y., Chigira, M., and Feng, Z.: Landslide induced by the Typhoon Morakot in Shiaolin village, Taiwan, European Geosciences Union General Assenbly, abstract, EGU2010-3848, 2010.
- 土屋智・清水武志，インドネシア・スラウェシ島で発生した大規模崩壊地源頭部のその後の動き，平成 22 年度砂防学会研究発表会概要集，pp.534-535，2010 年 5 月.
- 鶴我佳代子・笠原順三・伊藤慎司・山岡耕春・生田領野・藤井直之・伊藤 潔・西上欽也・山崎文人・本城泰樹，淡路島野島断層付近におけるアクロス震源を用いたタイムラプス試験観測—観測結果(2)，物理探査学会 第 125 回(平成 23 年度秋季)学術講演会，2011 年 9 月.
- Tsuruga, K., J. Kasahara, K. Yamaoka, R. Ikuta, N. Fujii, K. Ito, K. Nishigami and F. Yamazaki, Time Lapse experiment using the seismic ACROSS method around the seismogenic fault zone in Awaji Island, Japan, AGU Fall Meeting, T43B-2309, December 2011.
- 内山敬介・岩田孝仁・牛山素行，危機対策における防災システムの導入とあり方，日本災害情報学会第 13 回研究発表大会予稿集，pp.241-246，2011 年 10 月 30 日.
- 上野忠良・齋藤 誠・宮岡一樹・坂井孝行 1・舟崎 淳・土屋 智・小山真人・森田裕一・木下智章・八木宏晃，伊豆東部火山群における「地震活動の予測情報」と「噴火警戒レベル」の導入について，日本火山学会 2011 年秋季大会，2011 年 10 月.
- 牛山素行・高柳夕芳，近年の土砂災害による犠牲者の特徴，平成 22 年度砂防学会研究発表会概要集，pp.162-163，2010 年 5 月 26 日.
- 牛山素行・栗田幸将，豪雨防災情報に対するインターネット利用者の認識・2010 年，水文・水資源学会 2008 年研究発表会要旨集，pp.282-283，2010 年 9 月 8 日.
- 牛山素行・栗田幸将，全国大学の防災関係研究・教育部局の現状，第 29 回日本自然災害学会学術講演会講演概要集，pp.211-212，2010 年 9 月 17 日.
- 牛山素行・栗田幸将・高柳夕芳，2010 年 2 月 28 日チリ地震津波の際の静岡県・岩手県における避難行動調査，日本災害情報学会第 12 回研究発表大会予稿集，pp.153-158，2010

年 10 月 22 日.

牛山素行, 岩手県・静岡県における津波災害に対する意識の違い —2010 年チリ地震津波時の住民調査から—, 平成 22 年度東北地域災害科学研究集会 講演予稿集, (ページ無し), 2011 年 1 月 9 日.

牛山素行・横幕早季, タイムスタンプデータによる津波到達直前の陸前高田市内の状況推定, 日本災害情報学会第 13 回研究発表大会予稿集, pp.297-300, 2011 年 10 月 30 日. スライド抜粋

牛山素行・横幕早季, 東日本大震災に伴う死者・行方不明者の特徴, 第 30 回日本自然災害学会学術講演会講演概要集, pp.107-108, 2011 年 11 月 19 日.

牛山素行・横幕早季・高柳夕芳, 2011 年台風 12 号による豪雨災害の特徴, 第 30 回日本自然災害学会学術講演会講演概要集, pp.115-116, 2011 年 11 月 19 日. 書き改めた概要

牛山素行・横幕早季, タイムスタンプデータを用いた津波到達時の陸前高田市の状況推定, 平成 23 年度東北地域災害科学研究集会 講演予稿集, (ページ無し), 2012 年 1 月 7 日.

牛山素行・横幕早季, 東日本大震災に伴う死者・行方不明者の特徴(2012 年 2 月現在), 平成 23 年度自然災害科学中部地区研究集会, pp.21-22, 2012 年 2 月 29 日. スライド抜粋

シャオケイテイアジ・近藤昭彦, 中国、新疆における食糧生産の時空間変化とその要因に関する研究, 日本地球惑星科学連合大会 2011(幕張メッセ), 2011 年 5 月 24 日.

Yamada, K., Keishuke Koba and Naohiro Yoshida, Microbial methane production in deep aquifer associated with the accretionary prism in southwest Japan, The 13th International Symposium on Microbial Ecology (ISME-13), Seattle, USA, August 2010.

横幕早季・大森康智・牛山素行・増田俊明, 静岡県における防災実務者を対象とした人材育成講座の構築について, 平成 23 年度自然災害科学中部地区研究集会, pp.33-34, 2012 年 2 月 29 日.

Yuzo Ishikawa, Risk Assessment on Earthquake in Japan, International Seminar on Sharing Experience on Disaster Risk Reduction in Asian Countries, National Disaster Reduction Center of China, October 2010.

Yuzo Ishikawa and Weipeng Huang, Abnormal decrease of event number of PDE catalog, The 8th ASC General Assembly (ASC2010) S1-11, November 2010.

Yuzo Ishikawa, Summary of the 2011 off the Pacific coast of Tohoku Earthquake, KIGAM seminar, October 2011.

2.2.4 その他の著作物

千木良雅弘:「日本の地すべり研究の発展と未来(地質・地形)」, 地すべり, 48, pp.243-250.

- 2011.
- 千木良雅弘:斜面崩壊. 地質と調査, 11-2, pp.6, 2011.
- 藤井基貴・生澤繁樹 編著:2011 年度ユースカレッジ報告書, 白川町教育委員会, pp.1-42 頁. (印刷中)
- 藤井基貴 編著:道徳教育の授業開発—郷土資料づくりからはじめる道徳授業—, 静岡大学教育学部, pp. 1-95, 2011 年 3 月.
- 林 能成:静岡県における防災教育～地震・津波連続複合災害への対応に向けて～, 地震本部ニュース, 2010 年 11 月号, pp.6-7, 2010.
- 林 能成:書評 隠された大震災 (山下文男著, 東北大学出版会), 日本地震学会ニュースレター, 22 巻, 4 号, pp.7-8, 2010.
- 林 能成:秋季大会開催地・静岡における「高校出前講座」の実施, 日本地震学会ニュースレター, 23 巻, 3 号, pp.41-43, 2011.
- 林 能成:母さんカレーで大やけど! 父さん棚の下敷きに!! , 日本地震学会広報誌ないふる, 89 号, pp.4-5, 2012.
- 石川有三, 地震災害軽減のための国際協力, 地震ジャーナル, No.50, pp.100-104, 2010.
- 石川有三, 列島の地震活動を一変させた東北地方太平洋沖地震, なみふる, No.87, pp.6-7, 2011.
- 狩野謙一:糸魚川-静岡構造線, 新倉露頭の断層上盤側の崩落, 日本地質学会 News, Vol.5, No.2, pp.10-11, 2012.
- 柄谷友香:“移動”に伴うコミュニティ形成の課題—仮設住宅自治会の発足経緯を例として—, 建築雑誌, 日本建築学会, 2012 年 5 月号 (掲載決定), 2012.
- 柄谷友香:震災からの復旧・復興と土木技術社の役割, 建設マネジメント技術, 2012 年 3 月号, pp.6-17, 2012.
- 柄谷友香:被災地に学び、防災に生かす, 土木技術, 土木技術社, vol.67, No.2, pp.87-90, 2012.
- 柄谷友香:過去の教訓を将来の防災に生かすために, 月刊女性&運動, 新日本婦人の会, pp.42-43, 2011.
- 片田敏孝:小中学生の生存率 99.8%は奇跡じゃない, 月刊 WEDGE, 5 月号, pp.30-33, 2012.
- 片田敏孝:災いと、どう向き合うか, 集英社 kotoba, 第 5 号, pp.98-101, 2012.
- 片田敏孝:釜石の奇跡は、かくて起こった, 月刊致知, 2011 年 8 月号, pp.30-35.
- 片田敏孝:想定にとらわれるな—災害時に自らの命を救うことに主体的たるべし, 文藝春秋 日本の論点 2012, pp.564-567.
- 近藤昭彦・小林達明・唐常源・鈴木弘行, 川俣町山木屋地区における流域単位の除染に向けた放射能調査, 農村計画学会誌, Vol.30, No.4, pp.528-529, 2012.
- 近藤昭彦, 東電福島第一原発事故による飯舘村および周辺地域の放射能汚染の現状, 畜産の研究「東日本大震災下の動物たちと人間の記録」, 第 66 巻, 第 1 号, 頁 97-102, 2011.

- 近藤昭彦・小林達明・木下勇・山口英俊・早川敏雄・松下龍之介, 福島県川俣町における空間線量率・表面汚染密度等調査報告, 農村計画学会誌 (大震災特集 No.3), Vol.30, No.3, pp.419-420, 2011.
- 近藤昭彦・山口英俊・早川敏雄・下条亮介, 東電福島第一原発事故による飯舘村および周辺地域の環境汚染の現状―空間線量率等詳細調査結果速報―, 農村計画学会誌 (大震災特集 No.2), Vol.30, No.2, pp.121-122, 2011.
- 小山真人:パニック神話に踊らされる人々-福島原発災害にまつわる不当な情報制限, 科学, Vol.81, No.10, pp.2-3, 2011.
- 小山真人・村越 真・吉川肇子:地震・火山に関する防災情報の実効性検証の現状と課題, 日本地震学会ニュースレター, Vol.23, No.3, pp.36-37, 2011.
- 村越 真:ナビゲーションの地図読み, 地理, Vol.55, No.4, pp.10-22, 2010.
- 村越 真:方向感覚と都市空間, 都市計画, Vol.59, No.3, pp.31-35, 2010.
- 村越 真:登山者の読図・ナビゲーションスキルの実態(報告), 登山研修, Vol.25, pp.29-32, 2010.
- 村越 真:道迷いによる遭難, 大都市近郊の低山で急増中, 山と溪谷, No.919, pp.34-35, 2011.
- 村越 真:登山・アウトドアの立場から電子国土基本図への移行を考える, 地図情報, pp.13-15, 2011.
- 中川和之:地域防災データ総覧「平成 21 年 7 月中国・九州北部豪雨 平成 21 年熱帯低気圧・台風第 9 号による大雨編」災害ボランティア、政府の対応, 2010.
- 中川和之:地域を知りこの国を知って備えるために防災教育を, 奈良県安全・安心通信コラム, 2010.
- 中川和之:報道の立場から見た新型(豚)インフルエンザ騒動, 消防科学と情報 9 9・2 0 1 0 冬号, 2010.
- 野津憲治:新元素発見を夢見て―日本の無機化学を築いた「柴田雄次」と新元素―, 化学, 66, No.2, pp.12-18, 2011.
- 島崎邦彦:予測されたにもかかわらず, 被害想定から外された巨大津波, 科学, Vol.81, pp.1002-1006, 2011.
- 島崎邦彦:震災後の地震発生予測, アジア時報, 467, pp.30-62, 2011.
- 島崎邦彦:超巨大地震, 貞観の地震と長期評価, 科学, Vol.81, pp.397-402, 2011.
- 島崎邦彦:東日本大震災を起こした強大な地震, JGL, Vol.7, No. 2, pp.2-3, 2011.
- 白木洋平・近藤昭彦・渡来 靖, NOAA/AVHRR を用いた関東地方の明け方における地表温度の特徴, 環境科学会誌, Vol.24, No.5, pp.472-479, 2011.
- 白尾元理(写真)・小山真人(解説):大室山がつくった伊豆高原と城ヶ崎海岸, 地学雑誌, Vol.119, No.1, 表紙写真と解説, 2010.
- 末岡 茂・Kohn, B.P.・田上高広・長谷部徳子・堤 浩之・田村明弘・荒井章司・狩野謙

- 一・池田安隆・白濱吉紀:低温領域の熱年代学から見た木曾山脈・赤石山脈の傾動隆起, フィッション・トラック ニュースレター, No.24, pp.68-69, 2011.
- 杉山雄一・水野清秀・狩野謙一・村松 武・松田時彦・石塚 治・及川輝樹・高田 亮・荒井晃作・岡村行信・実松健造・高橋正明・尾山洋一・駒澤正夫:20 万分の 1 地質図幅「静岡及び御前崎」(第 2 版), 産業技術総合研究所 地質調査総合センター, 2010.
- 武村雅之:関東大震災における火災,建築防災, 2 月号, pp.6-13, 2010.
- 武村雅之:歴史的視点から見た地震学と社会, 北海道大学地球物理研究報告, 73, pp.1-22, 2010.
- 武村雅之:街に伝わる関東大震災の調査 東京都 23 区の防災基礎資料として, 第 13 回日本地震工学シンポジウム, pp.784-791, 2010.
- 武村雅之:研究の原点は気象庁:震度とマグニチュードへのこだわり, 第 38 回地盤震動シンポジウム(日本建築学会), pp.41-50, 2010.
- 武村雅之:東日本大震災と歴史津波, 防災時報, 247 号, pp.20-25, 2011.
- 武村雅之:警告の書『関東大震災』, 文藝春秋特別号(吉村昭), 臨時増刊, pp.90-96, 2011.
- 武村雅之:今後 10 年の課題(「この 10 年の地震工学の動向と発展」まとめに替えて), 日本地震工学会誌, 14, pp.55-56, 2011.
- 寺村泰:書評 武田晴人編『日本経済の戦後復興 未完の構造転換』『戦後復興期の企業行動 立ち上がった障害とその克服』『歴史と経済』, 第 206 号, 2010 年 1 月.
- 寺村泰:市場の棲み分け—陶磁器輸出の事例, 政治経済学・経済史学会秋季学術大会報告要旨集, 2011 年 10 月.
- 寺村泰:4. 補論 静岡大学人文学部における防災対策の見直しについて, 静岡大学人文学部防災研究会報告書 災害に強い社会づくりに向けて～人文社会科学からのアプローチ～, 2012 年 3 月.
- 牛山素行:近年の豪雨災害 —イメージと実態—, 地質と調査, No.124(2010 年第 2 号), pp.12-15, 2010.
- 牛山素行:最近の豪雨災害の特徴と「避難」の考え方(特集 風水害に関する最近の動向), 消防科学と情報, No.103, pp.33-37, 2011.
- 牛山素行:東日本大震災・人的被害の面から, 消防科学と情報, No.104, pp.7, 2011.

2.2.5 受賞

- 原田賢治, 日本自然災害学会平成 22 年度学術発表優秀賞, 2010 年 9 月
- 片田敏孝研究チーム, 日本教育再興連名賞, 2011 年 8 月 20 日
- 片田敏孝, 日本災害情報学会 廣井賞, 2011 年 10 月 29 日
- 加藤弘徳・千木良雅弘, 一般社団法人日本応用地質学会論文賞, 2010 年 6 月 4 日
- 島崎邦彦, 平成 22 年防災功労者総理大臣表彰, 2010 年 9 月 2 日
- 武村雅之, 日本電気協会 功労賞, 2012 年 3 月 14 日

2.2.6 特許等

木村浩之，増田俊明（2011）特願 2011-220274. バイオリアクター、それを用いたメタン生成方法及び水素生成方法、並びに水/ガス/電気の自家供給システム.

3 学内教育活動

3.1 新入生セミナー

静岡大学では新入生全員を対象として、「大学生活における健康管理に関する啓発」、「キャンパスや学外での安全な過ごし方の習得」、「防災意識の涵養と防災教育に関する啓発」、及び「ハラスメントに関する啓発」を目的として、「健康・安全・安心・快適な大学生活講座」を実施している。同講座は、全新入生が受講する「新入生セミナー」という科目の一部として実施されている。

当センターでは、同講座の一部として、「地震防災のすすめ」というタイトルで、1回45分の講義を分担している。主な内容は下記の通りである。

防災のすすめ	地震とは
地震と震災	東北地方太平洋沖地震（地震）
震度と揺れの状態(2009年現在)	日本付近のプレート
プレート境界地震と内陸地震	東海地震・南海地震の発生史
東海地震の震度予測	津波発生のメカニズム
東海地震の津波予測	1854年安政東海津波の推定浸水域
東海地震の予知	緊急地震速報
自然災害の分類	大災害発生時に一番大事なこと
静岡大学安否情報システム	「万能な備え」なんてない
「備え」は自分で考える	これだけは記憶にとどめて

図 3-1 平成 23 年度新入生セミナーで使用した主なスライドのタイトル

平成 23 年度の受講者は、静岡キャンパス 1,245 名、浜松キャンパス 735 名だった。講義は、静岡地区 5 回、浜松地区 3 回で、牛山、小山、里村、原田の 4 名で分担実施した。各日とも、45 分×2 回を担当している。

3.2 学際科目「地震防災」

地震防災は、さまざまな分野にまたがる総合科学であり、東海地震の発生が危惧されている静岡県で生活する学生にとってこれを学ぶことは必要不可欠である。地震に備えて普段から何をしておくべきなのか、また地震発生時には何をすべきなのか、地震発生時に生き延びるための基礎知識など地震防災科学を総合的に学ぶことを目標にかかげ2004年度から本講義が開講されている。全学部の学生が受講可能な「学際科目」の一つとなっている。講師陣は大学の研究者ばかりでなく、行政やメディア関係者など幅広い分野で地震防災に関係している人が担当している。2009年度からは浜松キャンパスでの開講もはじまり、2011年度は前期に静岡・浜松と2講座、後期に静岡（昼間・夜間）の2講座、年間で合計4講座が開講された。受講者は計約550人におよんでいる。

以下に一例として2011年度・静岡地区（前期）の講義内容一覧を掲げる。

	開講日	タイトル	担当者(所属)
1	2011/4/8	防災を学ぶ(講義のはじめに)	牛山素行(静大)
2	2011/4/15	地震学と東海地震の基礎	里村幹夫(静大)
3	2011/4/22	地震災害史	武村雅之(小堀鐸二研究所)
4	2011/5/6	地震予知	長尾年恭(東海大)
5	2011/5/13	活断層と地震発生長期予測	狩野謙一(静大)
6	2011/5/20	地震による災害1：建物災害	外山知徳(静大名誉教授)
7	2011/5/27	地震防災行政	小林佐登志(静岡県庁)
8	2011/6/3	地震による災害3：津波災害	原田賢治(静大)
9	2011/6/10	地震災害と地理情報	岩崎一孝(静大)
10	2011/6/17	地震災害のリスク認知	村越真(静大)
11	2011/6/24	地震による災害2：土砂災害	土屋智(静大)
12	2011/7/1	市民防災	柄谷友香(名城大)
13	2011/7/8	災害時の心のケア	小林朋子(静大)
14	2011/7/15	災害時の医療	池谷直樹(静大)
15	2011/7/22	東海地震の過去と未来(まとめ)	小山真人(静大)

3.3 学際科目「地域社会と災害」

学際科目「地震防災」は、科目立ち上げ時の経緯や、静岡において特に地震災害に対する関心が高いこともあり、内容が地震関係に偏ってしまっていることが課題となっていた。静岡県においても災害は地震だけではなく、また、学生が卒業後に全国、全世界に活躍の場を移すことを考えれば、地震以外の災害に対する教育が必要であることは当然のことである。そこで、地震災害については「地震防災」で学ぶこととして、地震以外の様々な災害を対象に、災害を考えるための基礎的な考え方や、災害をもたらす現象のメカニズム、災害による被害を軽減するための技術や制度について理解し、社会の一員として、当事者意識を持って災害に備える事ができる人材の育成を目的として、2010年度から静岡キャンパスで新科目「地域社会と災害」を開講した。「地震防災」と同様、全学部の学生が受講可能な学際科目の一つとしての開講である。「地震防災」は15回すべてで担当者が代わるオムニバス形式だが、「地域社会と災害」では、防災総合センター専任教員を中心に、4名の教員が分担する形式とした。2011年度を受講者は約150人だった。

以下に2011年度の講義内容一覧を掲げる。

	開講日	タイトル	担当者(所属)
1	2011/10/3	自然災害科学入門	牛山素行(静大)
2	2011/10/17	自然災害と「空間」・「時間」	牛山素行(静大)
3	2011/10/24	豪雨災害	牛山素行(静大)
4	2011/10/31	洪水・土砂災害	牛山素行(静大)
5	2011/11/7	地震災害	原田賢治(静大)
6	2011/11/14	津波・高潮災害	原田賢治(静大)
7	2011/11/21	火山災害1	小山真人(静大)
8	2011/11/28	火山災害2	小山真人(静大)
9	2011/12/5	防災技術の可能性と限界	牛山素行(静大)
10	2011/12/12	災害情報	牛山素行(静大)
11	2011/12/19	地域社会と災害	矢守克也(京大防災研)
12	2012/1/16	警報と避難	牛山素行(静大)
13	2012/1/23	行政と災害対応	牛山素行(静大)
14	2012/1/30	ハザードマップ	牛山素行(静大)
15	2012/2/6	災害と身近な暮らし	牛山素行(静大)

3.4 静岡大学防災マイスター制度

1) はじめに

東海大地震の想定域にある静岡大学では、防災総合センターを設立し、防災に関する研究・地域連携に務めてきた。一方、学生教育面では、これまでも共通科目として「地震防災」「新入生セミナー（防災）」等を提供してきた。しかし、個々の授業で提供できる知識は十分体系的なものとは言えなかった。先の阪神・淡路大震災、東北宮城県沖地震を見ても分かるように、地震その他の天災による被害を減じるためには、ハード面のみならずソフト面の充実が欠かせず、教育機関が果たす役割は大きい。そこで、本学では地域の防災力向上に貢献するため、「静岡大学防災マイスター称号付与制度」を平成23年度より立ちあげ、一定レベルの防災知識を備えた学生を養成して社会に送り出すこととした。初年度となる2011年度は、波及効果が高いと考えられる防災力を持った教員養成を念頭におき、教育学部で試行的に実施した。

2) 防災マイスター称号付与の条件

防災マイスター称号取得のためには、必修7単位、選択5単位以上の計12単位以上の履修が求められている。必修は共通科目の「地震防災」「地域社会と防災」に加えて、教育学部で開講している「学校におけるリスク管理」「防災科学実習」が指定され、自然科学的な知識のみでなく、自然災害のリスクや防災について広く考えるための人文社会系の授業も含まれている。また選択科目は以下の表のとおりで、教育学部の自然科学、地理学、心理学などの科目が広く指定されている。また、修了時には、受講した授業などを踏まえ、卒業後の職場や地域で、得た知識やスキルをどう生かすかをまとめたレポートを義務づけ、学習内容の整理を促している。

3) 平成23年度の実施状況と今後

23年度は、1年から4年まで計31名が申請をしたが、残すところあと1年である4年生から4名の申請があったことは、学生の関心が高いことを物語っている。実際にはこのうちの3名が修了レポートを提出し、審査の上、防災マイスターの称号を授与された。なお授与は卒業式時に学長より行われた。

平成24年には静岡キャンパスの全学部（教育、理、人文科学、農）で実施、また今後は対象学部の拡充の検討も予定している。

表 3-1 称号取得のための選択科目一覧

選択科目名	
健康体育 II	学校心理学
進化と地球環境	認知心理学
地球科学	地誌学
自然災害と現代社会	地理学研究法
自然災害学	社会調査法 I
地球システム	視聴覚教育メディア論
心理学入門	

4 プロジェクト・関連行事

4.1 科学技術振興調整費「ふじのくに防災フェロー養成事業」

4.1.1 事業の概要

(1)はじめに

近年、様々な形での防災関係の人材育成の取り組みが各地で行われつつある。静岡県では、平成8年から防災士養成講座を実施し、これまでに静岡県ふじのくに防災士（平成22年度に「静岡県防災士」を改名）を1250名輩出している。この講座の受講生は自治体・企業等での防災に関する実務に従事している防災実務者が多いことが特徴で、ふじのくに防災士取得者は相当数が実務にあたっている。

一方、同講座では講師による講義を聴く座学が中心で「広く浅い」基礎知識の習得にとどまる。防災実務の現場では地域特性・時代特性等、個々の状況にあわせた科学的・技術的知見の応用力が要求されるが、対応できる人材もその育成の場も少ない。そこで、静岡大学は静岡県と連携して平成22年度より、文部科学省の科学技術戦略推進費による地域再生人材創出拠点の形成事業「災害科学的基礎を持った防災実務者の養成」として「ふじのくに防災フェロー養成講座」構築に着手した。

(2)講座の概要

この講座では自治体や企業等で災害・防災に関する実務に従事している者を対象にする。災害発生後の危機管理ノウハウにとどまらず、災害の事前予防を目指して、地域の特性を理解し、科学的専門知識とその情報を読み解ける実践的応用力の習得を目標とする。

それぞれ原則1科目1日の形で開講される22科目の「講義・実習」と、担当教員による指導により個別の研究テーマの結果をとりまとめる「修了研修」を本講座のカリキュラムの主軸とした。講座修了は、(1)10科目以上の講義・実習の履修、(2)学会等の専門的な研究発表の場で修了研修の内容を発表すること、(3)講座全体の「ゼミ」である地域防災セミナーに1回以上出席することの3条件を満たすことで判定する。講義・実習はインターネット経由で視聴できるシステムを用意し、開講日に出席できない場合、3科目まではネット経由の受講を出席と認めた。

数ヶ月の準備期間を経て、第1期の出願期間は平成23年1月5日～1月28日とした。募集人数は10名程度で、応募資格として「静岡県ふじのくに防災士」、日本防災士機構「防災士」またはそれに準ずる資格を持ち、防災に関わる業務に従事していることとした。受講者の選考は提出された出願書類の内容を元にした一次選考、口頭試問及び面接を行う二次選考によった。一次選考結果は2月上旬に通知し、2月20日に二次選考、2月下旬に結果を通知した。なお、入学料及び受講料は無料としている。第2期はカリキュラムの大幅な変更はないものの、第1期の受け入れ人数が当初予定を超過し第2期も同様の傾向が見込まれるため修了研修の担当教員を第1期13名→第2期20名とした。また、一次選考に

時間的余裕を持たせるため、出願期間を平成 23 年 12 月 28 日から平成 24 年 1 月 13 日、二次選考を 2 月 19 日、結果を 2 月下旬に通知とした。

(3)応募者について

第 1 期は 10 名程度の募集に対し 53 名の応募があり、選考の結果 22 名を受け入れた。多数の応募があったため、一次選考条件を満たした者には次期選考で一次選考を免除する「準合格者」として通知した。応募者は幅広い年代から構成され(図 1)、勤務先を大きく分類すると民間企業、行政、教育機関の順に多かった(図 2)。ライフライン関係企業、市町村職員からの応募も期待されたが、ほとんどなかった。応募者居住地構成では、静岡県中部が多数を占めた(図 3)。少数だが、静岡県外からの応募者もあり、第 1 期受講生には 1 名が選考された。

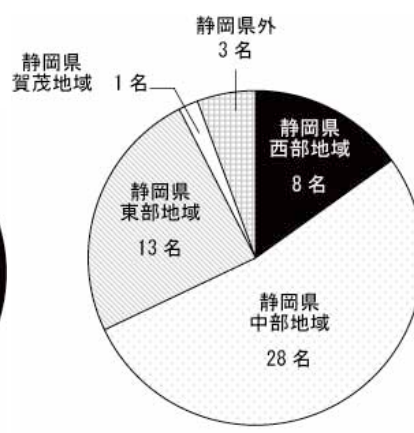
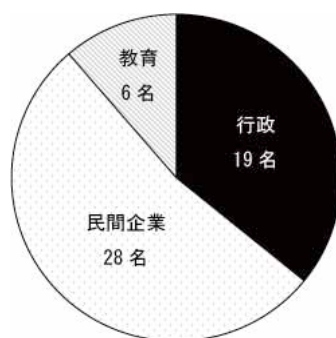
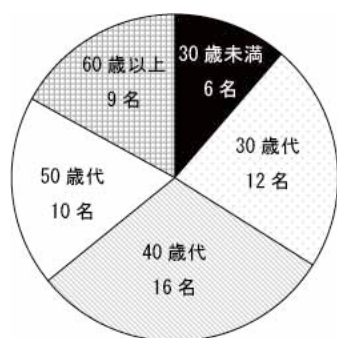


図 4-1 応募者の年代構成

図 4-2 応募者の勤務先構成

図 4-3 応募者の居住地構成

(4)実施状況

平成 23 年 3 月 11 日に起きた東日本大震災の影響により、3 月 19 日に開講予定であった初回講義・実習「自然災害科学概論」を中止し、4 月 9 日「災害社会工学」、7 月 9 日「地震工学」を延期という形で対応した。講義・実習では教員が講義をする座学形式だけでなく、教員を交えた受講生同士のディスカッション、受講生による課題発表、パソコンや計測機器等を用いた演習、大学周辺での野外実習、とくに「社会調査演習」では東日本大震災で津波被害にあった陸前高田市での現地実習を行う等様々な形式で実施された。各講義平均 14 名前後の出席があり、多様な業種の受講生同士の情報交換の場にもなっていた。遠方の受講生の要望により、5 月以降の開始時間は 30 分遅らせて 9:30 とした。ネット受講も数名が利用したほか、出席者が復習に利用する等有効に活用されている。一方で、屋外での実習を伴う場合は同システムの利用が困難なため、第 2 期では受講を認めないことにした。

既に 9 月の災害情報学会で 1 名、10 月の自然災害学会等で 2 名等、受講生から成果を発表したと報告があがっている。また、個々が自主的に成果を講演会や勤務先の報告会等で

紹介するといった活動につながっている。本稿執筆現在、第2期募集に対して43名の応募があり、一次選考中である。

(5)今後の展望

本講座の受講生や関係教員の意見交換も参考に浜松市津波対策委員会が構成されるなど、本講座を拠点とした人的な交流が地域防災の現場にあらたな動きをもたらす例も見られつつある。修了生、今後の受講生、関係教員によるMLなどを通じて、講座修了後も意見交換、連携を図れる体制作りを目指したい。カリキュラムについては第1期において特に大きな問題は見られなかったことから、受講生・教員の意見も集めつつ、さらに充実を図りたい。また、課題であるライフライン関係企業や市町村行政職員受け入れを目指し、課題の検討と改善、広報の強化が必要であろう。

4.1.2 修了生の個人研究成果

氏名：青島 晃

所属：静岡県立磐田南高等学校

県立高等学校の地学の教員として理科教育、防災教育に取り組んでいます。1981年から中遠行政センターの委託を受け、「昭和19年東南海地震に学ぶ」(1981)を始め、「昭和19年東南海地震の記録」(1982)、「写真で見る東南海地震」(1994)などを中心となって編集しました。また、磐田北高校では静岡県地震予知観測学習モデル校、浜松北高校、磐田南高校では地学部の顧問として地震観測や歴史地震の研究を指導し、日本学生科学賞で内閣総理大臣賞を受賞するなど、指導力を発揮しました。研究活動では東南海地震の約40,000件にも及ぶアンケート調査を静岡県西部地域や三重県南部で実施したり、歴史地震の液状化や津波の痕跡を地質学的手法により調査を行っています。現在、太田川河口で発見された津波堆積物中の礫や砂の起源を岩石学的、鉱物学的手法を用いて解明しています。また、袋井市の液状化対策の委員として、ハザードマップ作成のために、昭和東南海地震で発生した液状化の記録を提供しています。

氏名：上西智紀

所属：静岡県立伊豆総合高等学校教諭

1.2010～2011年度の研究活動

日本の学校におけるジオパーク教育の本格的な実践例はまだそれほど多くない中で、静岡県立伊豆総合高等学校では2010年度よりジオパークを教材とした教育活動を展開している。主な活動内容は生徒によるジオツアー、地域の小学校への出前授業、必修カリキュラム内でのジオパーク教育、伊豆半島内の高校間連携学習である。

生徒は、2010年度より伊豆半島に多数存在する地球活動の遺産（単成火山群、海底火山の痕跡、岩脈など）について、専門家からその成り立ちや価値を学んでいる。ジオツアーは、学習成果を地域の小中学生と他校の高校生に伝える形で実施している。ジオツアーを行う生徒は、部活動部員（自然科学部）、生徒会役員、有志生徒であり、概ね15人程度である。2011年11月からは、これらの生徒をインターアクトクラブとして統合し、活動している。2010年11月から2012年3月にかけてジオツアーは10回実施し、延べ259人が参加した。参加者の内訳は、小中高生101人、一般市民158人である。ジオツアーで使用するリーフレットも静岡県、伊豆半島ジオパーク推進協議会の協力を得て生徒が作成し、2012年2月までに5つのジオポイントのリーフレットが完成した。リーフレットは20,000部作成し、伊豆半島にある小中学校171校と各市町の教育委員会に送付された。2012年3月現在、作成したリーフレットの英語版も作成中である。

出前授業は伊豆市の小中学生対象に2011年10月から2012年2月までに4回実施し、延べ216人が参加した。出前授業の実施に当たり、赤色立体地図から火山を探すゲームや、伊豆半島の成り立ちを含めた地域の魅力を遊びながら学ぶカルタ（ジオカルタ）を教材として作成した。

年間通じた必修カリキュラム内（「総合的な学習の時間」）での年間を通じたジオパーク学習はおそらく日本で唯一であり、2011年度は総合学科2年生162人を対象に実施した。主な内容はインタープリターによる体験的学習、大学教員による講義、野外観察（ジオツアー）、学習発表、であった。総合的な学習の時間における実施率は45.8%（全33時間中16時間）であった。

高校間連携学習では、静岡県立松崎高等学校、静岡県立下田高等学校南伊豆分校、静岡県立伊東高等学校と連携し、2011年度は合同のジオツアーや学習発表会など5回の学習機会を設け、延べ100人が参加した。

2.今後の活動と展望

これまでの活動をまとめ、2012年5月12～15日に島原市で行われる第5回国際ユネスコジオパーク会議、2012年5月20日に幕張メッセで行われる日本地球惑星科学連合2012大会にてポスター発表する。また、ジオパークに関する教育活動はユネスコの理念に通じるため、2012年3月末現在、ユネスコスクールへの加盟申請中である。その他、2012年度はジオパークに関連した物理・化学分野の学習として、温度差発電機の製作を行う。

氏名：加畑勝之

所属：静岡県静岡土木事務所 都市計画課長

私は土木技術者として主に河川事業や防災に係る業務に従事してきましたが、2011年は、「ふじのくに防災フェロー」を受講し、藤井直之先生、石川有三先生のご指導のもと駿河湾沖地震に伴う静岡県周辺の地殻活動について検証しました。

氏名：桑原雅典

所属：株式会社建設コンサルタントセンター

私は、民間の建設コンサルタントにおける土木技術者として、社会インフラの調査・設計を行っております。

自身の技術力研鑽を目的に、昨年の2011年に第1期生として、静岡県ふじのくに防災フェロー取得に挑戦いたしました。プログラム中の修了研究では、里村教授ならびに生田助教のご指導の下、地球物理学研究室に所属しておりました。

現在の研究テーマは、東北地方太平洋沖地震前の日本海溝における余震活動の解析になります。具体的には過去の大地震により発生した余震数の時間変化を評価し、巨大地震と評価値の関連を研究しております。

4.1.3 修了生の研究業績リスト

● 学術論文

- 青島 晃・土屋 光永:平成 21 年 8 月 11 日の駿河湾の地震により牧之原市須々木で発生した液状化, 地質学雑誌, 116, 3, III-IV, 2010.
- 青島 晃・佐藤友哉・鈴木竜成・下谷豪史:遠州灘の砂に含まれるざくろ石の性質と起源の推定, 伊那谷自然史論集, 12, pp.19-24, 2011.
- 小山真人・村越真・上西智紀:ジオパークのガイド養成課程における大地の成り立ちの理解とその価値への気付き - 伊豆半島の高校生に対するケーススタディー -, 静岡大学教育実践総合センター紀要 19, 11-18, 2011.
- 村越真・小山真人・上西智紀:ジオツアーによる大地の成り立ちの理解とその価値への気付き - 伊豆半島の地元高校生を対象とした検証 -, 日本火山学会講演予稿集 2010, 8-9, 2010.
- 村越真・小山真人・上西智紀:ジオパークでの地形・地質学的特徴把握を促進する地図表現の検討 - 赤色立体地図を事例として -, 地図, 49, 17-27, 2011.
- 牛山素行・横幕早季・貝沼征嗣:2010 年 9 月 8 日静岡県小山町豪雨災害における避難行動の検証,水工学論文集,No.56,pp.1093-1098,2012.

● 学会口頭発表

- 青島 晃・土屋光永, 2009 年 8 月 11 日の駿河湾の地震により牧之原市須々木で発生した液状化, 日本地震学会, 2011 年 10 月.
- 加畑勝之, 大地震前後における地殻活動の変化ー2009 年 8 月 11 日駿河湾沖地震 (M6.5) を例にー, 平成 23 年度中部地域災害科学研究集会, 2012 年 2 月 29 日.
- 貝沼征嗣・牛山素行, 実災害記録に基づく豪雨災害対応行政危機管理演習構築の試み, 平成 23 年度中部地域災害科学研究集会, 2012 年 2 月 29 日.
- 貝沼征嗣・横幕早季・牛山素行, 2010 年 9 月 8 日の大雨による静岡県小山町での災害について, 第 30 回に本自然災害学会学術講演会, 2011 年 11 月.
- 小林正人・村越真, 家具・冷蔵庫などを固定するためのキッカケについての一考察, 平成 23 年度中部地域災害科学研究集会, 2012 年 2 月 29 日.
- 桑原雅典・生田領野, 日本海溝における過去 10 年間の余震系列解析, 自然災害研究協議会中部地区部会, 2012 年 2 月.
- 諸橋 良, 佐野友絵, 原田賢治:静岡市清水区における巴川を遡上した東北地方太平洋沖地震に伴う津波, 第 30 回日本自然災害学会年次学術講演会, 2011 年 11 月.
- 諸橋 良, 石原宏之, 巴川水系長尾川上流域における大規模崩壊危険箇所の地形解析, 平成 23 年度自然災害科学中部地区研究集会, 2012 年 2 月.
- 根本泰雄・上西智紀・斉藤 誠・岩田孝仁・中川和之・小山真人・美澤綾子・荒井賢一・南島正重・宮島 敏・中島 健・伊東明彦・数越達也, 日本地震学会主催教員免許状更

新講習の講座で求められる教育内容，日本地震学会 2011 年秋季大会，2011 年 10 月。
菅沼忠嗣，富士川河口断層帯の地下構造に関する考察，平成 23 年度中部地域災害科学研究
集会，2012 年 2 月 29 日。

数越達也・斉藤 誠・小山真人・岩田孝仁・中川和之・上西智紀・伊東明彦・根本泰雄・
荒井賢一・中島 健・美澤綾子・南島正重，教員サマースクール 2011「地震・火山を学
校でどう教えるか」の実施と教員免許状更新講習の開設，日本地震学会 2011 年秋季大
会，2011 年 10 月。

鈴木富男，西伊豆（土肥周辺）における津波史跡とその活用について，平成 23 年度中部地
域災害科学研究集会，2012 年 2 月 29 日。

遠山忠昭・牛山素行，静岡県気象災害小史からみる大雨災害の特徴，平成 23 年度中部地域
災害科学研究集会，2012 年 2 月 29 日。

内山敬介・岩田孝仁，静岡県災害対策本部における災害情報の共有と可視化への挑戦 デ
ータベースと GIS の導入による，日本災害情報学会第 12 回研究発表大会，2010 年 10
月。

内山敬介・岩田孝仁・牛山素行，危機対策における防災システムの導入とあり方，日本災
害情報学会第 13 回研究発表大会，2011 年 10 月。

上西智紀，「総合的な学習の時間」におけるジオパーク教育の実践と防災教育としての可能
性の検証，平成 23 年度自然災害科学中部地区研究集会，2012 年 2 月 29 日。

●その他の著作物

青島 晃：地学オリンピックと磐田南高校の取り組み，静岡地学，pp.33-35，2010。

諸橋 良，佐野友絵，原田賢治：静岡市清水区における巴川を遡上した東北地方太平洋沖地
震に伴う津波，第 30 回日本自然災害学会年次学術講演会概要集，pp.79-80，2011。

諸橋 良，石原宏之：巴川水系長尾川上流域における大規模崩壊危険箇所の地形解析，平成
23 年度自然災害科学中部地区研究集会予稿集，pp.17-18，2012。

●受賞

青島 晃，ジャパンサイエンス&エンジニアリングチャレンジ 2010 インテル賞，2010
年 12 月 11 日

諸橋 良，平成 23 年度静岡県交通基盤部技術発表会，優秀賞 静岡大学と連携した津波防
災に係る取り組み，2012 年 2 月 3 日

諸橋 良，平成 23 年度静岡県交通基盤部職員表彰 部長優秀 静岡大学と連携した津波防
災に係る取組，2012 年 3 月 14 日

4.1.4 修了生の社会的活動

●外部・公開講演会等

青島晃，第16回 静岡産業大学公開講座・第5回磐田市新天平のまち講座，静岡産業大学・磐田市，磐田市，2011年6月4日

諸橋 良，平成23年度静岡県交通基盤部技術発表会「静岡大学と連携した津波防災に係る取り組み～静岡市清水区における巴川を遡上した東北地方太平洋沖地震に伴う津波を事例として～」，主催:静岡県交通基盤部，静岡市葵区，2012年2月3日

諸橋 良，市民防災講座「巴川の地形と津波～巴川を遡上した東北地方太平洋沖地震に伴う津波を事例として～」，共催:静岡市治水交流資料館「かわなび」・静岡大学防災総合センター，静岡市駿河区，2012年2月4日

諸橋 良，市民防災講座「巴川の地形と津波～巴川を遡上した東北地方太平洋沖地震に伴う津波を事例として～」，共催:静岡市治水交流資料館「かわなび」・静岡大学防災総合センター，静岡市駿河区，2012年2月18日

上西智紀，伊豆半島ジオパーク構想シンポジウム，静岡県・伊豆半島6市6町首長会議，静岡県，2010年7月6日

上西智紀，「伊豆の魅力を探る - ジオパークの構築 - 」，NPO 法人まちこん伊東，静岡県伊東市，2011年10月17日

上西智紀，河津町森林づくり大作戦，河津町，静岡県，2011年5月21日

上西智紀，伊豆市ジオパーク市民講座，伊豆市，静岡県，2011年6月15、6月29日、7月13日、7月27日、8月10日、8月24日

上西智紀，教員免許更新講習及び教員サマースクール，日本地震学会，静岡県，2011年8月4日

上西智紀，伊豆市市民ジオツアー，伊豆市，静岡県，2011年10月23日

上西智紀，ふじのくに防災フェロー養成講座「第一期から第二期に向けて」，静岡大学防災総合センター・静岡県，静岡，2012年2月29日

●マスメディア・新聞等への掲載

青島晃・北村晃寿，静岡新聞，太田川河口での津波堆積物発見，2011年10月1日

平川一臣・岡村眞・藤原治・青島晃，NHK教育・全国放送，E T V特集・シリーズ大震災発掘・第2回巨大津波・新たなる脅威，2011年12月25日

青島晃，NHK総合ニュース・全国放送，昭和東南海地震による袋井市の液状化とハザードマップ作成，2012年3月11日

諸橋 良，佐野友絵，静岡新聞，「巴川津波67時間継続」，平成23年10月11日夕刊

諸橋 良，静岡新聞，「巴川沿いの避難危険」，平成24年2月19日朝刊

上西智紀，伊豆日日新聞，ジオパーク講座の実施，2010年6月1日

上西智紀，伊豆新聞，伊豆半島ジオパーク構想シンポジウム，2010年7月7日

上西智紀，伊豆新聞，まちこん伊東シンポジウム，2010年10月18日

上西智紀，静岡新聞，まちこん伊東シンポジウム，2010年10月19日

上西智紀, 三建だより, 人物紹介, 2011年2月1日
上西智紀, 朝日新聞, 伊豆半島ジオパーク構想, 2011年2月13日
上西智紀, SBS テレビ, 浄蓮の滝の解説, 2011年5月3日
上西智紀, 伊豆日日新聞, 伊豆総合高・松崎高合同ジオツアー, 2011年5月30日
上西智紀, 伊豆日日新聞, 伊豆総合高・松崎高・下田南伊豆分校合同ジオツアー, 2011年
6月6日
上西智紀, 伊豆新聞, 伊豆総合高・松崎高・下田南伊豆分校合同ジオツアー, 2011年6月
6日
上西智紀, 伊豆日日新聞, 伊豆市ジオパーク市民講座, 2011年6月17日
上西智紀, 静岡新聞, 伊豆市ジオパーク市民講座, 2011年6月17日
上西智紀, 伊豆日日新聞, 伊豆総合高同窓会総会, 2011年6月21日
上西智紀, 伊豆日日新聞, 伊豆市教育委員会主催ジオ教室開催, 2011年8月18日
上西智紀, 広報いず, 伊豆市ジオパーク市民講座, 2011年8月
上西智紀, 静岡新聞, 人物紹介, 2011年8月26日
上西智紀, 伊豆日日新聞, 青少年交流事業, 2011年8月27日
上西智紀, 静岡新聞, 総合学習でジオツアー, 2011年9月30日
上西智紀, 伊豆日日新聞, 総合学習でジオツアー, 2011年10月1日
上西智紀, 静岡新聞, 伊豆市市民ジオツアー, 2011年10月24日
上西智紀, 伊豆日日新聞, 伊豆市市民ジオツアー, 2011年10月25日
上西智紀, 伊豆日日新聞, 伊豆半島ジオパーク特集, 2011年11月10日
上西智紀, SBS ラジオ, 学校自慢, 2012年2月11日
上西智紀, 伊豆日日新聞, 富士山の日出前授業, 2012年2月24日
上西智紀, 朝日新聞, ふじのくに防災フェローシンポジウム, 2012年3月9日
上西智紀, エフエム熱海湯河原, ジオパーク特集, 2012年3月14日

●公的な委員会等

青島晃, 袋井市液状化被害軽減対策検討会対策委員, 2011年8月～2012年4月

4.2 ICTを活用した災害時等広域連携化（人材育成）業務

本業務は、総務省「平成23年度地域ICT利活用広域連携事業」において、静岡県の「情報通信技術を活用した災害時等広域連携強化事業」が選定されたことに伴い、静岡大学防災総合センターが同事業の実施業務を受託したものである。本業務は、静岡県内で大災害発生時において、迅速に情報を収集・共有し、的確な災害対応を行うために開発した防災情報システムの検証を行い、併せて、ICT人材の育成を行うことを目的とした。当センターでは、平成22年度にもほぼ同様の業務を受託し、2年間にわたり、静岡県危機管理部との連携のもと、本事業を遂行した。以下に、平成23年度の主な実施内容を挙げる。

●ICT技術を活用した災害時等広域連携化 検証Ⅰ

学生に防災情報システムの概要、操作方法を習得させる。県、市町の立場から物資支援要請の操作、入力をし、検証を行う。

期日・場所：平成24年2月20日。静岡大学。

参加人数：12名（静岡大学学生）

実施内容：事前説明，防災システム操作説明，演習，防災システム操作検証，課題だし

●ICT技術を活用した災害時等広域連携化 検証Ⅱ

検証Ⅰの結果を受け、有識者の指導の下ワークショップ形式の課題整理を行い、評価システム構築へ反映する。

期日・場所：平成24年2月21日。静岡県庁。

参加人数：17名（静岡県庁職員、）

実施内容：事前説明，ワークショップ，ディスカッション

●ICT技術を活用した災害時等広域連携化検証Ⅲ

検証Ⅰの結果をもとに修正した防災システムを学生に操作させ、修正点の確認や新たな修正点の検証を行う。検証Ⅰと同様の、県、市町の立場に分かれての物資支援要請の操作、入力、及び、県、方面本部、市町に分かれての医療救護画面の操作、入力を行う。

期日・場所：平成24年3月13日。静岡大学。

参加人数：9名（静岡大学学生）

実施内容：事前説明，防災システム操作検証，課題だし

●ICT技術を活用した災害時等広域連携化 検証Ⅳ

検証Ⅲの結果を受け、有識者の指導の下ワークショップ形式の課題整理を行い、評価システム構築へ反映する。

期日・場所：平成24年3月15日。静岡県庁。

参加人数：5名（静岡県庁職員、）

実施内容：事前説明，ワークショップ，ディスカッション

4.3 防災学創出に関する調査研究業務

静岡県は、県が持つ防災に関する知と経験と、国内外からの知見との協働により、しずおか防災コンソーシアム中心とし、静岡県における新たな学「防災学」として体系化を行い、地域住民等の防災活動へ反映し、東海地震等大規模災害から減災を促進することを目指している。本業務は、防災行政、教育等に反映を目的として、防災に関する学問分野領域の整理、「防災学」の領域の定義化、「防災学」関連教材等の提案を行うもので、静岡大学防災総合センターが静岡県より同事業の実施業務を受託したものである。以下に、平成23年度の報告書目次を挙げる。

1. 災害・防災に関する基礎的概念の整理
 - 1.1. 災害の構造
 - 1.1.1. 「災害」とは
 - 1.1.2. Hazard と Disaster
 - 1.1.3. 素因と誘因
 - 1.1.4. 災害のライフサイクル
 - 1.2. 防災の構造
 - 1.2.1. 防災・減災
 - 1.2.2. ハード防災とソフト防災
 - 1.2.3. ハード防災とソフト防災の決定的相違
2. 「防災学」「災害科学」
 - 2.1. 「防災学」という言葉について
 - 2.2. 災害科学の「総合化」前史
 - 2.3. 日本自然災害学会の発足以降
 - 2.4. 近年の災害科学の広がり
 - 2.5. 京大防災研 21世紀 COE「災害学理の究明と防災学の構築」
3. 全国大学の防災関係研究所・センターの動向
 - 3.1. 背景
 - 3.2. 調査手法
 - 3.3. 結果
 - 3.3.1. 抽出された部局名
 - 3.3.2. 防災関係部局名に見られる傾向
4. 静岡を事例地とした地域防災のための防災学整理に向けて

図 4-4 防災学創出事業報告書の目次

4.4 しずおか防災コンソーシアム・土曜セミナー

静岡県では県危機管理部，教育委員会および静岡大学，浜松医科大学，静岡県立大学，静岡文化芸術大学，東海大学，富士常葉大学の県内 6 大学，気象台，報道機関各社を加えた「しずおか防災コンソーシアム」が平成 21 年 4 月に発足した。

このコンソーシアムは，県内の防災に携わる研究者と専門家等の多面的な交流や情報発信を目的としており，その一環として，静岡県地震防災センターを会場として，市民向け公開講座「しずおか防災コンソーシアム地域連携土曜セミナー」を，おおむね 1 ヶ月に 1 回のペースで定期的開催している。コンソーシアムの準備段階からこのセミナーは始まり，平成 20 年度から平成 23 年度までに 45 回開催し，平成 23 年度からは「ふじのくに防災学講座」と名称を変え，今後も継続の予定である。防災総合センターでは，静岡県地震防災センターと連携してこのセミナーの運営に当たっている。平成 22 年度からは，参加 6 大学と静岡県がそれぞれ持ち回りで担当回を持つ形で運営している。静岡県の防災研究者，防災行政関係者，市民の定期的な交流の場として定着しつつある。

●平成 22～23 年度までのセミナー一覧

第 26 回「2009 年 8 月 11 日に発生した駿河湾地震の被害状況を調査した結果報告」H22.4.17

第 27 回「地球の力学的進化と静岡大学の防災戦略」 H22.5.15

第 28 回「静岡県の防災力」、「静岡県・浙江省防災会議」では言えなかった幾つかの点について」 H22.6.19

第 29 回「2010 年 2 月 28 日チリ地震津波の際の避難行動調査の概要」 H22.7.10

第 30 回「近年の国内外の被害地震とその教訓」 H22.9.25

第 31 回「地域との交流を活かした看護師教育の推進」 H22.10.23

第 33 回「災害知見と教訓をどうやって子どもたちへ伝えていくか」 H22.12.18

第 34 回「火山からみた富士山」 H23.2.19

第 35 回「市民による災害救護訓練のあり方」 H23.3.12※東北地方太平洋沖地震(3/11 発生)のため中止

第 36 回「平成 23 年(2011 年)東北地方太平洋沖地震現地調査緊急報告会」 H23.4.16

第 37 回「市民による災害救護訓練のあり方」 H23.5.28

第 38 回「福島第一原子力発電所で何が起こったのか」 H23.6.11

第 39 回「東日本大震災、被災地での津波防災対策と津波被害の概要」 H23.7.16

第 40 回「地震先行現象の科学～前兆的な電磁気シグナル発生に関するセンターの取り組み～」 H23.9.17

第 41 回「ICT活用から見た東日本大震災」 H23.10.22

第 42 回「建築と防災～耐震設計の現状～」 H23.12.3

第 43 回「東海地震に備えて～いざというときの心理と行動～」 H23.12.17

第 44 回「富士山の噴火予知」 H24.2.18

4.5 文部科学省防災教育支援推進プログラム「防災教育支援事業」

自然災害による被害の軽減には、国民一人ひとりが、事前の準備や災害発生時の行動における、適切な対応を身につけることが不可欠であり、こうした能力の向上を図るため、社会全体における防災教育が果たす役割は極めて大きい。しかし、防災教育に関する取組は、人材や教材の不足等により、地域的な差異が大きく、全国的に見ると不十分と考えられてきた。このような背景から文部科学省では平成20年度から防災教育支援推進プログラム・防災教育支援事業に着手し、全国の大学や地方公共団体に企画の公募を行い、平成20年度8件（釜石市、人と防災未来センター、山口大学、愛媛大学、東京大学、香川大学、北海道大学、環境防災総合政策研究機構）が採択されたのに続けて、平成21年度も事業の公募を行った。静岡大学では本事業に応募し、気仙沼市、雲仙岳災害記念館、阿蘇火山博物館、徳島県と並んで採択された。

本事業では静岡県のおかれた災害環境＝地震災害と津波災害がほとんど時間差なく連続して起こる、に着目した、防災教材の作成、教員向け研修、実践的な学校教育プログラムの開発を行った。2年間の実施期間に津波動画などの防災教材の開発や、地域特性を踏まえた防災教育プログラムの開発などを行った。

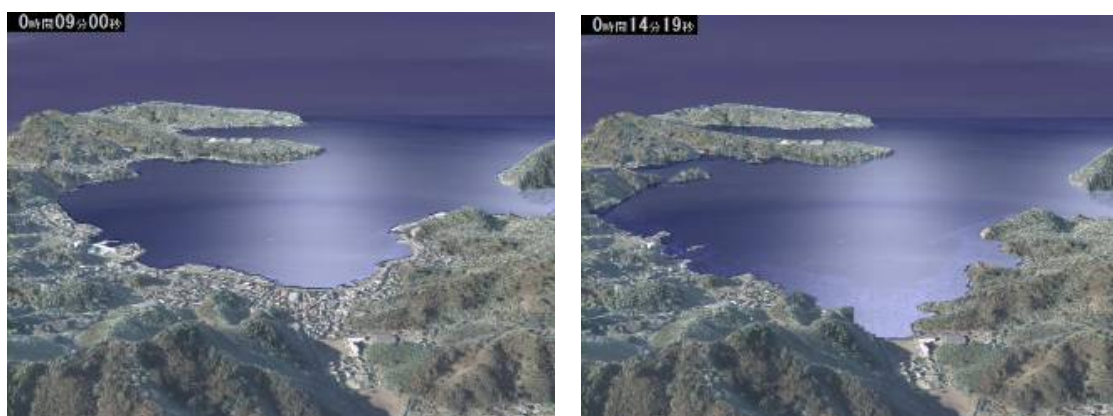


図 4-5 本事業で作成された津波浸水動画の例



写真 4-1 2010年12月15日に行われた教員研修で講演する林能成准教授

4.6 防災・日本再生シンポジウム

「多角的な災害教訓を踏まえた静岡地域の地域防災を考える」

本シンポジウムは、一般社団法人国立大学協会による平成23年度防災・日本再生シンポジウム募集に、静岡大学が応募、採択されたことにより実施したものである。

静岡県は東海地震の危険性が指摘されて以来30年以上にわたり、種々の防災対策が講じられてきた。この結果ハード、ソフト両面での成果が上がりつつあるが、「地震(かつ事前予知の可能性あり)の揺れによる被害」という限定的な現象に対するイメージ的な関心が先行し、東日本大震災でも注目された津波災害や、より高頻度に発生する豪雨災害などに対する注意が必ずしも具体的になっていないことが懸念されている。地震のみをイメージした地域防災の取り組みが、豪雨災害においてかえって被害を拡大した可能性があることも近年の事例では指摘されており、特定の現象にばかり目を向けず、広い視野を持つ必要がある。本事業は、静岡大学防災総合センターを結集軸とした多様な人材により、地震、津波、豪雨、火山など、さまざまな災害について、理工学的・社会的な幅広い立場から話題提供を行い、静岡を中心とした地域防災の今後について考える事を目的とした。

シンポジウムは静岡県内の沼津、静岡、浜松の3都市を会場に実施された。各会の概要は以下の通りである。

(1)10月16日(日) 静岡商工会議所5Fホール(静岡市)

○基調講演

北村晃寿(防災総合センター併任准教授・静岡大学理学部)

「静岡県内における津波堆積物調査について」

武村雅之(防災総合センター客員教授・小堀鐸二研究所)

「歴史地震に学ぶ大切さー東日本大震災と関東大震災」

○パネルディスカッション

パネリスト：北村晃寿、武村雅之、大島広美(静岡地方気象台長)、小山真人(防災総合センター副センター長・静岡大学教育学部)。コーディネータ：牛山素行(防災総合センター副センター長)。

(2)11月5日(土) 沼津市立図書館4階視聴覚ホール(沼津市)

○基調講演

野津憲治(防災総合センター客員教授)

「自然を深く知ることは、一歩進んだ防災に繋がる」

原田賢治(防災総合センター専任准教授)

「津波災害の特徴と防災対策」

○パネルディスカッション

パネリスト：野津憲治、原田賢治、岩田孝仁(静岡県危機管理部危機報道監)、小山真人(防災総合センター副センター長・静岡大学教育学部)。コーディネータ：牛山素行(防災総合センター副センター長)。

(3)11月6日(日) プレスタワー17階静岡新聞ホール(浜松市)

○基調講演

林能成(防災総合センター客員准教授・関西大学社会安全学部)

「地震と津波に備える」

鈴木清史(防災総合センター客員教授・日本赤十字九州国際看護大学)

「人からはじめる防災・減災」

○パネルディスカッション

パネリスト：林能成，鈴木清史，近藤聡(静岡県危機管理部危機情報課長)，前田恭伸(防災総合センター併任准教授・静岡大学工学部)．コーディネータ：牛山素行(防災総合センター副センター長)．

5 社会的活動

5.1 外部・公開講演会等

千木良雅弘, 京都大学防災研究所特定研究集会「深層崩壊の実態・予測・対応」(研究代表者), 京都大学防災研究所, 2012年2月18日

千木良雅弘, Deep-seated catastrophic landslides induced by recent earthquakes and rainstorms. 台湾中央地質調査所, 2012年3月15日

Chigira, M., International School on “Landslide Risk Assessment and Mitigation” that was founded by the University of Salerno.での授業, 成都理工大学, 2011年11月29日

千木良雅弘, 東日本大震災がもたらした教訓と応用地質学の課題, 全国地質調査業協会主催, 東京飯田橋, 2011年7月15日

千木良雅弘, Deep-seated landslides induced by recent earthquakes and rainstorms 研修会, イタリア、クールマイヨール, 2011年9月16日

Chigira, M., What we learned from the great Tohoku earthquake for the natural hazards and disaster risk reduction, Asia Pacific Science Congress: Meeting the Challenges of Global Changes, Kuala Lumpur, 15 Jun 2011

千木良雅弘, 深層崩壊と初生地すべりの地質・地形的予測の現状, 日本学術会議, 土木工学・建築学委員会 地球環境の変化に伴う水・土砂災害分科会, 2010年10月26日

Chigira, M., Deep-seated landslides induced by recent earthquakes and rainstorms and weathering profiles related to shallow landslides, Geology and Nuclear Sciences, New Zealand, 26 August 2010

藤井基貴, 「21世紀の公教育—オルタナティブ・スクールとの対話—」(公開シンポジウム), 中部教育学会, 静岡大学, 2011年6月25日

藤井基貴, 「デモクラティックスクールの可能性」(ラウンドテーブル), 中部教育学会, 静岡大学, 2011年6月25日.

藤井基貴, 「父親の子育て参加」白川町子育て支援ネットワーク協議会, 白川町教育委員会, 岐阜県加茂郡白川町, 2012年2月14日

藤井基貴, 「『防災道徳』教育の教材開発と授業実施」静岡大学地域連携協働センター公開シンポジウム, 静岡大学, 2012年1月26日

藤井基貴, 「カラーイマジネーション」白川町ユースカレッジ, 岐阜県加茂郡白川町, 2011年8月17日

藤井直之, 地球科学研究会『なぜ想定外だったか?～東北地方太平洋沖地震(M9.0)～』, 放送大学(自然の理解研究室), 幕張(千葉県), 2011年4月10日

FUJII, N., Submarine Eruption of the East-Izu Monogenetic Volcano Region, MAKAVOL 2011, Teneguia Workshop, La Palma, Spain, 26 October 2011.

藤井直之，静岡サイエンススクール特別講演・「地震・火山噴火を予測する～予測の科学へのアプローチ～」，静岡大学，静岡市，2011年11月20日

藤井直之，地球科学研究会『予測科学へのアプローチ：天気予報と地震予知の違い』，放送大学（自然の理解研究室），幕張（千葉県），2011年2月19日

藤井直之，地震予知シンポジウム関西サイエンス・フォーラム，（財）国際高等研究所，（財）国際高等研究所 216号室(奈良)，2011年3月25日～26日

藤井直之，第1回アジア太平洋大規模地震・火山噴火リスク対策ワークショップ，産防科技研・産綜研 主催，産綜研大講堂，つくば市，2012年2月22日～25日

秦 康範，山梨大学公開授業，山梨大学，甲府市，2010年8月5日

秦 康範，地震工学早わかり講義（防災計画），日本地震工学会，つくば市，2010年11月19日

秦 康範，定例勉強会，山梨県技術士会，甲府市，2011年4月23日

秦 康範，市民講座，南アルプス市，南アルプス市，2011年7月23日

秦 康範，管理職研修・教頭研修会，山梨県教育委員会，笛吹市，2011年8月19日

秦 康範，BCP普及特別普及研修会，鳥取県，倉吉市，2011年8月31日

秦 康範，PTA研修会，田富中学校，中央市，2011年11月4日

秦 康範，地震総合防災訓練，長野県，長野市，2011年11月17日

秦 康範，出前講座，甲府市立北東中学校，甲府市，2012年2月17日

秦 康範，定例勉強会，八駒会，甲府市，2012年2月28日

原田賢治，第44回静岡県河川協会総会講演会，静岡県河川協会，静岡市，2011年6月2日

原田賢治，富士市津波対策講演会，富士市，富士市，2011年7月2日

原田賢治，袋井市防災講演会，袋井市，袋井市，2011年7月23日

原田賢治，静岡市津波講演会，静岡市，静岡市，2011年7月30日

原田賢治，地域学研究センター開設記念シンポジウム「地震・津波防災対策を踏まえた事業継続計画（BCP）の見直し」基調講演，静岡産業大学，静岡県藤枝市，2011年8月25日

原田賢治，道路橋の長寿命化並びに東日本大震災に関する講演会，国土交通省中部地方整備局・静岡県，静岡市，2011年11月1日

原田賢治，平成23年度防災・日本再生シンポジウム第2回基調講演「津波災害の特徴と防災対策」，静岡大学・国立大学協会，静岡県沼津市，2011年11月5日

原田賢治，大規模地震対策特別委員会参考人招致，静岡県議会，2011年11月25日

原田賢治，第1回津波対策講演会「津波対策におけるソフト対策の改善方法と課題」，松崎町，松崎町，2011年12月6日

原田賢治，日本機械学会東海支部第117回講習会「防災技術の現状と将来展望」基調講演，日本機械学会東海支部，名古屋市，2012年1月26日

原田賢治, 浜松市津波シンポジウム-津波対策を考える-, 浜松市, 浜松市, 2012年3月18日

林拙郎, 第5回土砂災害シンポジウム基調講演, 土木学会西部支部, 山口市, 2010年8月10日

林拙郎, 三重県森林協会講演会講演, 三重県森林協会, 津市, 2011年7月13日

林拙郎, 三重県河川・砂防講演会講演, 三重県県土整備部河川・砂防室, 2011年10月25日

林拙郎, 山地災害シンポジウム講演, 鳥取県農林総合研究所, 鳥取市, 2012年1月21日

林拙郎, 中部建設センター研修会講演, 中部建設センター, 名古屋市, 2012年3月14日

林 能成, 8.11駿河湾の地震の被害調査結果, しずおか防災地域連携第26回土曜セミナー, 静岡県地震防災センター, 2010年4月17日.

林 能成, 東海地震の現状と防災に関する基礎知識, 災害後のこころのケア研修会, 静岡県男女共同参画センターあざれあ2階大会議室, 2010年5月9日.

林 能成, 災害事例から学ぶ地震への備え, 藤枝市防災研修会, 藤枝市民会館, 2010年6月24日.

林 能成, 津波のとき、逃げねばならない理由, 2010チリ津波調査報告会, 松崎町環境改善センター, 2010年7月12日.

林 能成, 津波のとき、逃げねばならない理由, 2010チリ津波調査報告会, 湖西市新居町向島公民館, 2010年7月13日.

林 能成, 駿河湾の地震に関する調査結果, 防災公開講座2009年8月11日駿河湾を震源とする地震から1年が経過して, 静岡県地震防災センター, 2010年8月6日.

林 能成, 津波のとき、逃げねばならない理由, 2010チリ津波調査報告会, 陸前高田市気仙地区コミュニティーセンター, 2010年9月1日.

Yoshinari Hayashi, Big Tsunami Survivor, TOR WORKSHOP RISTEK-LIPI, JICA-JST, "BERBAGI PENGETAHUAN TENTANG BENCANA TSUNAMI ACEH 2004", Bantul, Indonesia, 2010年10月5日.

林 能成, 2009年駿河湾地震による被害の特徴と今後の防災対策への教訓, 牧之原市防災研修会, 牧之原市相良総合センターい〜ら, 2010年10月15日.

林 能成, 災害事例から学ぶ地震への備え, 0富士市防災耐震セミナー, ラ・ホール富士, 2010年10月17日.

林 能成, 平成21年8月11日に発生した駿河湾を震源とする地震について, 第1回静岡県防災・原子力学術会議, 男女共同参画センター「あざれあ」2階大会議室, 2010年10月23日.

林 能成, 地震災害, 熱海市観光・防災まちづくり推進事業防災出前講座, 網代公民館, 2010年12月5日.

林 能成, 地震災害, 熱海市観光・防災まちづくり推進事業防災出前講座, 多賀小学校,

- 2010年12月5日.
- 林 能成, 地震災害, 熱海市観光・防災まちづくり推進事業防災出前講座, 伊豆山小学校, 2010年12月12日.
- 林 能成, 地震災害, 熱海市観光・防災まちづくり推進事業防災出前講座, 和田山公民館, 2010年12月12日.
- 林 能成, 地震と津波から生き残るために, 防災教育支援事業出前講座, 東伊豆町立大川小学校, 2010年12月15日.
- 林 能成, 地震と津波に備える, 清水隣保館保育園, 2011年1月15日.
- 林 能成, 津波避難の諸問題 東海・南海地震, 第1回震災予防講演会「大津波の予感」, パシフィコ横浜, 2011年2月4日.
- 林 能成, 過去の災害教訓に学ぶ地震への備え, 富士宮市防災耐震セミナー, 富士宮市総合福祉会館, 2011年2月20日.
- 林 能成, 東海地震第3次被害想定について, 第6回静岡県内外の災害ボランティアによる救援活動のための図上訓練, 静岡市民文化会館, 2011年3月5日.
- 林 能成, 東海地震が来たら江尻地域はどうか?—地震と津波—その備えと対処は—, 江尻地区防災講演会, 静岡市江尻生涯学習交流館3階集会室, 2011年3月8日.
- 林 能成, 2011年東北地方太平洋沖地震、「想定外」の背景をさぐる, 第5回地域防災・防災展(大阪), インテックス大阪, 2011年6月10日.
- 林 能成, 東日本大震災から学ぶべき多くのこと～想定外と想定内～, 江尻地区防災講演会, 静岡市江尻生涯学習交流館3階集会室, 2011年6月24日.
- 林 能成, 高所への避難でいのちを守る～現地聞き取り調査からの考察～, 神戸大学都市安全研究センター講演会, 神戸大学都市安全研究センター, 2011年6月25日.
- 林 能成, 東日本大震災を理科の視点で考える～超巨大地震と津波～, 関西大学高等部1年「安全基礎」, 高槻ミューズキャンパス M602, 2011年6月29日.
- 林 能成, 高校生のための地震防災～これから地震とどう向き合うか～, 静岡高校防災講演会, 静岡県立静岡高等学校, 2011年7月1日.
- 林 能成, 東日本大震災の被害の特徴と現地活動の注意点, 関西大学被災地に学ぶプロジェクト講習, 2011年7月29日.
- 林 能成, 文系・理系なんて言っている場合じゃない～地震防災を考える～, 協定大学によるオープンキャンパス特別講演, 早稲田大学, 2011年8月7日.
- 林 能成, 土地による地震被害の差に学ぶ～安政東海地震を中心に～, 全国街道交流会議第8回全国大会「浜松大会」第1回勉強会, クリエイト浜松2階ホール, 2011年9月6日.
- 林 能成, 地震と津波に備える, 防災・日本再生シンポジウム「多角的な災害教訓から静岡の防災を考える」, 浜松市プレスタワー17階「静岡新聞ホール」, 2011年11月6日.
- 林 能成, 東海・東南海・南海地震に備える—その可能性と対策—, 大阪公衆衛生協会第

- 26 回保健事業発表会, 大阪府病院年金会館コンベンションルーム, 2011 年 11 月 10 日.
- 林 能成, 大規模災害から子どもたちの命を守るためにー地震と津波に備えるー, 静岡市保育士会清水ふたば支部会研修会 興津生涯学習交流館多目的ホール, 2011 年 11 月 26 日.
- 林 能成, 大地震に備えて ー本当は怖い住宅地の地すべりー, 日吉台公民館・防災講座, 高槻市日吉台公民館, 2011 年 12 月 5 日.
- 林 能成, 繰り返す東海地震～静岡県の地震被害を振り返る～, 全国街道交流会議第 8 回全国大会第 4 分科会, アクトシティ浜松, 2012 年 1 月 12 日.
- 林 能成, 東日本大震災の被害に学び、高槻で備える, 高槻市平成 23 年度防災講演会, 関西大学高槻ミュージックキャンパス, 2012 年 1 月 22 日.
- Y.Hayashi, Evakuasi dari Tsunami-Pembelajaran dari the Great East Japan earthquake-, JST/JICA プロジェクト津波ワークショップ, Ujung Genteng, Jawa Barat, Indonesia, 2012 年 2 月 9 日.
- 林能成, 過去の地震記録でみる地震のゆれ in 静岡, 静岡県立静岡高校公開講座「地震の基礎知識」, 静岡高校会議室, 2012 年 2 月 16 日.
- 生田領野, 「地震と放射能: いま知っておくべきこと」サイエンスカフェ in 静岡, 静岡大学理学部, 静岡市, 2011 年 4 月 14 日
- 生田領野, 「M9.0 超巨大地震の正体を探るー電源域で何が起こっていたか?ー」サイエンスカフェ in 静岡, 静岡大学理学部, 静岡市, 2011 年 7 月 21 日
- 生田領野, 「揺れる大地の物語」富士宮市中小企業大学, 富士宮市, 2011 年 11 月 8 日
- 生田領野, 「地震のなぜ? を科学する」静岡科学館るくる「飛び出せ! 研究室」ワークショップ, 静岡科学館るくる, 静岡市, 2011 年 11 月 23 日
- 石川有三, 群馬県気象防災講演会「群馬県の地震と防災」, 群馬県・前橋地方気象台, 前橋市, 2011 年 1 月 14 日
- 石川有三, 長野県警察本部研修会「地震列島に住む 長野県に大地震はあるのか?」, 長野県警察本部, 長野市, 2011 年 5 月 16 日
- 石川有三, 玉造ロータリークラブ「地震・津波の勉強会」, 玉造ロータリークラブ, 茨城県行方市, 2011 年 5 月 26 日
- 石川有三, 三重県気象防災講演会地震・津波とは? 「東日本大震災から学ぶこと」, 三重県・津地方気象台, 津市, 2011 年 6 月 3 日
- 石川有三, 第 29 回国立試験研究機関全国交流集会ーパネリスト, 全国交流集会実行委員会, つくば市, 2011 年 6 月 17 日
- 石川有三, 日本地球惑星科学連合公開講座「地球惑星科学と社会～震災を振り返り未来へつなぐ～」, 東京大学弥生講堂, 2011 年 11 月 5 日
- 石川有三, NPO かわさき市民アカデミー講座「東日本大震災と地震学」, NPO かわさき市民アカデミー, 川崎市, 2011 年 11 月 17

石川有三，埼玉県高等学校理化研究会・地学研究委員会「東北地方太平洋沖地震と日本列島への影響」，同実行委員会，熊谷市，2011年12月13日

石川有三，埼玉県建設コンサルタント技術研修会「東北地方太平洋沖地震とその影響」，埼玉県建設コンサルタント技術研修協会，さいたま市，2012年1月31日

石川有三，静岡県長泉町防災耐震セミナー「地震と地震災害について」，長泉町，静岡県長泉町，2012年3月11日

柄谷友香，建設産業が進むべき道「東日本大震災に学ぶ 生活再建とまちづくりの現状と課題」，財団法人建設経済研究所講演会，2012

柄谷友香，東日本大震災から300日 陸前高田市の被災者は今，平成23年度中越大震災ネットワークおぢや研修会，2012

柄谷友香，東日本大震災に学ぶ—生活再建に向けた現状と課題—，平成23年度建設技術フォーラム，国土交通省関東地方整備局，2011

片田敏孝，IT Japan 2011，日経BP社，東京都，2011年7月13日

片田敏孝，内閣官房勉強会，内閣官房，東京都，2011年7月14日

片田敏孝，土木と学校教育フォーラム，東京都，2011年7月30日

片田敏孝，津波防災の日シンポジウム，内閣府，東京都，2011年11月5日

片田敏孝，日本銀行防災講演会，日本銀行，東京都，2012年1月19日ほか、375件

風間聡，メコン河の氾濫問題 河川講習会，建設コンサルタンツ協会東北支部，仙台，2010年12月3日

風間聡，水災害管理への応用，“だいち”衛星画像を活用した国土基盤整備シンポジウム，仙台，2011年2月3日

木村浩，都田アソシエイツ定例会(講演タイトル：地下圏微生物を利用した防災基礎研究)，財団法人浜松地域テクノポリス推進機構，浜松市中区，2011年1月20日

木村浩之，平成23年度健康セミナー（講演タイトル：静岡流！！自然エネルギーの地産地消～災害時に避難所で健康を維持するための施設機能の開発を目指して），社団法人清水法人会，静岡市清水区，2012年3月23日

北村晃寿，「静岡平野を襲った過去の大津波」，静岡トレンド研究会9月例会，静岡トレンド研究会，静岡商工会議所会館，平成23年9月21日

北村晃寿，「静岡県内における津波堆積物調査について」，平成23年度 防災・日本再生シンポジウム第一回「多角的な災害教訓から静岡の防災を考える」，静岡商工会議所5階ホール（静岡市葵区黒金町20-8），10月16日

北村晃寿，「地質から読み取れる津波の痕跡」，大震災に備える～東日本大震災の教訓～NPO地域マップ研究所，静岡市あざれあ，2011年11月30日。

北村晃寿，「静岡市における津波堆積物の調査」，有度地区まちづくり推進委員会第8回講演会，ふるさと研究会，七ツ新屋自治会館，2012年3月4日。

近藤昭彦，「水循環と湧水—地域の水循環系の中で湧水を考える—」，八千代市「湧き水の

研修会」, 八千代市環境保全課環境政策室, 2012年2月25日

近藤昭彦, 地球の変動を探る一宇宙から見た地球の変化」, 野田市中央公民館主催講座, 2012年11月30日

近藤照彦, 千葉大学震災復興シンポジウム「放射能汚染地域の復興に向けた 地域と千葉大学の協働」, 千葉大学けやき会館, 2011年11月14日

近藤照彦, 「福島を忘れないー近代文明の中の暮らしー」, 千葉市科学館主催市民講座, 千葉大学, 2011年11月5日

近藤照彦, 「福島を忘れないー近代文明の中の暮らしー」, タウンミーティング 自ら学ぶ健康の泉ー被災・被曝編ー, 市川市教育会館, 2011年10月25日

小山真人, 伊豆ジオツアー体験実習 (講義と野外見学), 静岡県立伊豆総合高校, 2010年6月5日

小山真人, 「伊豆ジオパーク構想」勉強会「伊豆ジオパーク: 南国から来た火山の贈り物」, 伊東市, 2010年6月7日

小山真人, 「環境と防災」出前授業, 静岡県立裾野高校, 2010年6月14日

小山真人, 伊豆ジオツアー体験実習2 (講義と野外見学), 静岡県立伊豆総合高校, 2010年6月26日

小山真人, 伊豆半島ジオパーク構想シンポジウム「伊豆半島でのジオパークの実現に向けて」パネリスト, 2010年7月6日

小山真人, 地域防災リーダー育成講座「噴火災害と火山防災-とくに富士山について」, 神奈川県足柄上地域県政総合センター・足柄上地区防災連絡協議会主催, 開成町, 2010年7月14日

小山真人, 伊豆半島ジオパーク構想「地域研究会」 「伊豆半島の成り立ちと地域のジオパーク資源-西伊豆編-」 (講演と野外見学), 西伊豆町, 2010年9月2日

小山真人, まちづくり講座「伊豆を学ぶ-ジオパーク伊豆をめざして」, NPO法人「まちこん伊東」主催, 伊東市, 2010年9月11日

小山真人, まちづくり講座「伊豆を学ぶ-ジオパーク伊豆をめざして」, NPO法人「まちこん伊東」主催西伊豆町, 2010年9月12日

小山真人, 伊豆半島ジオパーク構想「地域研究会」, 伊豆市, 2010年9月16日

小山真人, 三宅島・富士山の巡検から学ぶ火山学-火山の科学、防災、恵み (野外見学), 私立栄東高校 (サイエンス・パートナーシップ・プログラム), 2010年9月18日

小山真人, 伊豆半島ジオパーク構想「地域研究会」, 函南町, 2010年9月24日

小山真人, 2010年度ふじのくに防災士養成講座, 静岡県主催, 静岡市, 2010年9月27日

小山真人, 伊豆半島ジオパーク構想「地域研究会」, 下田市, 2010年10月15日

小山真人, まちづくり講座「伊豆を学ぶ-ジオパーク伊豆をめざして」シンポジウム「伊豆の魅力を探る-ジオサイトの構築」パネリスト, NPO法人「まちこん伊東」主催, 伊東市, 2010年10月17日

小山真人, 富士山学習指導 (1名), 富士宮市立富士宮第二中学校, 2010年10月28日

小山真人, パネルディスカッション「ジオパーク認定のための地域連携について」パネリスト, 足柄下郡議長会全議員研修会主催, 湯河原町, 2010年10月29日

小山真人, 伊豆半島ジオパーク構想「地域研究会」, 河津町, 2010年11月1日

小山真人, 伊豆ジオツアー体験実習 (野外見学), 静岡県立伊豆総合高校, 2010年11月14日

小山真人, 伊豆半島ジオパーク構想「地域研究会」, 伊東市, 2010年11月15日

小山真人, 熱海市文化団体連合会50周年記念式典記念講演会「伊豆の大地の物語-伊豆半島ジオパークの可能性」, 熱海市, 2010年11月23日

小山真人, 伊豆半島ジオパーク構想「地域研究会」, 松崎町, 2010年11月26日

小山真人, 伊豆半島ジオパーク構想「地域研究会」, 沼津市, 2010年12月22日

小山真人, 伊豆半島6市6町首長会議, 伊豆市, 2011年1月11日

小山真人, 「科学と環境教育ミーティング」東海・南海地震の発生史とそこから得られる教訓, NPO法人ホールアース研究所主催, 富士宮市, 2011年2月12日

小山真人, ふじのくに防災フェロー養成講座プレセミナー「新燃岳の火山活動に関する現地調査報告会」霧島火山2011年噴火と静岡県の火山防災, 静岡大学防災総合センター, 静岡市, 2011年2月19日

小山真人, 三島市民活動フェスティバル・伊豆半島ジオパーク構想「地域研究会」, 三島市・三島NPO・ボランティア連絡会主催, 三島市, 2011年2月26日

小山真人, ふじのくに防災フェロー養成講座キックオフシンポジウムパネルディスカッション「ふじのくに防災フェロー養成講座への期待」(パネリスト), 静岡大学防災総合センター, 静岡市, 2011年3月7日

小山真人, 伊豆半島ジオパーク推進協議会第1回幹事会「伊豆半島ジオパーク-自然と人間が共生する理想郷-」, 沼津市, 2011年3月28日

小山真人, ふじのくに防災学講座「平成23年(2011年)東北地方太平洋沖地震現地調査緊急報告会」東日本大震災を起こした地震とその影響, 静岡県, 静岡市, 2011年4月16日

小山真人, ジオサイト整備等伊豆半島ジオパーク市町担当者等研修会「伊豆半島ジオパーク構想-その概要・現状・課題」, 伊東市, 2011年5月27日

小山真人, 総合的な学習の時間(ジオパーク学習), 静岡県立伊豆総合高校, 2011年6月2日

小山真人, 合同ジオツアー(下田地域の野外見学), 静岡県立伊豆総合高校・松崎高校・下田高校南伊豆分校(サイエンス・パートナーシップ・プログラム), 2011年6月4日

小山真人, 伊豆東部火山群フォーラムパネリスト, 伊東市, 2011年6月9日

小山真人, 富士山樹空の森・1日丸ごと富士山ゼミナール 監修者と巡る天空シアター「富士山の噴火史」, 御殿場市, 2011年6月19日

小山真人, 伊豆半島ジオパーク構想「地域研究会」, 南伊豆町, 2011年6月20日

小山真人, 伊豆半島ジオガイド養成講座第1回「伊豆の生き立ちと地学的現状」「地形・地質・岩石学の基礎」「科学的資料・文献の取り扱い」, 伊豆半島ジオパーク推進協議会, 2011年6月28日

小山真人, 防災についての出前授業, 静岡大学教育学部附属島田中学校, 2011年6月29日

小山真人, 御殿場市商工会工業部会セミナー「富士山大噴火-その可能性と影響に迫る」, 御殿場市, 2011年7月4日

小山真人, 「環境と防災」出前授業, 静岡県立裾野高校, 2011年7月11日

小山真人, NPO法人「まちこん伊東」主催: まちづくり講座「伊豆を学ぶ・ジオパーク伊豆をめざして2」, 西伊豆町・松崎町・南伊豆町, 2011年7月16日

小山真人, 教員免許更新講習(野外実習: 伊豆東部火山群), 日本地震学会学校教育委員会主催, 2011年8月3日

小山真人, 伊豆半島ジオガイド養成講座野外実習(函南・熱海エリア), 伊豆半島ジオパーク推進協議会主催, 2011年8月9日

小山真人, 東部ブロック市町社会福祉協議会・御殿場市社会福祉協議会研修会, 御殿場市, 2011年9月2日

小山真人, 伊豆半島ジオガイド養成講座野外実習(中伊豆北エリア), 伊豆半島ジオパーク推進協議会主催, 2011年9月6日

小山真人, 伊豆半島ジオガイド養成講座野外実習(伊東エリア), 伊豆半島ジオパーク推進協議会主催, 2011年9月13日

小山真人, しずおか科学技術月間成果報告会「東日本大震災を起こした地震とその影響」, 静岡市, 2011年9月19日

小山真人, 伊豆半島ジオガイド養成講座野外実習(中伊豆南エリア), 伊豆半島ジオパーク推進協議会主催, 2011年9月20日

小山真人, NPO法人防災推進委員会主催防災・耐震セミナー「東日本大震災を起こした地震とその影響」, 富士宮市, 2011年9月25日

小山真人, 2011年度ふじのくに防災士養成講座「火山災害一般と富士山・伊豆東部火山防災」, 静岡県, 静岡市, 2011年9月26日

小山真人, 伊豆半島ジオガイド養成講座野外実習(大瀬崎・戸田・土肥エリア), 伊豆半島ジオパーク推進協議会主催, 2011年9月27日

小山真人, 一般公開2011講演会「伊豆半島ジオパークへの旅 南から来た火山の贈りもの」, 深田地質研究所, 東京都文京区, 2011年10月8日

小山真人, 伊豆半島ジオガイド養成講座修了式記念講演「ジオパークがつくる地域の未来」, 伊豆市, 2011年10月11日

小山真人, 防災・日本再生シンポジウム「多角的な災害教訓から静岡の防災を考える」第

1回パネリスト, 静岡大学・国立大学協会, 静岡市, 2011年10月16日
小山真人, 静岡県立清水南高校, 出前授業, 東日本大震災を起こした地震とその影響 (静岡県教育委員会主催 高校と大学の連携事業), 2011年10月18日
小山真人, 防災・日本再生シンポジウム「多角的な災害教訓から静岡の防災を考える」第2回パネリスト, 静岡大学・国立大学協会, 沼津市, 2011年11月5日
小山真人, 沼津市民大学「東日本大震災を起こした地震とその影響」, 沼津市, 2011年11月12日
小山真人, 伊豆東部火山群の火山防災訓練, 伊東, 2011年11月15日
小山真人, 内閣府「大規模火山噴火対策に関する勉強会」第3回「富士山の火山防災: 現状と課題」, 東京, 2011年11月17日
小山真人, 標高差7000mの自然史～富士山から駿河湾まで～, 自然史学会連合講演会, 静岡市, 「火山がつくった富士山と伊豆の風景」, 2011年11月23日
小山真人, 火山博物館ネットワーク野外見学会, 2011年11月25日
小山真人, 伊東市史講演会「火山と歩んだ伊東の歴史と社会」, 伊東市, 2011年11月26日
小山真人, 静岡大学・中日新聞 連携講座「3.11以降をどう生きるか～地域の再生と絆づくりのために～」第3回「東日本大震災を起こした地震とその影響～「大地動乱の時代」をどう生きるか」, 静岡大学地域連携協働センター・中日新聞, 東海本社, 浜松市, 2011年12月10日
小山真人, 静岡大学・静岡県立大学・東海大学大学院連携講義・フロンティア科学特論「自然災害と防災の科学」, 静岡, 2011年12月14日
小山真人, 特別講演 東日本大震災を起こした地震とその影響, 静岡県立韮山高校, 2011年12月17日
小山真人, 総合防災論「ジオパークが変える地域の未来と防災」, 名古屋大学大学院環境学研究科, 名古屋, 2011年12月22日
小山真人, 国際ロータリー第2620地区静岡第1分区I.M.5クラブ合同例会「ジオパークが変える地域の未来」, 伊東西ロータリークラブ主催, 伊東市, 2012年2月5日
小山真人, 静岡県臨床心理士会被災者支援本部主催研修会「東日本大震災を起こした地震とその影響～とくに東海地震と富士山の現状について」, 静岡市, 2012年2月11日
小山真人, 静岡市静岡医師会生涯教育講演会「東日本大震災を起こした地震と東海地域への影響」, 静岡市, 2012年3月22日
増田俊明, 地域に根ざした防災の研究, 第69回産官学交流講演会, 静岡商工会議所, 2011年10月28日.
増田俊明, 第1回日本再生シンポジウム ～国立大学に求められる役～パネルディスカッションパネリスト, 学術総合センター一橋記念講堂, 2011年11月29日.
増田俊明, 静岡大学の防災研究の概要. 都田アソシエイツ1月定例会, アクトシティ浜松, 2

2012年1月20日.

増田俊明, 静岡大学の防災戦略, T・K協力会研修講演会, 焼津グランドホテル, 2012年1月27日.

村越 真, 読図とナビゲーション研修, 全国旅行業協会, 東京, 2011年5月30日

村越 真, 道迷い遭難を防ぐナビゲーションスキル, 山岳ガイド協会, 大阪, 2011年6月17日

村越 真, 道迷い遭難を防ぐナビゲーションスキル, 山岳ガイド協会, 大阪, 2011年6月24日

村越 真, 全国遭難対策協議会, 文部科学省他, 東京, 2011年7月7日

村越 真, ナビゲーションスキル講習会, 静岡市消防局, 静岡大学, 2011年7月14日

村越 真, FD研修(防災), 一橋大学, 東京, 2011年7月27日

中川和之, 語りつぐために、東北ジオツアーの勧め＝見て、聞いて、味わって、お金を落としてこよう-私たちからの「おいしかった」、「ありがとう」、かながわ防災セミナー, 2012年3月

中川和之, 身近なリスクを読み解いて「いざ」その時に「いま」から備えよう, 千葉県いすみ市防災講演, 2012年3月

中川和之, シンポジウムパネラー, 第2回防災コンテスト表彰式・シンポジウムパネラー, 2012年3月,

中川和之, 緊急時における情報発信のあり方＝クライシス・コミュニケーション-住民・マスコミからみた地方自治体のクライシス・コミュニケーション, 全国市町村国際文化研修所, 2012年3月

中川和之, 自治体に求められる災害時の危機管理＝何が起きるかをイメージし、情報発信への備えを-主に災害から知るクライシスコミュニケーション, 大阪広域水道事業団, 2012年2月

中川和之, 市民と一緒にリスク社会に立ち向かう＝警察が目指すべき協働社会, 山形県警察学校, 2012年2月

中川和之, 多様なメディアを活用した災害時の情報提供, 市町村アカデミー, 2012年2月
中川和之, 復興の物語を作りだすためにジオパーク構想の活用を＝実践的研究に大学の役割を期待, 岩手県立大学総合政策学部震災復興研究シンポジウム, 2012年2月

中川和之, 自治体に求められる災害時の危機管理, おおさか市町村職員研修研究センターマッセ・セミナー, 2012年1月

中川和之, 普段から自分がメディアになる, 宇部市防災人づくり講座講師, 2012年1月

中川和之, 大規模災害時の情報発信のあり方＝自治体に求められる災害時の危機管理-何が起きるかをイメージし、情報発信への備えを, 大阪府危機管理広報研修, 2012年1月

中川和之, おおいた ONSEN ジオシンポジウム・パネラー, 大分県別府市, 2011年12月

中川和之, 「伝え続けることも復興への道筋＝ジオパーク構想の積極的な活用を」自治体実

務セミナー I W A T E 講師，岩手県，2011 年 12 月

中川和之，足元のお宝で、じわっ（ジオッ）と盛り上がる＝ジオパークのすすめ，八峰
白神ジオパーク推進協議会講演会、2011 年 12 月

中川和之，ジオパークで山形の魅力を再発見！，山形大学人文学部仙山交流研究会講師，
2011 年 12 月

中川和之，東日本大震災の記憶を後世に伝え生かすために，いわて三陸ジオパーク震災復
興シンポジウム・パネルディスカッションコーディネーター，2011 年 11 月

中川和之，どう進める？災害大国日本の防災教育＝自然の営みと向き合える強さを持った
次世代を！，かながわ防災セミナー，2011 年 11 月

中川和之，自治体に求められる災害時の危機管理－何が起きるかをイメージし、情報発信
への備えを－賢い市民と防災テーマに協働のまちづくり，知多半島広域行政圏職員研修
会講師，2011 年 11 月

中川和之，自治体に求められる災害時の危機管理－何が起きるかをイメージし、情報発信
への備えを－賢い市民と防災テーマに協働のまちづくり，福知山市幹部研修講師，2011
年 11 月

中川和之，メディアの情報に惑わされず、自分で考えられる力を持つ！，みえ防災コーデ
ィネーター育成講座講師，2011 年 11 月

中川和之，？→！ ジオパークで山形をもっと楽しもう，山形応用地質研究会講師，2011
年 11 月

中川和之，文部科学省全国生涯学習ネットワークフォーラム 2011，第 3 分科会コーデ
ィネーター，2011 年 11 月

中川和之，市民と一緒にリスク社会に立ち向かう＝警察が目指すべき協働社会－専門家は
どこまで頼られるべきなのか、みなさんの責任感をどう生かすのか－例外的災害記者か
ら皆さんへのお願い，山形県警警察学校初任科研修講師，2011 年 10 月

中川和之，「いざ」に備え、情報の「受け手」から「つなぎ手」へ＝身近なリスクを読み解
く力を，鈴鹿市防火協会 40 周年記念講演会講師，2011 年 10 月

中川和之，メディアの情報に惑わされないで自分で考えられる力を持つ！，栄東高校栄東
中学中川和之，高等学校理科研究部 S P P 講座『最新技術中川和之，歴史地震中川和之，
マスコミ（伝え手）から学ぶ総合地震学』，2011 年 10 月

中川和之，災害に強いまち中川和之，組織を創る－地域中川和之，企業中川和之，行政の
連携、エリアマネジメントについて，危機管理産業展スペシャル中川和之，カンファレ
ンスコーディネーター，2011 年 10 月

中川和之，災害と自治体職員の責務とは，山形市新規採用職員研修「東日本大震災と市職
員の責務」コーディネーター，2011 年 10 月

中川和之，教育現場の防災は、子どもたちの「生きる力」の成長から，函館私学振興協議
会研修会講師，2011 年 10 月

中川和之，国の災害対応を自治体はどう受け止める＝実災害対応や災救法の運用を中心に，人と防災未来センター「災害対策専門研修」講師，2011年10月

中川和之，大学は何に備えねばならないか＝実災害対応を中心に，政府、自治体、住民、学生、企業、大学の役割から考える，神奈川大学大規模災害対策研究プロジェクト講師，2011年9月

中川和之，大規模災害時の情報発信のあり方＝自治体に求められる災害時の危機管理一何が始まるかをイメージし、情報発信への備えを，山形県広報研修会講師，2011年8月

中川和之，日本の防災教育，日本地震学会中川和之，教員免許更新講習講師，2011年8月

中川和之，自治体に求められる災害時の危機管理一何が起きるかをイメージし、自らの役割に備えを，山口県管理職特別課程研修，2011年7月

中川和之，国の災害対応を自治体はどう受け止める＝実災害対応や災救法の運用を中心に，人と防災未来センター「災害対策専門研修」講師，2011年5月

中川和之，東海4県1市防災連携シンポジウム，パネルディスカッションコーディネーター，2011年5月

中川和之，大規模災害時に市民の命と暮らしを守るために行政職員に求められること，山形市職員研修講師，2011年5月，

中川和之，大規模災害時に市民の命と暮らしを守るために行政職員に求められること，千葉県市長会中川和之，町村会秘書課長総務課長研修講師，2011年4月

中川和之，日本の防災教育＝内閣府中川和之，防災教育チャレンジプラン、文部科学省中川和之，防災教育支援事業，JICA研修トルコ国防災教育，2011年3月

中川和之，マスメディアから見た危機時の情報発信＝行政は誰に対して何を伝える責務があるのか，全国市町村国際文化研修所実践的課題解決型研修「緊急時における情報発信のあり方」講師，2011年3月

中川和之，いつもの景色がワンダーランドに＝ジオのひみつは君たちが解く，阿蘇火山博物館主催「火山と環境シンポジウム2011 はばたけ世界へ！」，2011年2月

中川和之，国の災害対応と自治体の実力＝実災害対応を中心に，パシフィックコンサルタンツ社内研修会，2011年2月

中川和之，伝えるってなんだ!？，つくば災害情報コーディネーター養成講座ワークショップ，2011年2月

中川和之，市民の命と暮らしを守るために行政職員に求められること＝メディアから見た災害時の対応，滋賀県北縣市町職員「防災危機管理」研修，2011年2月

中川和之，消防庁風水害対策トップマネジメントセミナー埼玉県，コーディネーター，2011年2月

中川和之，消防庁風水害対策トップマネジメントセミナー岐阜県，コーディネーター，2011年2月

中川和之，住民中川和之，マスコミから見た自治体のクライシス中川和之，コミュニケー

ジョン，山口県管理者特別課程研修，2011年1月

中川和之，第1回地域発防災ラジオドラマコンテスト記念シンポジウム，パネラー，2011年1月

中川和之，災害時の災害情報後方支援活動＝住民目線を中心に，シンポジウム「災害情報からの空間情報社会の形成」，2011年1月

中川和之，みんなで支えあう新たな「共助社会」に向けて－ボランティアがつなぐ『希望
中川和之，KIZUNA 中川和之，おたがいさま』，平成22年度防災とボランティアのつどい座談会コーディネーター，2011年1月

中川和之，わが地域の防災の取り組み－今、地域で、何が出来る？，平塚市防災フォーラム，パネルディスカッションコーディネーター，2011年1月

中川和之，「いざ」に備え、情報の「受け手」から「つなぎ手」へ，相模原市防災講演会，2011年1月

中川和之，国の災害対応を自治体はどう受け止める＝実災害対応や災救法の運用を中心に，四日市市職員研修，2011年1月

中川和之，特集中川和之，地域の絆があなたを守る＝第1回防災ラジオドラマコンテストから，NHKラジオ出演，2011年1月

中川和之，得意技生かし防災力を高めよう＝わが町をもっと素敵なところに，秦野市平成22年度「防災とボランティア週間」防災講演会，2011年1月

中川和之，地域防災のススメ中川和之，生かそう被災者の声＝一日前プロジェクトからヨコハマへのメッセージ，横浜市危機管理セミナー，2010年12月

中川和之，横浜市民に対する防災情報の提供，土木学会市民の視点で地震防災を考える小委員会ワークショップ「市民の視点で地震防災を考える」コーディネーター，2010年12月

中川和之，風水害発生時の対応について，兵庫県市町長防災危機管理ラボ危機管理演習コーディネーター，2010年11月

中川和之，災害と地域力＝地域のボランティアする力、受け入れる力（受援力）を高めるために，横浜市戸塚区社会福祉協議会地区社協研修，2010年11月

中川和之，災害情報と災害報道＝あなたもメディアです！，宇部市防災人づくり講座，2010年11月，

中川和之，市民の命と暮らしを守るために行政職員に求められること＝メディアから見た災害時の対応、クロスロード神戸編，埼玉県東部環境管理事務所部局専門研修講師，2010年11月）

中川和之，マスメディアから見た危機時の自治体からの情報発信＝首長は誰に対して、何を伝える責務があるのか，市町長防災危機管理ラボ in 滋賀講師中川和之，ワークショップコーディネーター，2010年11月

中川和之，マスメディアから見た危機時の自治体からの情報発信＝首長は誰に対して、何

を伝える責務があるのか、鳥取県市町村長等防災危機管理トップセミナー講師中川和之、
「班別危機管理演習」コーディネーター、2010年10月

中川和之、市民の命と暮らしを守るために行政職員に求められること＝メディアから見た
災害時の対応、大阪市職員人材開発センター夜間自己啓発講座、2010年10月

中川和之、市民の命と暮らしを守るために行政職員に求められること＝メディアから見た
災害時の対応、さいたま市危機管理当直職員研修、2010年10月

中川和之、国の災害対応を自治体はどう受け止める＝実災害対応や災救法の運用を中心に、
人と防災未来センター秋期専門研修マネジメントコース：エキスパートA、2010年10
月

中川和之、マスメディアから見た危機時の自治体からの情報発信＝首長は誰に対して、何
を伝える責務があるのか、和歌山県市町村長防災危機管理ラボ講師、2010年10月

中川和之、地域の絆をつくるシンポジウムパネラー、2010年度e防災マップコンテスト、
2010年9月

中川和之、次の地震はどうなるのか、最新の研究と防災への活用、東海中川和之、東南海
中川和之、南海地震の連動性評価研究中間報告会パネラー、2010年9月

中川和之、いま、こどもたちに何が必要か、葛飾区小中PTA第8ブロック研修会講師、
2010年9月

中川和之、伊豆半島ジオパーク実現に向けて、伊豆半島ジオパーク構想シンポジウムパネ
ルディスカッションコーディネーター、2010年7月

中川和之、クロスロード災害ボランティア編、連合神奈川「災害ボランティア養成講座」、
2010年6月

中川和之、災害から子どもたちを守るために＝親と地域ができること、葛飾区小中PTA
合同研修会、2010年6月

中川和之、「いざ」に備え、情報の「受け手」から「つなぎ手」へ、小田原市危険物安全協
会、2010年6月

中川和之、災害救助法のここがミソ、人と防災未来センター春期専門研修マネジメントコ
ース：エキスパートA、2010年6月

中川和之、希望もてる社会づくり-いま、地域を考える-記念講演会「地域と防災」鼎談コ
ーディネーター、全労済協会、2010年5月

中川和之、マスメディアから見た危機時の情報発信＝区民の命と暮らしを守るために、北
区職員研修、2010年4月

野津憲治、平成23年度 防災・日本再生シンポジウム「多角的な防災教訓から静岡の防災
を考える」、静岡大学・国立大学協会、沼津、2011年11月5日

野津憲治、ふじのくに防災フェロー養成講座シンポジウム「第一期から第二期へ向けて」、
静岡大学防災総合センター、静岡県静岡市、2012年2月29日

野津憲治、入門特別講義プログラム 入門特別講座、静岡大学理学部、静岡県静岡市、2012

- 年 1 月 26 日
- 野津憲治，霧島山（新燃岳）火山活動現地調査報告会，静岡大学防災総合センター，静岡県静岡市，2011 年 2 月 19 日
- 鈴木清史：「人からはじまる防災・減災」，「防災・日本再生シンポジウム」静岡大と国立大学協会主催，2011 年 11 月 6 日
- 武村雅之，関東大震災の教訓と来るべき地震への備え，阪神・淡路大震災から 15 年一地震防災研究はどう変わったか，（独法）防災科学技術研究所，2010 年 1 月 16 日
- 武村雅之，関東大震災の教訓と来るべき地震への備え，JCE（国土防災技術）協力会東京支部 20 周年記念講演会，同会（同会会長三塚氏から），2010 年 1 月 15 日
- 武村雅之，震災予防調査会から評議会・協会へと受けつがれてきた歴史と思想，第 29 回講演会「日本における震災予防 130 年の歴史と展望」，（財）震災予防協会，2010 年 2 月 5 日
- 武村雅之，「関東大震災：過去を知り明日に備える」，浄土宗東京教区講演会，大本山増上寺，2010 年 2 月 24 日
- 武村雅之，関東大震災と神奈川，神奈川県建築士会講演会，（社）神奈川県建築士会，2010 年 3 月 27 日
- 武村雅之，震災予防調査会報告第 100 号の今日的意義，「関東大震災」研究の新潮流（第 77 回例会・シンポジウム），首都圏形成史研究会，2010 年 4 月 24 日
- 武村雅之，日本における震災 130 年の歴史，関西ライフライン研究会総会特別講演，関西ライフライン研究会，2010 年 5 月 13 日
- 武村雅之，関東大震災と神奈川，市民向け講演会，はだの災害ボランティアネットワーク，2010 年 7 月 19 日
- 武村雅之，地震のめぐみを知り被害を防ぐ，第 10 回地震火山子供サマースクール，日本地震学会・日本火山学会，2010 年 8 月 7 日
- 武村雅之，関東大震災に学ぶ：過去を知り明日に備える，小松総業社員研修会，小松総業（高崎），2010 年 8 月 21 日
- 武村雅之，関東大震災と東京：地震との共生をめざして，AFRAC 社員研修会（2010，AFRAC，2010 年 9 月 4 日
- 武村雅之，地震と防災：過去を知り明日に備える，第 58 回全国消防技術者会議「特別講演会」，消防大学校・消防研究センター，2010 年 10 月 21 日
- 武村雅之，四国の地震：次は南海道沖大地震だ！，土木建築部門の研究発表会「特別講演」，四国電力，2010 年 11 月 9 日
- 武村雅之，研究の原点は気象庁：震度とマグニチュードへのこだわり，地盤震動シンポジウム「特別講演」，建築学会地盤震動小委員会，2010 年 12 月 3 日
- 武村雅之，横浜の震災経験に学ぶ，ワークショップ「市民の視点で地震防災を考える」，土木学会・横浜市，2010 年 12 月 5 日

武村雅之, 地域の防災: 地震との共生を考える, 防災・耐震セミナー (静岡県榛原郡吉田町), NPO 法人防災推進委員会, 2011 年 3 月 27 日

武村雅之, 災害教訓シンポジウムパネラー (平野、北原、伊藤、清水), 災害教訓シンポジウム (神田まつり行事), 神田神社, 2011 年 5 月 18 日

武村雅之, 東北地方太平洋沖地震津波とその被害, 委員会勉強会, 日本学術振興会・制震(振)構造技術第 157 委員会, 2011 年 6 月 9 日

武村雅之, 東北地方太平洋沖地震津波とその被害, 減災連携研究センターゼミ, 名古屋大学減災連携研究センター, 2011 年 6 月 21 日

武村雅之, 関東大震災に学ぶ: 地震への恐怖から理解へ, 平成 22 年度学習会, 千葉県生涯大学校卒業生親睦学習会, 2011 年 6 月 28 日

武村雅之, 「東北地方太平洋沖地震津波とその被害: どうしたら津波は想定できたのか」, 危険学プロジェクト・グループ(0)第 1 回講演会, 危険学プロジェクト, 2011 年 7 月 2 日

武村雅之, 「東日本大震災を解き明かす: 発生機構、津波、揺れ」, 建設・不動産部会, 東京商工会議所, 2011 年 7 月 11 日

武村雅之, 「東日本大震災を解き明かす: 発生機構、津波、揺れ」, 横浜商工会議所, 2011 年 7 月 13 日

武村雅之, 関東大震災から学ぶ, 災害救援ボランティアコーディネータ養成講座, 神奈川ボランティアネットワーク, 2011 年 7 月 16 日

武村雅之, 地域の防災: 地震との共生を考える, 防災・耐震セミナー (静岡県御前崎市), NPO 法人防災推進委員会, 2011 年 7 月 31 日

武村雅之, 2011 東北地方太平洋沖地震: 地震・地震動と津波, 「ガス・ネットワーク・コンソーシアム 21」, 東京ガス, 2011 年 9 月 13 日

武村雅之, 関東大震災と神奈川県一地震のメカニズムと被害の実態, 市史講座, 藤沢市文書館, 2011 年 10 月 1 日

武村雅之, 災害史に学ぶ: 東日本大震災と関東大震災, 市民講演会, 日本地震学会, 2011 年 10 月 15 日

武村雅之, 歴史地震に学ぶ大切さ: 東日本大震災と関東大震災, 多角的な災害教訓を踏まえた静岡地域の地域防災を考えるシンポジウム, 静岡大学, 2011 年 10 月 16 日

武村雅之, 関東大震災の教訓に学ぶ: 歴史と自然を知って地震に備える, 大谷町内会, 2011 年 10 月 23 日

武村雅之, 現代東京に生きる関東大震災, 講演・巡検, 日本地震工学会, 2011 年 11 月 4 日

武村雅之, 災害史に学ぶ: 東日本大震災と関東大震災, 関東歴史教育研究協議会茨城大会, 茨城県高等学校教育研究会歴史部, 2011 年 11 月 11 日

武村雅之, 歴史に学ぶ重要性: 東日本大震災と関東大震災, 危険物施設にかかる事故防止

対策講演会，東京防災救急協会，2011年11月22日

武村雅之，濃尾地震と関東大震災，濃尾地震から120年—その教訓を振り返る，名古屋大学・活断層学会・国立大学協会，2011年11月28日

武村雅之，関東大震災に学ぶ：首都圏大震災に備えて，企業内技術士交流会，土木管理本部，2011年11月30日

武村雅之，神奈川の大震災，ゼンニチ・消費者セミナー，全日本不動産協会神奈川県本部，2011年12月2日

武村雅之，関東大震災に学ぶ：首都圏大震災に備えて，2011年末復興祈願特別講演会，地質計測株式会社（三塚社長），2011年12月25日

武村雅之，関東大震災を知る：歴史がつむぐ地震防災，第140回深田研談話会，（財）深田地質研究所，2012年1月20日

武村雅之，関東大震災で得た教訓，講習会「来るべき関東の地震災害に備えて」，土木学会関東支部，2012年2月1日

武村雅之，”ふりかえり”の重要性：東日本大震災と関東大震災，第2回震災予防講演会「横浜の地震・津波をふりかえる」，日本地震工学会，2012年2月3日

武村雅之，学ぶべきは関東大震災-過去を知り明日に備える，町自連研究会，八王子市町会自治会連合会，2012年2月21日

武村雅之，不意の地震に不断の用意，『関東大震災を歩く』刊行記念講演，八重洲ブックセンター，2012年3月6日

土屋智，河川管理と生物多様性の保全，岐阜大学連合農学研究科，岐阜市，平成22年7月24日

土屋智，地震にともなう大規模土砂移動，（社）斜面防災対策技術協会，東京，平成22年9月

土屋智，平成23年度「地すべり防止工事技術講習会」（静岡），（社）斜面防災対策技術協会，静岡，平成23年7月8日

牛山素行，「市町村警報」の可能性と課題，第12回静岡防災情報連絡会，静岡防災情報連絡会，静岡市，行政機関・メディア等関係者，2010年4月28日

牛山素行，「近年の豪雨災害と災害情報をめぐる課題」，相模原市大沢地区自治会連合会視察研修，大沢まちづくりセンター，静岡市，自主防関係者，2010年5月29日

牛山素行，「近年の豪雨災害と災害情報をめぐる課題」，平成22年度静岡県河川協会総会，静岡県河川協会，静岡市，行政機関職員，2010年6月3日

牛山素行，「近年の豪雨災害と災害情報をめぐる課題」，生研公開2010 シンポジウム「水の知」（サントリー）総括寄付講座「水の知の最前線 襲う水、うつる水、奪い合う水 ～水の脅威に立ち向かう～」，東京大学生産技術研究所，東京都，一般，2010年6月5日

牛山素行，「近年の豪雨災害と災害情報をめぐる課題」，防災啓発研修会，消防科学総合センター，東京都，消防機関等職員，2010年7月1日

牛山素行、「2009年の豪雨災害から」、岩手県災害情報協議会、岩手河川国道事務所、盛岡市、市町村防災担当者、2010年7月5日

牛山素行、「2010年2月28日チリ地震津波の際の避難行動調査の概要」、しずおか防災地域連携 第28回土曜セミナー、しずおか防災コンソーシアム、静岡市、一般、2010年7月10日

牛山素行、「2010年2月28日のチリ地震津波に関するアンケート調査」、2010年2月28日のチリ地震津波に関するアンケート調査の結果報告会、静岡県・静岡大学防災総合センター、静岡県松崎町、2010年7月12日

牛山素行、「2010年2月28日のチリ地震津波に関するアンケート調査」、2010年2月28日のチリ地震津波に関するアンケート調査の結果報告会、静岡県・静岡大学防災総合センター、静岡県湖西市、2010年7月13日

牛山素行、「豪雨防災情報を生かす」、岡山市市町村長防災危機管理ラボ、(財)消防科学総合センター、岡山市、2010年7月23日

牛山素行、「近年の豪雨災害と災害情報をめぐる課題」、防災講演会 東海豪雨から10年、水害に備えて、愛知県・名古屋市・名古屋地方気象台、名古屋市、2010年8月6日

牛山素行、「近年の豪雨災害と災害情報をめぐる課題」、とよはし防災リーダー養成講座、豊橋市消防本部、愛知県豊橋市、2010年8月7日

牛山素行、「2010年2月28日のチリ地震津波に関するアンケート調査から」、防災気象講演会、静岡地方気象台・静岡県・静岡大学防災総合センター、静岡県浜松市、2010年8月17日

牛山素行、「2010年2月28日のチリ地震津波に関するアンケート調査から」、防災気象講演会、静岡地方気象台・静岡県・静岡大学防災総合センター、静岡県函南町、2010年8月19日

牛山素行、「近年の豪雨災害と災害情報をめぐる課題」、豊橋市職員テーマ別研修、豊橋市、愛知県豊橋市、2010年8月27日

牛山素行、「沿岸域の災害情報をめぐる課題」、遠州灘沿岸保全対策促進期成同盟会講演会、遠州灘沿岸保全対策促進期成同盟会、浜松市、2010年8月30日

牛山素行、「2010年2月28日のチリ地震津波に関するアンケート調査」、2010年2月28日のチリ地震津波に関するアンケート調査の結果報告会、静岡大学防災総合センター、岩手県陸前高田市、2010年9月1日

牛山素行、「近年の豪雨災害と災害情報をめぐる課題」、防災講演会、御前崎災害支援ネットワーク、静岡県御前崎市、2010年9月12日

牛山素行、「豪雨災害による人的被害」、静岡県防災士養成講座、静岡県、静岡市、2010年9月14日

牛山素行、「豪雨防災情報をめぐる課題」、岐阜地方気象台談話会、岐阜地方気象台、岐阜市、2010年9月15日

牛山素行,「2010年2月28日のチリ地震津波に関するアンケート調査」,2010年2月28日のチリ地震津波に関するアンケート調査の結果報告会,静岡県・静岡大学防災総合センター,静岡県沼津市,2010年9月30日

牛山素行,「豪雨防災情報をめぐる課題」,平成22年度気象友の会静岡県支部講演会,気象友の会静岡県支部,静岡市,2010年10月9日

牛山素行,「近年の豪雨災害と災害情報をめぐる課題」,CIRACフォーラム,財団法人中部産業・地域活性化センター,名古屋市,2010年10月26日

牛山素行,「避難対策の向上方策」(パネルディスカッションコーディネータ),日本自治体危機管理学会2010年度研究大会シンポジウム,日本自治体危機管理学会,東京都墨田区,2010年10月30日

牛山素行,「近年の豪雨災害と災害情報をめぐる課題」,富士箱根伊豆交流圏市町村ネットワーク会議防災部会研修会,富士箱根伊豆交流圏市町村ネットワーク会議,静岡県御殿場市,2010年11月9日

牛山素行,「災害と防災の基本構造ー豪雨災害を主な例としてー」,静岡県地震防災センター 夜間公開講座,静岡県,静岡市,2010年11月18日

牛山素行,「近年の豪雨災害と災害情報をめぐる課題」,平成22年度防災啓発研修,新潟県・消防科学総合センター,新潟市,2010年11月19日

牛山素行,「近年の豪雨災害と災害情報をめぐる課題」,防災講演会,岩手県沿岸広域振興局土木部大船渡土木センター,岩手県住田町,2010年11月29日

牛山素行,「豪雨による災害」,熱海市観光・防災まちづくり推進事業 防災出前講座,熱海市観光・防災まちづくり推進協議会,熱海市伊豆山地区,2010年12月12日

牛山素行,「豪雨による災害」,熱海市観光・防災まちづくり推進事業 防災出前講座,熱海市観光・防災まちづくり推進協議会,熱海市和田山地区,2010年12月12日

牛山素行,「豪雨による災害」,(千葉県)高校生防災教育基礎講座,千葉県総務部消防地震防災課,千葉縣市川市・県立市川西高校,2010年12月17日

牛山素行,「近年の豪雨災害と災害情報をめぐる課題」,防災気象講演会,岐阜地方気象台・岐阜県,岐阜市,2011年1月13日

牛山素行,「近年の豪雨災害と災害情報をめぐる課題」,平成22年度「1.17は忘れない」東播磨地域防災のつどい,兵庫県東播磨県民局,兵庫県明石市,2011年1月24日

牛山素行,「近年の豪雨災害と災害情報をめぐる課題」,平成22年度中央非常通信協議会総会講演,総務省総合通信基盤局,東京都千代田区,2011年2月22日

牛山素行,「近年の豪雨災害と災害情報をめぐる課題」,掛川市危険物安全協会防災講演会,掛川市危険物安全協会,掛川市,2011年2月23日

牛山素行,パネルディスカッションコーディネータ,科学技術戦略推進費「災害科学的基礎を持った防災実務者の養成」キックオフシンポジウム「ふじのくに防災フェロー養成講座への期待」,静岡大学・静岡県,静岡市,2011年3月7日

牛山素行,「岩手県沿岸部の現地踏査報告」,ふじのくに防災学講座,静岡県,静岡市,2011年4月16日

牛山素行,「津波災害・豪雨災害と災害情報」,平成23年度香川縣市町村長防災危機管理ラポ,香川県・財団法人消防科学総合センター,高松市,2011年6月2日

牛山素行,「東日本大震災岩手・宮城の現地調査から」,第14回静岡防災情報連絡会,静岡地方気象台,静岡市,2011年6月3日

牛山素行,「津波災害・豪雨災害と災害情報」,静岡市議会議員研修会,静岡市議会,静岡市,2011年6月9日

牛山素行,「津波災害・豪雨災害と災害情報」,磐田市防災講演会,静岡県磐田市,静岡県磐田市,2011年6月11日

牛山素行,「豪雨災害と災害情報」,とよはし防災リーダー養成講座,愛知県豊橋市,愛知県豊橋市,2011年7月30日

牛山素行,「災害と防災の基本構造」,静岡県地震防災センター夜間公開講座,静岡県,静岡市,2011年8月4日

牛山素行,「津波災害・豪雨災害と災害情報」,静岡南警察署署員教養,静岡南警察署,静岡市,2011年8月23日

牛山素行,「災害情報という防災対策は難しい」,第35回日本科学教育学会 シンポジウム「非常時を乗り越える科学教育」,日本科学教育学会,東京都町田市,2011年8月24日

牛山素行,「東日本大震災による

牛山素行,「津波災害と防災情報」,気象キャスターネットワーク講演会,気象キャスターネットワーク,東京都台東区,2011年8月27日

牛山素行,「大雨災害と防災に関するアンケート調査」,大雨災害と防災に関するアンケート調査結果報告会,岩手県沿岸広域振興局土木部大船渡土木センター津付ダム建設事務所,岩手県住田町,2011年8月30日

牛山素行,「自然災害から身を守る防災情報」,自然災害から身を守る防災気象情報の活用について 説明会,岩手県沿岸広域振興局土木部大船渡土木センター津付ダム建設事務所,岩手県陸前高田市,2011年8月30日

牛山素行,「豪雨災害と災害情報」,防災啓発研修会,鹿児島県・鹿児島市・財団法人消防科学総合センター,鹿児島県鹿児島市,2011年9月1日

牛山素行,「豪雨災害による人的被害」,静岡県防災士養成講座,静岡県,静岡市,2011年9月13日

牛山素行,「近年の豪雨災害と災害情報をめぐる課題ー2010年9月8日小山町豪雨災害を踏まえてー」,静岡県小山町防災講演会,静岡県小山町,静岡県小山町,2011年9月15日

牛山素行,ワークショップでのコメント,第2回「防災地図をつくろう」ワークショップ(曙

地区), 岩手県沿岸広域振興局土木部大船渡土木センター津付ダム建設事務所, 岩手県住田町, 2011年9月28日

牛山素行, 「豪雨災害と災害情報」, 野田市自治会連合会講演会, 野田市自治会連合会, 千葉県野田市, 2011年10月13日

牛山素行, パネルディスカッションコーディネータ, 防災・日本再生シンポジウム「多角的な災害教訓から静岡の防災を考える」, 静岡大学・国立大学協会, 静岡市, 2011年10月16日

牛山素行, 「豪雨災害・津波災害と災害情報」, 賀茂郡町議会議員研修会, 賀茂郡町議会議長会, 静岡県西伊豆町, 2011年10月28日

牛山素行, パネルディスカッションコーディネータ, 防災・日本再生シンポジウム「多角的な災害教訓から静岡の防災を考える」, 静岡大学・国立大学協会, 沼津市, 2011年11月5日

牛山素行, パネルディスカッションコーディネータ, 防災・日本再生シンポジウム「多角的な災害教訓から静岡の防災を考える」, 静岡大学・国立大学協会, 浜松市, 2011年11月6日

牛山素行, 「津波災害・豪雨災害と災害情報」, 神奈川県都市副市長会研修会, 神奈川県都市副市長会, 神奈川県茅ヶ崎市, 2011年11月7日

牛山素行, 「近年の豪雨災害と災害情報」, 島根県自主防災組織リーダー研修, 島根県, 島根県出雲市, 2011年11月13日

牛山素行, 近年の豪雨災害と災害情報をめぐる課題, 日本リスク研究学会 第24回年次大会(特別講演), 日本リスク研究学会, 浜松市, 2011年11月19日

牛山素行, 「自然災害と避難」, 静岡市防災講演会, 静岡市, 静岡市, 2011年11月20日

牛山素行, 「豪雨災害と災害情報」, 横浜地方気象台講演会, 横浜地方気象台, 横浜市, 2011年12月2日

牛山素行, 「2011年台風12号による人的被害の特徴」, (静岡)防災情報連絡会, 静岡地方気象台, 静岡市, 2011年12月16日

牛山素行, 「近年の豪雨災害と災害情報をめぐる課題」, (岐阜県)平成23年度防災気象講演会, 岐阜地方気象台, 岐阜県恵那市, 2011年12月18日

牛山素行, 「災害情報－豪雨災害を主な例として－」, 消防団幹部特別研修, 日本消防協会, 東京都港区, 2012年1月17日

牛山素行, 「災害と情報」, 国土交通大学校 専門課程危機管理(サブリーダー)研修, 国土交通大学校, 小平市, 2012年1月20日

牛山素行, 「近年の豪雨災害と災害情報をめぐる課題」, 地域産・官・学と技術士の合同セミナー, 日本技術士会, 静岡市, 2012年1月21日

牛山素行, 「豪雨災害と災害情報」, 国土交通大学校 専門課程ダム管理技術研修, 国土交通大学校, 小平市, 2012年1月27日

牛山素行, 「災害情報－豪雨災害を主な例として－」, 消防団幹部中央特別研修, 日本消防協会, 東京都港区, 2012年2月9日

牛山素行, 「自然災害の仕組み－最近の豪雨災害の事例紹介から－」, 国土交通大学校 緊急災害対策派遣隊研修, 国土交通大学校, 小平市, 2012年2月22日

牛山素行, パネルディスカッションコーディネータ, 科学技術戦略推進費「災害科学的基礎を持った防災実務者の養成」シンポジウム「第一期から第二期へ向けて」, 静岡大学, 静岡市, 2012年2月29日

牛山素行, 「豪雨災害と災害情報－最近の日本各地での災害事例から学ぶこと－」, 茅野市公民館特別講座「災害情報学講座」, 茅野市公民館, 長野県茅野市, 2012年3月3日

牛山素行, 「2011年台風12号による豪雨災害の特徴－特に人的被害を対象として－」, 土木学会主催シンポジウム「東日本大震災 あれから1年そしてこれから ～巨大災害と社会の安全～」, 土木学会, 東京都文京区, 2012年3月6日

牛山素行, 「自然災害と災害情報－最近の日本各地での災害事例から学ぶこと－」, 3.11 東日本大震災を忘れない パートナーシップによる地震対策の取り組み報告会・防災講演会, 袋井市, 静岡県袋井市, 2012年3月11日

牛山素行, パネルディスカッションパネリスト, 津波シンポジウム, 浜松市, 静岡県浜松市, 2012年3月18日

5.2 マスメディア・新聞等への掲載

千木良雅弘, 朝日新聞, 深層崩壊発生メカニズム, 2012年2月15日

千木良雅弘, 読売新聞, 台風12号による土砂災害, 2011年12月4日

千木良雅弘, 読売新聞, 深層崩壊発生メカニズム, 2011年10月30日

千木良雅弘, 朝日新聞, 台風12号による深層崩壊の発生メカニズム, 2011年10月30日

千木良雅弘, 朝日新聞, 台風12号による天然ダムの安定性について, 2011年9月

千木良雅弘, 毎日放送, 台風12号による天然ダムについて, 2011年9月21日。

千木良雅弘, NHK放送総局ラジオセンター「私も一言! 夕方ニュース」 台風12号による天然ダムについて, 2011年8月20日

千木良雅弘, NHKスペシャル, 「深層崩壊が日本を襲う」, 2011年6月27日

藤井基貴, Eジャーナルしずおか, みんなで防災道徳, 2012年2月21日

藤井基貴, 静岡新聞朝刊, 「広がれ「防災道徳」」, 2012年2月24日

藤井基貴, しずおか第一テレビ(静岡〇ごとワイド! news every. しずおか), 大震災後の防災教育, 2012年2月10日

藤井基貴, 読売新聞(朝刊), 地域災害題材に道徳 静大生が授業, 2012年1月24日

藤井基貴, 朝日新聞(朝刊), 中学で「防災白熱教室」津波来たら逃げる? 同級生確認する? 静大生が先生役、悩む生徒, 2012年1月13日

藤井基貴, 静岡新聞(朝刊), 地域中、この人「防災道徳」の授業に取り組む静岡大教育学

部准教授 藤井基貴さん（静岡市駿河区），2011年12月23日
藤井基貴，静岡新聞（朝刊），特集 教育 非常時の判断力養え 授業に「防災道德」 静岡大研究室と防災総合センター「行動」につなげる，2011年12月18日
藤井基貴，中日新聞（夕刊），目録 夢を育てる，2011年12月15日
藤井基貴，中日新聞（朝刊），浜松・遠州版、災害時対処 児童に問う 浜松市東小 静岡大生が道德教育授業 ガソリン盗難事件など題材 討論から判断力養う，2011年12月6日
秦 康範，産経新聞，広域災害，2011年4月9日
原田賢治，静岡新聞，M9.0東日本と東海地震～ゼロからの出発＝大震災1カ月（7）「安全」誤信、避難し悲劇ー津波にのまれた釜石・鶴住居防災センター，2011年4月20日
原田賢治，静岡新聞，消防庁舎の候補地変更 津波被害懸念、市長表明 9月までに代替案ー熱海，2011年6月11日
原田賢治，静岡新聞，「津波被害想定は一つのシナリオ」 静岡大の原田准教授らが対策講演会ー富士市，2011年7月4日
原田賢治，朝日新聞，（インタビューしずおか）原田賢治さん 県の想定を超える津波、可能性は？ /静岡県，2011年7月5日
原田賢治，静岡新聞，震災に学ぶー16日・静岡大シンポを前に（1）＝3連動地震想定し試算・原田賢治准教授ー“東日本クラス”警告 「県内沿岸に大津波」，2011年10月8日
原田賢治，毎日新聞，停止から半年・「想定外」後の浜岡：/中 津波対策，2011年11月16日
原田賢治，静岡新聞，津波対策助成「個人宅にも」ー県議会特別委，2011年11月26日
原田賢治，静岡新聞，那賀川水系河口周辺治水委、来月6日始動ー町議会全協で松崎町方針 津波対策講演会も，2011年11月26日
原田賢治，静岡新聞，那賀川治水対策委が再開 整備状況など課題協議ー松崎，2011年12月7日
原田賢治，静岡新聞，続・浜岡原発の選択（41）＝迫る巨大地震（8）ー取水塔に潜在的リスク，2012年2月6日
原田賢治，静岡新聞，18日に津波シンポ 専門家らが特徴説明ー南区，2012年3月1日
原田賢治，毎日新聞，静岡で思う：東日本大震災から1年/2 高さ30メートルの水門計画 景観と安全、揺れる町 /静岡，2012年3月11日
林拙郎，NHK 東海，東海豪雨特集，2010年9月
林拙郎，三重テレビ・ワイドニュース，紀伊半島豪雨検証，2011年10月11日
生田領野，静岡新聞，特集記事「震災に学ぶ；小領域M9引き起こす」，2011年10月9日
生田領野，静岡新聞，解説記事「大地震発生確率 データ取得期間で変動」，2012年2月27日

石川有三, 静岡テレビ, 宝永地震の M の再評価, 2012 年 10 月 12 日
石川有三, 日本経済新聞, 宝永地震の M の再評価, 2012 年 10 月 12 日
石川有三, 産経新聞, 宝永地震の M の再評価, 2012 年 10 月 12 日
石川有三, 中日新聞, 宝永地震の M の再評価, 2012 年 10 月 13 日
石川有三, 読売新聞, 宝永地震の M の再評価, 2012 年 10 月 13 日
石川有三, 河北新聞, 宝永地震の M の再評価, 2012 年 10 月 14 日
石川有三, 朝日新聞, 宝永地震の M の再評価, 2012 年 10 月 20 日
石川有三, 東京新聞, 宝永地震の M の再評価, 2012 年 10 月 21 日
狩野謙一, 静岡新聞(朝刊), 震災に学ぶ: 富士川河口断層帯, 2011 年 10 月 14 日
狩野謙一, 静岡第一 TV, 富士川河口断層帯について, 2011 年 12 月 27 日
狩野謙一, 夕刊フジ, 富士川河口断層帯について, 2012 年 1 月 18 日
狩野謙一, 週刊 Flash, 富士川河口断層帯について, 2012 年 2 月 14 日
片田敏孝, 産経新聞, 釜石の奇跡 小中生 3000 人励まし合い、臨機応変に避難, 2011 年 3 月 17 日
片田敏孝, 日本経済新聞, 社会人第 110 話 育った防災の申し子, 2011 年 4 月 24 日
片田敏孝, 読売新聞, 「安全教育」中教審答申 防災 体系的に学ぶ必要, 2012 年 3 月 22 日
片田敏孝, 朝日新聞, 防災心「奇跡」の授業①～④, 2012 年 1 月 5 日～26 日
片田敏孝, 毎日新聞, 反射鏡 「てんでんこ」のジレンマとどう向き合うか, 2011 年 9 月 25 日ほか、509 件
北村晃寿, 静岡新聞, P 1 「数千年に一度の静岡平野に大津波」, 平成 23 年 7 月 15 日
北村晃寿, 静岡新聞, P 2 1 「この人」, 平成 23 年 8 月 31 日
北村晃寿, 静岡新聞 (朝刊), P 1, 静岡平野の大津波 4100～2700 年前の間 2 回 2400～1100 年前にも 1 回 静大・北村准教授ら堆積物分析で推定, 2011 年 9 月 17 日
北村晃寿, 静岡新聞, P 3 5 「太田川に津波堆積層」, 平成 23 年 10 月 1 日
北村晃寿, 静岡新聞, P 6 「静岡大 防災・日本再生シンポジウム」, 平成 23 年 10 月 22 日
北村晃寿, 静岡新聞 (朝刊), P 1 9 県内総合 イベント 震災の教訓学ぶ, 2011 年 11 月 22 日
北村晃寿, 中日新聞 (朝刊), P 1 県想定を超える浸水域 静岡平野で 4100～2700 年前に大津波 2 回 静大准教授 堆積物で確認, 2011 年 11 月 22 日
北村晃寿, テレビ静岡 FNN テレビ静岡スーパーニュース, 2011 年 8 月 1 日
北村晃寿, あさひテレビ とびっきり! しずおか, 2011 年 8 月 10 日
北村晃寿, フジテレビ とくダネ!, 「巨大地震から命を守る」, 2011 年 8 月 26 日
北村晃寿, NHK , 静岡流「巨大地震から命を守る」, 2011 年 9 月 30 日
北村晃寿, SBS テレビ SBS イブニング eye, 2012 年 1 月 4 日
小山真人, 読売新聞, 空の足混乱 世界に波及 アイスランド噴火 過去に波「火山の冬」,

2010年4月17日

小山真人, 読売新聞, アイスランド火山灰、3日で1億立方メートル, 2010年4月19日

小山真人, 読売新聞, アイスランド噴火 溶岩、地表に噴出か, 2010年4月20日

小山真人, テレビ朝日 (報道ステーション), アイスランド火山噴火, 2010年4月20日

小山真人, 伊豆新聞, 火山がつくった宇佐美の風景 リーフレット作製 区と森を守る会
解説、立体地図を掲載, 2010年5月3日

小山真人, 朝日小学生新聞, アイスランドの火山噴火 日本の天気に影響するの 成層圏
に火山灰は少しだけなので心配ない, 2010年5月10日

小山真人, 読売新聞, 巨大噴火 地球が冷える 太陽光遮り「火山の冬」, 2010年5月16
日

小山真人, NHKラジオ第一 (静岡ローカルのコーナー), 地震ひとことボイス (東海地震
の余震について) , 2010年5月30日

小山真人, 建設通信新聞, 伊豆半島ジオパーク構想/伊東で6月7日に勉強会/静岡県など,
2010年6月3日

小山真人, 静岡新聞, 伊豆の地質遺産"再発見" 船原スコリア丘や浄蓮の滝… 静岡大教授
とツアー, 2010年6月6日

小山真人, 伊豆新聞, 伊豆ジオパークへの旅 (1) 大地の公園1: 風景に隠された意味,
2010年6月6日

小山真人, NHKラジオ第一 (静岡ローカルのコーナー), 地震ひとことボイス (東海地震
の歴史について) , 2010年6月6日

小山真人, 静岡新聞, 伊豆半島の魅力を再認識 6市6町会議事務局がジオパークへ勉強
会-伊東, 2010年6月8日

小山真人, 静岡新聞, 夕刊, 伊豆半島ジオパーク構想 県、年内に推進指針書, 2010年6
月12日

小山真人, 静岡第一テレビ, リアルタイムしずおか 伊豆総合高校「ジオツアー」, 2010
年6月12日

小山真人, 伊豆新聞, 伊豆ジオパークへの旅 (2) 大地の公園2: ジオパークとは何か,
2010年6月13日

小山真人, 伊豆新聞, 伊豆ジオパークへの旅 (3) 大地の公園3: フランスの火山公園 (1),
2010年6月20日

小山真人, 伊豆新聞, 大室山、国の天然記念物に 伊豆ジオパーク構想の目玉に, 2010
年6月20日

小山真人, 東京新聞, 静岡版, 伊豆の地質など学ぶ講座来月から 伊東のNPO法人, 2010
年6月21日

小山真人, 伊豆新聞, 伊豆ジオパークへの旅 (4) 大地の公園4: フランスの火山公園 (2),
2010年6月27日

小山真人, 静岡新聞, 東部版, ジオパーク構想で推進協設立へ 伊豆半島サミット, 2010年7月7日

小山真人, 伊豆新聞, 伊豆ジオパークへの旅 (5) 大地の公園 5 : フランスの火山公園 (3), 2010年7月4日

小山真人, 伊豆新聞, 伊豆ジオパークへの旅 (6) 大地の公園 6 : フランスの火山公園 (4), 2010年7月11日

小山真人, 伊豆新聞, 伊豆ジオパークへの旅 (7) 伊豆ジオパークのテーマ 1 : 北上と衝突 (上), 2010年7月18日

小山真人, 伊豆新聞, 伊豆ジオパークへの旅 (8) 伊豆ジオパークのテーマ 2 : 北上と衝突 (下), 2010年7月25日

小山真人, 静岡新聞, 時評 : ジオパークとは何か 地域振興のための選択肢, 2010年7月27日

小山真人, 伊豆新聞, 伊豆ジオパークへの旅 (9) 伊豆ジオパークのテーマ 3 : 海底と陸上の火山群, 2010年8月1日

小山真人, 伊豆新聞, 伊豆ジオパークへの旅 (10) 伊豆ジオパークのテーマ 4 : 生きている伊豆の大地 (上), 2010年8月8日

小山真人, 伊豆新聞, 伊豆ジオパークへの旅 (11) 伊豆ジオパークのテーマ 5 : 生きている伊豆の大地 (下), 2010年8月15日

小山真人, 伊豆新聞, 伊豆ジオパークへの旅 (12) 伊豆ジオパークのテーマ 6 : 変動する大地との共生 (上), 2010年8月22日

小山真人, 伊豆新聞, 伊豆ジオパークへの旅 (13) 伊豆ジオパークのテーマ 7 : 変動する大地との共生 (下), 2010年8月29日

小山真人, NHKテレビ (たっぷり静岡), 伊豆半島ジオパーク構想 (西伊豆町) 関連, 2010年9月2日

小山真人, 静岡新聞, 東部版, 海底火山の地形見学 伊豆半島ジオパーク構想 地域の地質構造学ぶ 西伊豆住民ら参加研究会, 2010年9月3日

小山真人, 伊豆新聞, 伊豆半島ジオパーク構想 世界的に貴重な地質 静大防災センター 小山教授が講師 初の地域研究会, 2010年9月3日

小山真人, 伊豆新聞, 伊豆ジオパークへの旅 (14) 伊豆ジオパークのテーマ 8 : みんなが考えるテーマ, 2010年9月5日

小山真人, SBS (静岡放送) テレビ, イブニング eye 伊豆半島ジオパーク構想 (西伊豆町) 関連, 2010年9月8日

小山真人, SBS (静岡放送) テレビ, イブニング eye 防災最前線 総合防災訓練の外部評価関連, 2010年9月8日

小山真人, 伊豆新聞, ジオパーク伊豆オープン講座「知識で大きな感動」講師に静大小山教授 大地の魅力学ぶ, 2010年9月12日

小山真人, 伊豆新聞, 伊豆ジオパークへの旅 (15) 伊豆ジオパークの構成 1 : ジオサイトという単位, 2010年9月12日

小山真人, 静岡新聞, 東部版, 伊豆市と伊豆の国市 合同でジオパーク研究会 見どころ4候補見学, 2010年9月17日

小山真人, 伊豆日日新聞, 伊豆市と伊豆の国市でジオパーク研究会 静大小山教授 ジオサイト案内 城山「そびえ立つ海底火山」, 2010年9月17日

小山真人, 伊豆新聞, 伊豆ジオパークへの旅 (16) 伊豆ジオパークの構成 2 : ジオエリアの設定, 2010年9月19日

小山真人, 伊豆日日新聞, 北伊豆地震痕跡を解説 静大・小山教授ジオパーク研究会 函南と熱海でジオサイト巡る, 2010年9月25日

小山真人, 伊豆新聞, 伊豆ジオパークへの旅 (17) 伊豆ジオパークの構成 3 : 伊東ジオエリア (上), 2010年9月26日

小山真人, 伊豆新聞, きょう発売 小山静大教授「伊豆の大地の物語」誕生～現代 詳しく解説 ジオパーク実現へ「最良の案内書」, 2010年9月30日

小山真人, テレビ静岡, スーパーニュース 伊豆半島ジオパーク構想 (西伊豆町) 関連, 2010年9月30日

小山真人, 伊豆新聞, 伊豆ジオパークへの旅 (18) 伊豆ジオパークの構成 4 : 伊東ジオエリア (下), 2010年10月3日

小山真人, 伊豆新聞, 伊豆ジオパークへの旅 (19) 伊豆ジオパークの構成 5 : 西伊豆・松崎ジオエリア (上), 2010年10月10日

小山真人, 静岡新聞, 県防災訓練「再検討を」 外部評価委が課題指摘, 2010年10月14日

小山真人, 伊豆新聞, 下田・南伊豆でジオパーク研究会 愛し語れる人養成 小山教授と資源候補巡る, 2010年10月16日

小山真人, 伊豆新聞, 伊豆ジオパークへの旅 (20) 伊豆ジオパークの構成 6 : 西伊豆・松崎ジオエリア (下), 2010年10月17日

小山真人, 伊豆新聞, 「伊豆の魅力を探る・ジオパークの構築」シンポに 150人, 2010年10月18日

小山真人, 静岡新聞, 伊豆半島の魅力1冊に 地層の成り立ち解説 静大・小山教授出版, 2010年10月23日

小山真人, 静岡新聞, 伊豆の大地の物語 小山真人著 新たな視点で魅力説く, 2010年10月24日

小山真人, 伊豆新聞, 伊豆ジオパークへの旅 (21) 伊豆ジオパークの構成 7 : 中伊豆北ジオエリア (上), 2010年10月24日

小山真人, 伊豆新聞, 伊豆ジオパークへの旅 (22) 伊豆ジオパークの構成 8 : 中伊豆北ジオエリア (下), 2010年10月31日

小山真人, 静岡新聞, 地質特性から伊豆半島解説 伊豆の大地の物語, 2010年10月24日

小山真人, 静岡新聞, 東部版, ジオパーク地域研究会「景観語れる人必要」河津 小山静
大教授が講演, 2010年11月2日

小山真人, 伊豆新聞, 河津・東伊豆でジオパーク研究会 サイト候補に河津七滝 小山教
授 名所の形成語る, 2010年11月2日

小山真人, SBS (静岡放送) テレビ, イブニング eye 防災最前線 短い猶予を活かす
には, 2010年11月3日

小山真人, テレビ静岡, スーパーニュース 東海地震に関する情報の理解促進のための検
討会関連, 2010年11月4日

小山真人, SBS (静岡放送) テレビ, イブニング eye 東海地震に関する情報の理解促
進のための検討会関連, 2010年11月4日

小山真人, 静岡新聞, 年内に住民意識調査へ 東海地震情報検討会が初会合, 2010年11
月5日

小山真人, 伊豆新聞, 伊豆ジオパークへの旅 (23) 伊豆ジオパークの構成9: 中伊豆南ジ
オエリア (上), 2010年11月7日

小山真人, 伊豆新聞, 伊豆ジオパークへの旅 (24) 伊豆ジオパークの構成10: 中伊豆南ジ
オエリア (中), 2010年11月14日

小山真人, 伊豆新聞, 伊東のジオサイトを学ぶ 県、伊東市主催 小山教授の案内で大室
山見学, 2010年11月16日

小山真人, 伊豆新聞, 総合高・地学講座 小学生ジオ・ツアー 生徒が企画 白鳥山柱状
節理など案内「火山でできた風景」学ぶ, 2010年11月16日

小山真人, 静岡新聞, 東部版, 白鳥山や七滝など4ヵ所巡る 地形の成り立ち説明 児童
らに伊豆総合高生, 2010年11月16日

小山真人, 伊豆新聞, 伊豆ジオパークへの旅 (25) 伊豆ジオパークの構成11: 中伊豆南ジ
オエリア (下)、土肥ジオエリア, 2010年11月21日

小山真人, 伊豆新聞, 記念式典で半世紀の節目祝い、小山静大教授がジオパーク講演, 2010
年11月24日

小山真人, 伊豆新聞, 松崎で研究会「ジオ」へ関心高める 静大小山教授 弁天島の地層
解説, 2010年11月27日

小山真人, 伊豆新聞, 伊豆ジオパークへの旅 (26) 伊豆ジオパークの構成12: 函南ジオエ
リア, 2010年11月28日

小山真人, 伊豆新聞, 伊豆ジオパークへの旅 (27) 伊豆ジオパークの構成13: 下田ジオエ
リア (上), 2010年12月5日

小山真人, 伊豆新聞, 伊豆ジオパークへの旅 (28) 伊豆ジオパークの構成14: 下田ジオエ
リア (下), 2010年12月12日

小山真人, 静岡新聞, 時評: ジオパーク構想 有形、無形すべてが資産, 2010年12月16日

日

小山真人, 伊豆新聞, 伊豆ジオパークへの旅 (29) 伊豆ジオパークの構成 15 : 南伊豆ジオエリア (上), 2010年12月19日

小山真人, 静岡新聞東部版, ジオパークの伊豆総合高生 知事に活動成果報告 県庁, 2010年12月22日

小山真人, 伊豆新聞, 川勝知事「核になり頑張っ」ジオツアー企画実施 伊豆総合高生を激励, 2010年12月26日

小山真人, 伊豆新聞, 伊豆ジオパークへの旅 (30) 伊豆ジオパークの構成 16 : 南伊豆ジオエリア (下), 2010年12月26日

小山真人, 伊豆新聞, 本社発行、静岡新聞, 発売の「火山がつくった天城の風景」, 2010年12月28日

小山真人, 季刊企業経営第113号 (2011年冬季号), 伊豆半島ジオパーク構想の取り組みについて, 2010年12月

小山真人, 伊豆新聞, ジオパーク構想始動へ 3月までに推進協発足 道筋案まもなく完成 県と伊豆6市6町, 2011年1月1日

小山真人, 伊豆新聞, 「どうして伊豆半島なの?」「どこが候補地?」ジオパークを知ろう 知っておきたいことアレコレ, 2011年1月1日

小山真人, 静岡新聞, 天城の地形、火山紹介 小山静大教授がマップ発刊, 2011年1月3日

小山真人, 伊豆新聞, 伊豆ジオパークへの旅 (31) 伊豆ジオパークの構成 17 : 熱海ジオエリア, 2011年1月9日

小山真人, 静岡新聞, 「南から来た火山の贈り物」テーマ 伊豆ジオパーク見どころ112カ所 県構想, 指針書概要固まる, 2011年1月12日

小山真人, 読売新聞静岡版, ジオパーク「2015年度認定を」伊豆など7市6町 3月に推進協設立, 2011年1月12日

小山真人, 伊豆新聞, 沼津を含む13市町が参加, 2015年度の世界指定を目指す, 2011年1月12日

小山真人, SBS (静岡放送) テレビ, イブニング eye 伊豆半島ジオパーク構想関連, 2011年1月13日

小山真人, 伊豆新聞, 伊豆ジオパークへの旅 (32) 伊豆ジオパークの構成 18 : 河津・東伊豆ジオエリア (上), 2011年1月16日

小山真人, 静岡朝日テレビ, 県内ニュース (とびっきり静岡) 東海地震の観測情報関連, 2011年1月17日

小山真人, 伊豆新聞, 伊豆ジオパークへの旅 (33) 伊豆ジオパークの構成 19 : 河津・東伊豆ジオエリア (中), 2011年1月23日

小山真人, 伊豆新聞, 伊豆ジオパークへの旅 (34) 伊豆ジオパークの構成 20 : 河津・東伊

豆ジオエリア（下），2011年1月30日

小山真人，SBS（静岡放送）テレビ，イブニング eye 防災最前線：富士山と伊豆東部火山群の火山防災関連，2011年2月2日

小山真人，読売新聞，新燃岳噴火 勧告縮小「やっと帰れる」自主避難続ける住民も 町長の対応評価 専門家，2011年2月6日

小山真人，伊豆新聞，伊豆ジオパークへの旅（35）伊豆ジオパークの構成 21：沼津・三島ジオエリア（上），2011年2月6日

小山真人，SBS（静岡放送）テレビ，イブニング eye 防災最前線：東海地震の観測情報の名称変更関連，2011年2月9日

小山真人，伊豆新聞，伊豆ジオパークへの旅（36）伊豆ジオパークの構成 22：沼津・三島ジオエリア（中），2011年2月13日

小山真人，朝日新聞，静岡版，大地の遺産、観光・教育に，2011年2月13日

小山真人，SBS（静岡放送）テレビ，県内ニュース 静岡大学の教授 新燃岳の現地調査を報告，2011年2月19日

小山真人，伊豆新聞，伊豆ジオパークへの旅（37）伊豆ジオパークの構成 23：沼津・三島ジオエリア（下），2011年2月20日

小山真人，静岡朝日テレビ，県内ニュース（とびっきり静岡）東海地震の観測情報関連，2011年2月22日

小山真人，NHKテレビ（たっぷり静岡），新燃岳噴火から見える静岡県の火山対策とは，2011年2月22日

小山真人，SBS（静岡放送）テレビ，イブニング eye 防災最前線：新燃岳噴火の現状は，2011年2月23日

小山真人，読売新聞，新燃岳噴火の避難勧告 手探りの避難基準 専門家との連携強化を，2011年2月23日

小山真人，伊豆新聞，構想の道筋を示す指針書によって、ジオへの取り組みがスタート，2011年2月26日

小山真人，静岡新聞，東部版，ジオパーク構想テーマに講演 三島で小山静大教授，2011年2月27日

小山真人，伊豆新聞，伊豆ジオパークへの旅（38）伊豆ジオパークの構成 24：大瀬崎・戸田ジオエリア（上），2011年2月27日

小山真人，静岡新聞，伊豆東部火山群 震度1で予測情報 最大震度や活動期間，2011年3月1日

小山真人，SBS（静岡放送）テレビ，イブニング eye 防災最前線：伊豆東部火山群の噴火警戒レベル関連，2011年3月2日

小山真人，伊豆新聞，伊豆ジオパークへの旅（39）伊豆ジオパークの構成 25：大瀬崎・戸田ジオエリア（下），2011年3月6日

小山真人, 静岡新聞, 社会の防災力底上げ 静岡で人材育成講座が開講, 2011年3月8日

小山真人, 伊豆新聞, 伊豆ジオパークへの旅(40) 伊豆ジオパークの構成 26: 駿河小山ジオエリア, 2011年3月13日

小山真人, 伊豆新聞, 伊豆ジオパークへの旅(41) 伊豆ジオパークの目標 1: ジオパーク構想指針書, 2011年3月20日

小山真人, 朝日新聞, 13火山の活動活発化 周辺に地震 噴火の兆候はなし, 2011年3月25日

小山真人, 南海タイムス, 記者コラム「ざつおん」パンドラの箱が開いてしまった, 2011年3月25日

小山真人, 静岡新聞, 中日新聞, など(共同通信配信) 13火山、地震活動活発 富士山など, 2011年3月27日

小山真人, 伊豆新聞, 伊豆ジオパークへの旅(42) 伊豆ジオパークの目標 2: あらためてジオパークとは何か?, 2011年3月27日

小山真人, 静岡第一テレビ, しずおか〇ごとワイド 東日本大震災関連, 2011年3月30日

小山真人, 朝日新聞, 「放射性物質予測の公表控えて」日本気象学会が通知 研究者に波紋, 2011年4月2日

小山真人, 伊豆新聞, 伊豆ジオパークへの旅(43) 伊豆ジオパークの目標 3: ジオパークの資産, 2011年4月3日

小山真人, 伊豆新聞, 伊豆ジオパークへの旅(44) 伊豆ジオパークの目標 4: ジオパークの成立条件, 2011年4月10日

小山真人, NHK テレビ(静岡ローカル)、静岡第一テレビ、テレビ静岡のローカルニュース ふじのくに防災学講座関連, 2011年4月16日

小山真人, 共同通信(静岡新聞, 神戸新聞, 熊本日日新聞, 北海道新聞, などに掲載), 津波の爪痕保存し後世に, 2011年4月16-17日

小山真人, 読売新聞, (静岡版), 静岡で「防災学講座」 「個人の意識」「避難訓練」重要, 2011年4月17日

小山真人, 中日新聞, 東海地震 備える「訓練 生存に直結」 県防災講座 大津波の想定必要, 2011年4月17日

小山真人, 静岡新聞, 「津波の際 すぐ高所へ」大震災の避難事例を紹介, 2011年4月17日

小山真人, 伊豆新聞, 伊豆ジオパークへの旅(45) 伊豆ジオパークの目標 5: ジオパークをささえる専門家, 2011年4月17日

小山真人, 静岡新聞, 伊豆の風力発電、可否論議 有識者会議が初会合, 2011年4月20日

小山真人, 伊豆新聞, 伊豆ジオパークへの旅(46) 伊豆ジオパークの目標 6: ジオパークの

拠点と説明資料，2011年4月24日

小山真人，伊豆新聞，伊豆ジオパークへの旅（47）伊豆ジオパークの目標7：ジオサイト、ジオガイド、ジオツアー，2011年5月1日

小山真人，SBS（静岡放送）テレビ，イブニング eye 伊豆を解剖 ジオパーク構想1，2011年5月2日

小山真人，伊豆新聞，伊豆ジオパークへの旅（48）伊豆ジオパークの目標8：ジオパーク関連商品の開発，2011年5月8日

小山真人，週刊ダイヤモンド5月14日号 大震災リスク 地震編，2011年5月9日

小山真人，NHK教育テレビ，サイエンスゼロ 巨大地震 “次なる災害”をとらえろ，2011年5月13日

小山真人，読売新聞，山梨版 富士山噴火備え進まず自治体、避難の具体策なし，2011年5月15日

小山真人，伊豆新聞，伊豆ジオパークへの旅（49）伊豆ジオパークの目標9：ジオパークと学校教育，2011年5月15日

小山真人，静岡新聞，時評：克服できないパニック神話正確な災害情報発信を，2011年5月18日

小山真人，伊豆新聞，伊豆ジオパークへの旅（50）伊豆ジオパークの目標10：ジオパークの保全，2011年5月22日

小山真人，静岡新聞，東部版 ジオパーク認識高めて 伊豆地区13市町 担当者対象に研修会，2011年5月28日

小山真人，伊豆新聞，伊豆ジオパークへの旅（51）伊豆ジオパークの目標11：ジオパークと防災（1），2011年5月29日

小山真人，伊豆新聞，伊豆ジオパーク推進協、伊東市役所内の事務局5人体制に，2011年5月31日

小山真人，静岡新聞，専任研究員に鈴木氏が着任 伊豆・ジオパーク推進協，2011年6月2日

小山真人，伊豆新聞，伊豆総合高 ジオパークの基礎学ぶ 静大小山教授 講演で伊豆の地学紹介，2011年6月3日

小山真人，SBS（静岡放送）テレビ，ローカルニュース 伊豆半島のジオパーク構想 高校生が見学会，2011年6月4日

小山真人，静岡新聞，伊豆半島の地形地質の魅力解説 伊豆総合高で小山静大教授，2011年6月4日

小山真人，読売新聞，わかるサイエンス 地震学 立て直しへ一歩 発生確率の誤解を防ぐ，2011年6月5日

小山真人，伊豆新聞，伊豆ジオパークへの旅（52）伊豆ジオパークの目標12：ジオパークと防災（2），2011年6月5日

小山真人, 伊豆新聞, 3 高校がジオパーク学ぶ 伊豆総合、松崎、下田南伊豆分校生参加
小山静大教授が指導, 2011 年 6 月 6 日

小山真人, 静岡新聞, 検証ジオパーク 伊豆再生を探る (1) 地質遺産 見慣れた風景魅力
に, 2011 年 6 月 7 日

小山真人, 静岡新聞, 具体的な避難対策必要 伊東でフォーラム 火山群への理解深める,
2011 年 6 月 10 日

小山真人 2, 読売新聞, (静岡版) 火山群に正しい理解を 伊東で専門家らフォーラム,
2011 年 6 月 10 日

小山真人, 伊豆新聞, 伊東で火山群フォーラム 防災にジオパーク活用 警戒レベル導入
受け開催, 2011 年 6 月 10 日

小山真人, 伊豆新聞, 伊豆ジオパークへの旅 (53) 伊豆ジオパークの目標 13 : ジオパーク
と防災 (3), 2011 年 6 月 12 日

小山真人, 伊豆新聞, 伊豆ジオパークへの旅 (54) 伊豆ジオパークの目標 14 : ジオパーク
と防災 (4), 2011 年 6 月 19 日

小山真人, 伊豆新聞, 潮の響 伊豆半島ジオパーク ビジターセンター関連, 2011 年 6 月
19 日

小山真人, 静岡新聞, 学術性か観光振興か 伊豆・万城の滝崩落防止工事に賛否, 2011 年
6 月 20 日

小山真人, 伊豆新聞, ジオパーク学習会 海底火山 世界的に有名 南伊豆 講演、現地
視察に 120 人, 2011 年 6 月 21 日

小山真人, 静岡朝日テレビ, 県内ニュース (とびっきり静岡) 万城の滝関連, 2011 年 6
月 22 日

小山真人, 伊豆新聞, 伊豆ジオパークへの旅 (55) 伊豆ジオパークの目標 15 : ジオパーク
と防災 (5), 2011 年 6 月 26 日

小山真人, 伊豆新聞, 伊豆ジオパークへの旅 (56) 伊豆ジオパークの目標 16 : ジオパーク
と防災 (6), 2011 年 7 月 3 日

小山真人, 朝日新聞, 給食の食材 放射能測定 生の数値公開し信頼得る努力を, 2011 年
7 月 6 日

小山真人, 伊豆新聞, 伊豆ジオパークへの旅 (57) 伊豆ジオパークの目標 17 : ジオパーク
と防災 (7), 2011 年 7 月 10 日

小山真人, 伊豆新聞, 伊豆ジオパークへの旅 (58) 伊豆ジオパークの目標 18 : ジオパーク
と防災 (8), 2011 年 7 月 17 日

小山真人, 伊豆新聞, まちこん伊東 西南海岸、海から巡る 「ジオツアー」第 2 弾に 59
人, 2011 年 7 月 19 日

小山真人, 伊豆新聞, 伊豆東方沖 地震が一時活発化 現在は落ち着く 気象庁、群発と
断定せず, 2011 年 7 月 20 日

小山真人, 伊豆新聞, 伊豆ジオパークへの旅 (59) 伊豆ジオパークの目標 19 : ジオパークと防災 (9), 2011 年 7 月 24 日

小山真人, テレビ朝日系列各局, テレメンタリー2011 古文書が語る巨大津波, 2011 年 7 月 25 日

小山真人, 伊豆新聞, 伊豆ジオパークへの旅 (60) 伊豆ジオパークの目標 20 : ジオパークと防災 (10), 2011 年 7 月 31 日

小山真人, 伊豆朝日新聞, バスで、船で、火山を学ぶ ルポ ジオツアー 景勝の西伊豆海岸が教室, 2011 年 8 月 1 日

小山真人, 静岡新聞, 1 日の最大震度 5 弱「調査情報」ほしかった 東海地震関連情報 県内専門家ら指摘, 2011 年 8 月 4 日

小山真人, 伊豆新聞, 伊豆ジオパークへの旅 (61) 伊豆ジオパークの目標 21 : ジオパークと防災 (11), 2011 年 8 月 7 日

小山真人, 静岡朝日テレビ, 県内ニュース (とびつきり静岡) 古文書が語る東海地震, 2011 年 8 月 12 日

小山真人, 伊豆新聞, 伊豆ジオパークへの旅 (62) 伊豆ジオパークの目標 22 : ジオパークと防災 (12), 2011 年 8 月 14 日

小山真人, 静岡新聞, 時評: 放射能のリスク伝達 消費者の信頼回復第一に, 2011 年 8 月 16 日

小山真人, 伊豆新聞, 伊豆ジオパークへの旅 (63) 伊豆ジオパークの目標 23 : ジオパークと防災 (13), 2011 年 8 月 21 日

小山真人, 中日新聞, 伊豆半島ジオパーク構想 地球胎動の跡 観光の目玉に 海底火山知識 ガイドら誘客へ学ぶ, 2011 年 8 月 23 日

小山真人, 伊豆新聞, 伊豆ジオパークへの旅 (64) 伊豆ジオパークの目標 24 : ジオパークと防災 (14), 2011 年 8 月 28 日

小山真人, 伊豆新聞, 13 市町から 51 人受講 野外学習で伊豆と本州衝突の現場も見学, 2011 年 9 月 2 日

小山真人, 伊豆新聞, 伊豆ジオパークへの旅 (65) 伊豆ジオパークの目標 25 : ジオパークと防災 (15), 2011 年 9 月 4 日

小山真人, 伊豆新聞, 伊豆ジオパークへの旅 (66) 伊豆ジオパークの目標 26 : ジオパークと防災 (16), 2011 年 9 月 11 日

小山真人, 伊豆新聞, スコリア層に驚く ジオガイド養成講座 温泉施設や大室山見学, 2011 年 9 月 14 日

小山真人, 静岡新聞, ゼロからの出発 大震災半年(7) 観光再生へ語り継ぐ 立ち上がった地域ガイド 悲しみも自らの言葉で, 2011 年 9 月 15 日

小山真人, 伊豆新聞, 伊豆ジオパークへの旅 (67) 伊豆ジオパークの目標 27 : ジオパークと防災 (17), 2011 年 9 月 18 日

小山真人, NHKテレビ (たっぷり静岡), ジオガイド養成講座, 2011年9月20日

小山真人, 大阪朝日放送, 古文書が語る巨大津波 (拡大版), 2011年9月23日

小山真人, 伊豆新聞, 伊豆ジオパークへの旅 (68) 伊豆ジオパークの目標 28: ジオパークと防災 (18), 2011年9月25日

小山真人, 静岡朝日テレビ, 県内ニュース (とびっきり静岡), 電磁気利用した地震予知研究, 2011年9月27日

小山真人, 伊豆新聞, 伊豆ジオパークへの旅 (69) 伊豆ジオパークの目標 29: ジオパークと防災 (19), 2011年10月2日

小山真人, 伊豆新聞, 南から来た火山の贈りもの 伊豆ジオパーク世界認定を目指して、第7部 構想実現への課題 1「一つになれるか」地域によって温度差, 2011年10月3日

小山真人, 伊豆新聞, 南から来た火山の贈りもの 伊豆ジオパーク世界認定を目指して、第7部 構想実現への課題 2「客を呼べるか」動き出した団体も, 2011年10月4日

小山真人, 伊豆新聞, 南から来た火山の贈りもの 伊豆ジオパーク世界認定を目指して、第7部 構想実現への課題 3「地元への普及・浸透」質高いガイド要請 カギ, 2011年10月5日

小山真人, 伊豆新聞, 南から来た火山の贈りもの 伊豆ジオパーク世界認定を目指して、第7部 構想実現への課題 3「ジオサイトの整備」自然公園法が“かせ”に, 2011年10月6日

小山真人, 伊豆新聞, 南から来た火山の贈りもの 伊豆ジオパーク世界認定を目指して、第7部 構想実現への課題 3「関連商品の開発」伊東、伊豆市で具体的動き, 2011年10月8日

小山真人, 伊豆新聞, 伊豆ジオパークへの旅 (70) 伊豆ジオパークの目標 30: ジオパークと防災 (20), 2011年10月9日

小山真人, 日経新聞, 静岡経済面 防災 静岡の構築 (中) 第3部 富士山への備え 専門家組織存在せず 他県との調整 国の役割重く, 2011年10月14日

小山真人, 伊豆新聞, 伊豆ジオパークへの旅 (71) 伊豆ジオパークの目標 31: ジオパークと防災 (21), 2011年10月16日

小山真人, 静岡新聞, 防災の人材育成急務 静大シンポ 自ら考えて行動を 過去に学ぶ 大切さ指摘, 2011年10月17日

小山真人, 朝日新聞, 静岡版 インタビューしずおか 地元13市町一体でガイド養成 推進協研究員 鈴木雄介さん, 2011年10月18日

小山真人, 静岡新聞, 今井さん (東京) 最優秀 伊豆半島ジオパーク構想 公式ロゴ決まる, 2011年10月19日

小山真人, 中日新聞, 伊豆ジオパーク ロゴマーク決定 全国から234点応募, 2011年10月19日

小山真人, 静岡新聞, 静岡大 防災・日本再生シンポジウム 大震災"東海"にどう生かす,
2011年10月22日

小山真人, 伊豆新聞, 伊豆ジオパークへの旅(72) 伊豆ジオパークの目標32: ジオパーク
と防災(22), 2011年10月23日

小山真人, 伊豆新聞, 南から来た火山の贈りもの 伊豆ジオパーク世界認定を目指して,
第8部 支える人5「南伊豆エリア」住民行動が成否の鍵, 2011年11月2日

小山真人, 伊豆新聞, 伊豆ジオパークへの旅(73) 伊豆ジオパークの目標33: ジオパーク
と防災(23), 2011年10月30日

小山真人, 伊豆新聞, 伊豆ジオパークへの旅(74) 伊豆ジオパークの目標34: ジオパーク
と防災(24), 2011年11月6日

小山真人, 静岡新聞, 避難行動の大切さ訴え 沼津で防災シンポ, 2011年11月6日

小山真人, 伊豆新聞, 南から来た火山の贈りもの 伊豆ジオパーク世界認定を目指して,
第8部 支える人13「伊豆総合高校」地域に誇り 魅力を発信, 2011年11月10日

小山真人, 伊豆新聞, 伊豆ジオパークへの旅(75) 大地の公園7: フランスの火山公園(5),
2011年11月13日

小山真人, 伊豆新聞, 伊豆東部火山群噴火警戒レベル 習熟へ合同図上訓練 伊東市、県、
気象庁など 対応、連携を確認, 2011年11月13日

小山真人, NHKテレビ(たっぷり静岡), 伊豆東部火山群で火山防災訓練, 2011年11月
15日

小山真人, 朝日新聞, 電子地図、送電線消えた 国土地理院版、電力会社が情報拒む 保
安上の理由, 2011年11月16日

小山真人, 伊豆新聞, 伊豆ジオパークへの旅(76) 大地の公園8: フランスの火山公園(6),
2011年11月20日

小山真人, 静岡新聞, 時評: 風評被害 消費者無視 最低の言葉, 2011年11月24日

小山真人, 伊豆新聞, 伊豆ジオパークへの旅(77) 大地の公園9: フランスの火山公園(7),
2011年11月27日

小山真人, 伊豆新聞, 市史講演会 静岡大の小山教授が火山の恵み城ヶ崎など語る, 2011
年11月27日

小山真人, 中日新聞, 静岡県内版 大津波・富士山噴火 備えを 3.11 テーマ 静大・中
日新聞, 連携講座, 2011年12月3日

小山真人, 小学二年生 2012年1月号ワンダーカラー みんな大好き 富士山, 2011年12
月3日

小山真人, 伊豆新聞, 伊豆ジオパークへの旅(78) 伊豆ジオパークの目標35: ジオパーク
と防災(25), 2011年12月4日

小山真人, アエラ12月12日号, 富士山 噴火と崩壊の恐怖, 2011年12月5日

小山真人, 中日新聞, 静岡県内版 火山活動 数年は注意 静大・中日新聞, 連携講座で

小山教授が講演，2011年12月11日

小山真人，伊豆新聞，伊豆ジオパークへの旅（79）伊豆ジオパークの目標36：ジオパークと防災（26），2011年12月11日

小山真人，山と溪谷2012年1月号 いま知っておきたい山の最新事情107：自然災害，2011年12月15日

小山真人，伊豆新聞，伊豆ジオパークへの旅（80）伊豆ジオパークの目標37：ジオパークと防災（27），2011年12月18日

小山真人，伊豆新聞，伊豆ジオパークへの旅（81）伊豆ジオパークの目標38：ジオパークと防災（28），2011年12月25日

小山真人，日経サイエンス2012年2月号 浮かび上がるスーパーサイクル，2011年12月24日

小山真人，日経サイエンス2012年2月号 最悪のシナリオ，2011年12月24日

小山真人，日経サイエンス2012年2月号 続く地殻変動，2011年12月24日

小山真人，毎日新聞，M9以上の地震火山に「波及」大噴火対策を本格検討 震災で政府危機感，2011年12月30日

小山真人，毎日新聞，静岡版・山梨版 富士と生きる2 噴火監視24時間態勢 昨春、マグマの真上が震源に 専門家「数年間は警戒を」，2012年1月3日

小山真人，伊豆新聞，伊豆ジオパークへの旅（82）伊豆ジオパークの目標39：ジオパークと防災（29），2012年1月8日

小山真人，IWJ，東日本大震災後の静岡を考える会主催「研究集会 東日本大震災のリスクコミュニケーション～とくに放射線のリスクをどう考えるか～」，2012年1月8日

小山真人，テレビ朝日系列各局，ザ・スクープスペシャル「過去からの警告 古文書と考古学が語る巨大津波」，2012年1月15日

小山真人，伊豆新聞，伊豆ジオパークへの旅（83）伊豆ジオパークの目標40：ジオパークのメリット（1），2012年1月15日

小山真人，伊豆新聞，伊豆ジオパークへの旅（84）伊豆ジオパークの目標41：ジオパークのメリット（2），2012年1月22日

小山真人，静岡新聞，東海地震 第4次被害想定 県 策定を1年前倒し 県主導の考え必要，2012年1月24日

小山真人，静岡新聞，伊豆・東部版 伊豆半島ジオパーク推進協公認 ガイド試験36人挑む，2012年1月24日

小山真人，伊豆新聞，初日の伊東は9人挑む 推進協が31日まで6エリア，2012年1月24日

小山真人，伊豆新聞，伊豆ジオパークへの旅（85）伊豆ジオパークの目標42：ジオパークのメリット（3），2012年1月29日

小山真人，SBS（静岡放送）テレビ，イブニング eye 防災最前線：相次ぐ地震・・・富

土山に異変は？ 富士山で何が？, 2012年2月1日

小山真人, 伊豆新聞, 伊豆ジオパークへの旅(86) 伊豆ジオパークの目標43: ジオパークのメリット(4), 2012年2月5日

小山真人, 伊豆新聞, 伊豆ジオパークへの旅(87) 伊豆ジオパークの目標44: ジオパークのメリット(5), 2012年2月12日

小山真人, 2012年2月19日, 伊豆新聞, 伊豆ジオパークへの旅(88) 伊豆ジオパークの目標45: ジオパークのメリット(6), 2012年2月12日

小山真人, B S フジ, ガリレオ X 活火山富士 噴火は迫っているのか?, 2012年2月26日

小山真人, 伊豆新聞, 伊豆ジオパークへの旅(89) 大地の公園10: アイスランドの火山公園(1), 2012年2月26日

小山真人, IWJ, オペレーション・コドモたち主催「The Bible 4 Survival- インチキには騙されるな-」シンポジウム2「首都圏直下地震と富士山噴火」, 2012年3月3日

小山真人, 伊豆新聞, 伊豆ジオパークへの旅(90) 大地の公園11: アイスランドの火山公園(2), 2012年3月4日

小山真人, 静岡新聞, 時評: ブランドを守るために 生産者のプライド持て, 2012年3月7日

小山真人, 伊豆新聞, 伊豆ジオパークへの旅(91) 大地の公園12: アイスランドの火山公園(3), 2012年3月11日

小山真人, 伊豆新聞, 伊豆ジオパークへの旅(92) 大地の公園13: アイスランドの火山公園(4), 2012年3月18日

小山真人, テレビ静岡, 特報! しずおか「富士山噴火を考える」, 2012年3月24日

小山真人, 伊豆新聞, 伊豆ジオパークへの旅(93) 大地の公園14: アイスランドの火山公園(5), 2012年3月25日

小山真人, 朝日新聞, 静岡版 半島の美景 火山の恵み 変わる(1) 伊豆箱根観光 集客へジオパーク活動進む, 2012年3月25日

小山真人, NHKテレビ(たっぷり静岡), 火山の防災協議会が発足, 2012年3月28日

小山真人, B S (静岡放送) テレビ, イブニング eye 伊豆東部火山群 防災協議会を設立, 2012年3月28日

小山真人, 静岡新聞, 火山防災検討へ協議会 伊豆東部地域 図上訓練 研究進める, 2012年3月29日

小山真人, 伊豆新聞, 伊豆東部火山群防災協が発足 新年度は避難計画策定, 2012年3月29日

小山真人, 読売新聞, 静岡版 新年度に火山避難計画案 伊豆東部防災協が発足, 2012年3月29日

村越 真, 読売新聞, 「地図を持って外へでよう」, 2011年6月5日

村越 真, NHK 爆笑問題の日本人の教養, 方向音痴 2011年7月28日

村越 真, JTB パブリッシング, ノジュール, 2011年6月

村越 真, 朝日新聞, 「電子地図消えた送電線」読図指導者としてコメント, 2011年11月12日

中川和之, 静岡新聞, 書評「新たな視点で魅力説く=伊豆の台地の物語」, 2010年10月23日

中川和之, 時事通信「防災リスクマネジメントWeb」, 【地域防災ツール】イメージして備えるためにラジオドラマ作りを=第1回コンテストから, 2011年1月21日

中川和之, 時事通信「防災リスクマネジメントWeb」, 【ベストプラクティス】災ボラ東海訓練/6-4 HP を開設し被災地に向けまずメッセージ=東京・名古屋の連絡所, 2010年11月11日

中川和之, 時事通信「防災リスクマネジメントWeb」, 【ベストプラクティス】災ボラ東海訓練/6-3 広域の支援センター候補地は卓球台のテーブルで=伊東市では大がかりなボラセン開設訓練, 2010年11月5日

中川和之, 時事通信「防災リスクマネジメントWeb」, 【ベストプラクティス】災ボラ東海訓練/6-2 資機材の搬入、設営も協働作業=政府の現地本部立ち上げ, 2010年10月7日

中川和之, 時事通信「防災リスクマネジメントWeb」, 【ベストプラクティス】災ボラ東海訓練/6-1 5年間の試行錯誤生かし、政府の現地対策本部に参画, 2010年9月15日

中川和之, 時事通信「防災リスクマネジメントWeb」, 【行ってきました】地震で新しいジオパークができる!=室戸岬でこどもたちが「新発見」, 2010年9月6日

中川和之, 時事通信「防災リスクマネジメントWeb」, 【徹底分析】「危機管理庁」消えた民主党、自民党は「津波対策」で新法、学校耐震化は新たな公共事業、社民は「防災先進国」打ち出す-主要9党マニフェストから, 2010年6月24日

中川和之, 時事通信「防災リスクマネジメントWeb」, 【行ってきました】エレベーターからめぐる再現被災地=ニンテンドーDSでクイズラリー-そなエリア東京, 2010年6月8日

中川和之, 時事通信「防災リスクマネジメントWeb」, 【ベストプラクティス】大賞は「お互いさま BC 連携」の横浜市=IT の新型インフル対策で優秀実践賞や特別賞-BCAO アワード2009, 2010年6月1日

中川和之, 時事通信「防災リスクマネジメントWeb」, 【フォーラムレポート】地域の防災力を高めるには=新潟が2度の経験から得たもの-記念講演会「地域と防災」, 2010年5月31日

中川和之, 時事通信「防災リスクマネジメントWeb」, 【ベストプラクティス】災ボラ東海図上訓練/5-4 具体的課題に集中して議論=今後への手掛かりに, 2010年4月13日

中川和之, 時事通信「防災リスクマネジメントWeb」, 【ベストプラクティス】災ボラ東

海図上訓練/5-3 活動 PR のメッセージ作りで協働作業=リエゾン役は県本部に状況報告,
2010年4月12日

中川和之, 時事通信「防災リスクマネジメントWeb」, 【ニュース解説】被害を少しでも
減らすために排水施設の停止をいかに防ぐか=首都の大規模水害対策, 2010年4月6日

武村雅之, 朝日新聞, 地震、長びく恐れ 地震学者12人の見方 東日本大震災, 2011年
月21日

武村雅之, 朝日新聞, 防災に役立つ研究へ 東日本大震災踏まえ、学者ら議論, 2011年06
月02日

武村雅之, 静岡新聞, 防災・耐震セミナー、浜岡原発対応も説明ー31日に御前崎, 2011
年7月20日

武村雅之, 毎日新聞, 大正100年:歴史に探る日本の針路 第8回 関東大震災, 2011
年8月20日

武村雅之, 読売新聞, 慶長年間も巨大津波到達 仙台平野周辺, 2011年9月25日

武村雅之, 朝日新聞, 津波伝承の神社、東日本大震災の浸水地を囲む 仙台平野, 2011
年10月04日

武村雅之, 静岡新聞, 防災、多角的に話題提供ー静岡大など16日から県内でシンポジウ
ム, 2011年10月6日

武村雅之, 静岡新聞, 社説(2011年10月14日・金曜日) =地震学会静岡大会ー新
知見を減災に生かせ, 2011年10月14日

武村雅之, 静岡新聞, 静岡で「東日本大震災に学び東海地震に備える」公開セミナー 最
新の研究成果を紹介ー日本地震学会, 2011年10月16日

武村雅之, 静岡新聞, 防災の人材育成急務 自ら考えて行動を、過去に学ぶ大切さ指摘ー
静岡大の「防災・日本再生シンポ」, 2011年10月17日

武村雅之, 静岡新聞, 静岡大ー防災・日本再生シンポジウム=大震災“東海”にどう生か
すー基調講演・北村晃寿(静岡大理学部准教授) / 武村雅之(静岡大防災総合センター
客員教授), 2011年10月22日

武村雅之, 読売新聞, 外部専門家交え 津波対策委発足 浜松市=静岡, 2011年10月26
日

武村雅之, 朝日新聞, 地震対策、古文書で探れ 日記から震度推定、復興の記録も, 2012
年01月16日

牛山素行, 毎日新聞(全国朝刊), 津波に6割避難せず…内閣府など調査, 2010年4月14日

牛山素行, 中日新聞(静岡), “気象警報”市町村単位で発表へ認知度が低く、新方式へ課題,
2010年4月28日

牛山素行, 静岡新聞, 警報・注意報の新発令方法「理解進んでいない」, 2010年4月30日

牛山素行, 中日新聞, 毎月1日は東海地震特集 備える その89「災害の心理学」 広
瀬弘忠東京女子大教授 避難遅らす『正常性バイアス』 危険性直感できる訓練を, 2010

年 5 月 1 日
牛山素行, 静岡新聞, 時評＝「津波の高さ」－予報数値超す高さに遡上, 2010 年 5 月 5 日
牛山素行, 毎日新聞(東京朝刊), 備える: 津波対策／3 ハザードマップ、未策定多く, 2010 年 5 月 5 日
牛山素行, 毎日新聞(東京夕刊), 気象庁: 市区町村単位の気象警報、TV・ラジオ速報せず
「情報量膨大で住民混乱」, 2010 年 5 月 22 日
牛山素行, 読売新聞(大阪朝刊), [ニュースが気になる!] 気象情報・注意報 市町村ごと
に 危険迫る地域明確化, 2010 年 5 月 25 日
牛山素行, 岩手日報, 予測地図の作成など議論 盛岡で災害情報協議会, 2010 年 7 月 6 日
牛山素行, 毎日新聞(東京), 備える: 津波対策／1 2 警報出た時は当事者意識を, 2010 年 7 月 7 日
牛山素行, 中日新聞(静岡), 誤った認識、住民の 7 割 チリ地震の津波警報地区を静大准教授
が調査, 2010 年 7 月 10 日
牛山素行, 静岡新聞, 「津波被害避難で軽減」 住民アンケート分析－「しずおか防災コン
ソーシアム」が静岡でセミナー, 2010 年 7 月 11 日
牛山素行, 静岡新聞, 避難の重要性強調 津波対策で講演－松崎, 2010 年 7 月 14 日
牛山素行, 静岡新聞, チリ地震津波で新居・向島地区、警報覚知に遅れ－静大准教授調査,
2010 年 7 月 15 日
牛山素行, 静岡新聞, 名称「ふじのくに防災フェロー」－「県上級防災士」制度, 2010 年
7 月 16 日
牛山素行, 毎日新聞(中部朝刊), 豪雨: 岐阜・八百津 3 人死亡 「雨が憎い、残念」知人、
唇かみ, 2010 年 7 月 17 日
牛山素行, 毎日新聞(中部朝刊), 岐阜集中豪雨: 発生 1 週間 被害の拡大、なぜ防げず, 2010
年 7 月 22 日
牛山素行, 岩手日報, ★特集★ どう対応 グリラ豪雨 一検証・1 7 日夜の岩手町水害,
2010 年 7 月 27 日
牛山素行, 毎日新聞(東京朝刊), 備える: 近年の災害の教訓／1 避難所に向かうことの危
険, 2010 年 7 月 28 日
牛山素行, 共同通信, 住民、自治体に課題残す 避難方法や勧告時機, 2010 年 8 月 9 日
牛山素行, 毎日新聞(中部朝刊), 岐阜集中豪雨: 発生 1 カ月 頓挫した堤防建設 可児市の
高架下近く、1 5 年前計画, 2010 年 8 月 15 日
牛山素行, 静岡新聞, 東海地震への警戒呼び掛け－函南で防災講演会, 2010 年 8 月 21 日
牛山素行, 岩手日報, 土砂災害ハザードマップ 県内市町村作製進まず 「法対応」岩泉
町のみ 警戒区域 2 0 0 0 カ所 早急な対策必要, 2010 年 8 月 21 日
牛山素行, 毎日新聞(中部朝刊), 水害と向き合う: 東海豪雨から 1 0 年／1 (その 1) ハ
ード対策に限界, 2010 年 8 月 25 日

牛山素行，静岡新聞，東海豪雨10年 水防体制、本県にも警鐘—当時の担当者「同様の雨起こり得る」，2010年8月25日

牛山素行，岩手日報，津波危険度 低い認識 陸前高田の住民 71%にとどまる 静岡大の比較調査で判明 前兆への誤解多く 知識不足も浮き彫り，2010年8月31日

牛山素行，静岡新聞，津波対策の課題探る 牛山准教授（静大）が講演—浜松で遠州灘保全期成同盟会，2010年9月01日

牛山素行，岩手日報，津波避難行動 心構え再確認 陸前高田で報告会，2010年9月03日

牛山素行，静岡新聞，12日に防災講演会—御前崎，2010年9月04日

牛山素行，朝日新聞(名古屋朝刊)，(東海豪雨から10年：上) 防災対策、追いつかず 「想定外」遅れる勧告，2010年9月9日

牛山素行，朝日新聞(夕刊)，(昭和史再訪) 昭和三陸津波 8年3月3日 被災の伝承、避難を左右，2010年9月11日

牛山素行，静岡新聞，時評—「自助共助」の限界—「公助」と役割分担重要，2010年9月15日

牛山素行，読売新聞(静岡)，[研究室拝見] 静岡大学防災総合センター 牛山素行准教授—静岡，2010年10月10日

牛山素行，静岡新聞，「防災情報活用を」牛山准教授が講演 県気象友の会総会—静岡，2010年10月11日

牛山素行，中日新聞，ニュースを問う 中崎裕 (岐阜支社報道部) 岐阜県東部の豪雨 災害情報生かす工夫を 危機意識の希薄 メール配信導入，2010年11月7日

牛山素行，静岡新聞，対談—被災時の自助・共助と公助—牛山素行（静大防災総合センター副センター長）—迅速な対応大きな効果／前佛和秀（国交省沼津河川国道事務所長）—関係機関の連携不可欠，2011年1月4日

牛山素行，静岡新聞，県「防災フェロー」 1期生講座開講へ 3月から静大防災総合センター，2011年1月5日

牛山素行，岩手日報，雪害 孤立地区が多発 年末年始の県内 除雪／救助活動／家庭の備え 求められる対策見直し，2011年1月6日

牛山素行，中日新聞(静岡)，防災考える人材を 静岡大が「養成講座」を初開講，2011年1月13日

牛山素行，毎日新聞(岐阜)，防災気象講演会：「積極的に情報活用を」 静岡大准教授「豪雨災害」講演 /岐阜，2011年1月14日

牛山素行，朝日新聞(全国朝刊)，(b e r e p o r t) 電子化で高める地域防災力 地図かさね課題を議論，2011年1月29日

牛山素行，静岡新聞，「ふじのくに防災フェロー養成講座」に5倍応募 静大など「枠増やし対応」，2011年2月8日

牛山素行, 静岡新聞, 時評=ふじのくに防災フェロー養成講座—人材育て波及効果期待,
2011年2月9日

牛山素行, 毎日新聞, 知る:ハザードマップ 読み解く力をつけておこう, 2011年3月9日

牛山素行, 東京新聞, 東日本大震災 大津波備え限界 1000年に1度…何ができる 高台移住究極の手段 大船渡 吉浜地区 歴史に学び、住民守る, 2011年3月15日

牛山素行, 毎日新聞(全国), 東日本大震災 9200人、依然孤立 全容の把握進まず, 2011年3月16日

牛山素行, 読売新聞, 津波、三陸海岸で15m超す…国内最大級か, 2011年3月18日

牛山素行, 読売新聞(全国), 津波で浸水 山手線内側の6.4倍 海岸から十数キロ地点も,
2011年3月19日

牛山素行, 静岡新聞, 大震災 現場から～本社取材班=「高所移転」集落救う 岩手・大船渡、明治の大津波教訓 沼津でも一時期検討, 2011年3月20日

牛山素行, 毎日新聞(全国), 東日本大震災:津波、宮城・北上川15キロ遡上 国土地理院が浸水地図, 2011年3月24日

牛山素行, 河北新報, 東日本大震災/防災計画「過小と言えぬ」/静岡大防災総合センター副センター長, 2011年3月24日

牛山素行, 毎日新聞(全国), <東日本大震災>指定避難所に津波 死者・不明100人超す,
2011年3月29日

牛山素行, 岩手日報, 35避難所 津波浸水 東日本大震災 県内6市町村 行政予測上回る 対策再構築が課題, 2011年4月4日

牛山素行, 毎日新聞(全国朝刊), 東日本大震災 苦悩の内陸避難 想定9500人、移動1割, 2011年4月4日

牛山素行, 中日新聞, 住民が使う施設優先 遅れた庁舎耐震化 茨城8市町、倒壊危機 岩手・遠野 市役所だけが全壊, 2011年4月4日

牛山素行, 毎日新聞(東京夕刊), 東日本大震災:先人の教訓、住民救った 岩手の2集落、高台移転で「無傷」, 2011年04月05日

牛山素行, 毎日新聞(東京朝刊), 検証・大震災:専門家が見て、感じた現実 今村・東北大学教授/牛山・静岡大准教授, 2011年04月10日

牛山素行, 信濃毎日新聞, 指定避難所100カ所超被災 牛山准教授に聞く 高所への経路確保を, 2011年04月13日

牛山素行, 静岡新聞, 指定避難所100カ所超が被災 大津波で流出、浸水 住民多数犠牲か—東日本大震災, 2011年04月13日

牛山素行, 中国新聞, 東日本大震災 指定避難所 100以上に津波 流失や浸水 住民多数犠牲か, 2011年04月13日

牛山素行, 宮崎日日新聞, 東日本大震災/高いビルの指定も必要, 2011年04月14日

牛山素行, 静岡新聞, 岩手・沿岸部を視察 普段からの津波対策重要—牛山素行・静岡大准教授, 2011年04月15日

牛山素行, 読売新聞(東京朝刊), 静岡で「防災学講座」 「個人の意識」「避難訓練」重要—静岡, 2011年04月17日

牛山素行, 静岡新聞, 「津波の際、すぐ高所へ」 大震災の避難事例を紹介—静岡・葵区, 2011年04月17日

牛山素行, 河北新報, 東日本大震災／児童74人死亡・不明／石巻・大川小の3・11, 2011年4月24日

牛山素行, 朝日新聞(大阪夕刊), 「東日本大震災後」専門家が検証 津波防災「住民とともに」 【大阪】, 2011年4月26日

牛山素行, 静岡新聞, 津波対策で検討委 来年2月めど、避難行動案策定へ—袋井市, 2011年5月3日

牛山素行, 静岡新聞, 大津波に備える～21日に避難訓練(中)＝災害弱者対策—迅速誘導へ道筋遠く, 2011年5月19日

牛山素行, 信濃毎日新聞, 始発駅・信州よ＝牛山素行さん 災害、人の被害軽減探る, 2011年5月22日

牛山素行, 静岡新聞, 社説(2011年6月1日・水曜日)＝サイポスレーダー—積極活用を日ごろから, 2011年6月1日

牛山素行, 四国新聞, 災害対応に理解深める／高松でトップセミナー, 2011年6月4日

牛山素行, 静岡新聞, 「地域特性踏まえ防災」 市議研修会で講演—静岡大・牛山准教授, 2011年6月10日

牛山素行, 中日新聞, 耐震性確保半数のみ 清水区三保の「津波避難ビル」, 2011年6月12日

牛山素行, 静岡新聞, 「地域に即す対応必要」 牛山静岡大准教授が被災地報告—磐田市自主防連, 2011年6月12日

牛山素行, 読売新聞, 全680校 防災対策調査へ 県教委 想定外事態に備え＝群馬, 2011年6月19日

牛山素行, 静岡新聞, 時評＝大震災時の津波被害—想定だけでは防げない, 2011年6月29日

牛山素行, 読売新聞, 防災アンケート 自治体「避難で減災」 津波対策 ビル確保急ぐ(解説), 2011年7月12日

牛山素行, サンデー毎日, 大震災から4ヶ月 行方不明5200人 1日1700人減った石巻, 2011年7月24日

牛山素行, 毎日新聞(西部朝刊), 津波ハザードマップ: 8割未作成 対策遅れる九州・山口—沿岸市町村調査, 2011年7月17日

牛山素行, 岩手日報, 陸前高田市の津波到達時刻を調査 静岡大牛山准教授, 2011年7月

20日

牛山素行, 中日新聞(東海本社), 岩手県大船渡市の公民館館長震災録 県内の識者2人が分析, 2011年7月31日

牛山素行, 静岡新聞, 県が夜間防災講座 企業担当者ら対策学ぶ—静岡, 2011年8月3日

牛山素行, 静岡新聞, 解説・主張しずおか=土砂災害と避難—判断に難しさ 県内山間地、備え怠るな (佐藤章弘/天竜支局), 2011年08月05日

牛山素行, 読売新聞(全国), [スキャナー] 台風12号 紀伊半島 弱い地盤直撃, 2011年9月5日

牛山素行, 共同通信(岩手日報, 信濃毎日新聞他地方紙各紙に掲載), 山間部、避難発令難しく 近年目立つ記録的大雨, 2011年9月5日

牛山素行, 朝日新聞, 孤立対策、山間部で後手 台風12号 【大阪】, 2011年9月7日

牛山素行, 朝日新聞, 2万集落が孤立の危険性 非常時の通信、整備進まず, 2011年9月7日

牛山素行, 産経新聞, 4日未明の大雨 深層崩壊へ一気 「避難判断 変化の前に」, 2011年9月7日

牛山素行, 朝日新聞(静岡), 豪雨による深層崩壊、県内も警戒を 専門家「危険な場所把握して」 / 静岡県, 2011年9月10日

牛山素行, 静岡新聞, 豪雨時の情報収集学ぶ 災害発生から1年経過で講演会—小山, 2011年9月17日

牛山素行, 静岡新聞, 小山豪雨で避難2割 被害防止、確実性に課題 昨年9月の勧告地域などアンケート—町と静岡大牛山研究室, 2011年9月30日

牛山素行, 朝日新聞(静岡), 台風被害の教訓、町民300人が学ぶ 小山で講演会 / 静岡県, 2011年9月17日

牛山素行, 読売新聞(静岡), 「避難せず」7割 小山町豪雨1年 町民アンケート=静岡, 2011年9月17日

牛山素行, 読売新聞(全国), 台風15号 避難対象 最大規模に 名古屋、一時110万人, 2011年9月21日

牛山素行, 朝日新聞(愛知), (防災心) 生死を分ける訓練: 4 「命を救う訓練」とは? 識者に聞く / 東海・共通, 2011年9月22日

牛山素行, 読売新聞(静岡), 台風 避難勧告 対応二分 出さぬ静岡 出した浜松=静岡, 2011年9月23日

牛山素行, 朝日新聞, 発令いつ・どうやって 台風で名古屋109万人勧告・指示、避難4600人 【名古屋】, 2011年9月23日

牛山素行, 共同通信, 豪雨被害、高台に集中 「状況に応じて避難を」, 2011年9月30日

牛山素行, 共同通信, 地域の危険箇所の理解を 静岡大の牛山素行准教授, 2011年9月30日

牛山素行, 読売新聞(全国), [検証・紀伊水害] (上)「避難を」町長自ら警鐘 (連載), 2011年10月1日

牛山素行, 朝日新聞(大阪), 台風12号、突きつけた課題 【大阪】, 2011年10月03日

牛山素行, 朝日新聞(全国), 連動地震に備え戦略会議を設立 東海4県と長野, 2011年10月5日

牛山素行, 静岡新聞, 3連動備え中部圏連携 防災体制確立へー戦略会議初会合、本県など参加, 2011年10月5日

牛山素行, 日経コンストラクション, NEWS 焦点～台風15号で都市の脆弱性が露呈, 2011年10月10日

牛山素行, 静岡新聞, 震災に学ぶー16日・静岡大シンポを前に (3)＝犠牲者の6割が高齢者・牛山素行准教授ー高所移転も考慮すべき, 2011年10月10日

牛山素行, 静岡新聞, 静岡大ー防災・日本再生シンポジウム＝大震災“東海”にどう生かす, 2011年10月22日

牛山素行, 読売新聞(全国), 遠くても安全な避難所へ 奈良 山間地向け誘導計画 台風12号教訓, 2011年11月7日

牛山素行, 静岡新聞, 時評＝自治体の避難勧告ー地域を知り、各自でも判断, 2011年11月10日

牛山素行, 朝日新聞(徳島), (阿南どうなん? 2011市長選:上) 防災「優等生」に冷や水 /徳島県, 2011年11月12日

牛山素行, 静岡新聞, 沿岸部の市町に整備を促す 津波避難の標識試作ー県, 2011年11月15日

牛山素行, 朝日新聞(全国夕刊), 台風12号犠牲者、7割以上が屋内 原因は土砂災害が半数, 2011年11月16日

牛山素行, 静岡新聞, 多様な避難情報確保を 台風対策で意見交換ー静岡で防災情報連絡会, 2011年12月18日

牛山素行, 静岡新聞, 防災プロ地域に知識還元 1期生研究発表で成果ー静大「フェロー講座」, 2011年12月29日

牛山素行, 静岡新聞, 時評＝データで見る震災ー広く長期的な対策重要, 2012年01月20日

牛山素行, 静岡新聞, 県内の技術士が災害対策学ぶー葵区で講習会, 2012年01月24日

牛山素行, 朝日新聞, 幼稚園・学校の25%、津波浸水域 7割、地域防災拠点 県教委調べ /静岡県, 2012年2月12日

牛山素行, 静岡新聞, 検証・12年度予算案ー政令市浜松 (下)＝津波対策ー避難ビルの空白解消へ (高橋和之、佐野七緒、尾原崇也/浜松総局), 2012年02月17日

牛山素行, 読売新聞, [逃れる] (1) 100回外れても避難勧告 (連載) その2, 2012年2月29日

牛山素行, 静岡新聞, 「防災フェロー養成講座」2期生に20人 定員4倍超す人気—静岡
大防災総合センター, 2012年3月5日

牛山素行, 静岡新聞, 県防災フェロー講座1期生 「研究者の熱意が刺激に」—静岡, 2012
年3月9日

牛山素行, 朝日新聞, (3・11から 生き残るために:10) 専門家の育成と継承 防災
力を高める/静岡県, 2012年3月9日

牛山素行, 朝日新聞(熊本), 避難行動考える住民 大津波・山崩れの歴史、低地の熊本・松
尾町を歩く /熊本県, 2012年3月11日

牛山素行, 岩手日報, ★忘れない 防災特集★ 惨禍からの教訓 県民を守る礎に, 2012
年3月13日

牛山素行, 朝日新聞(熊本), 地震後の安心、落とし穴 次の危機回避を 震災1年、被災地
取材ノートから /熊本県, 2012年3月14日

牛山素行, 静岡新聞, 最大津波どう防ぐ 県内市町に衝撃—南海トラフ地震推計値, 2012
年4月1日

牛山素行, NHK「たっぷり静岡」, 「市町村警報」導入に関するコメント, 2010年5月25
日.

牛山素行, 静岡あさひテレビ とびっきり!しずおか, 「市町村警報」導入に関するコメント,
2010年5月26日.

牛山素行, SBS 静岡放送「SBS イブニング eye」, 「市町村警報」導入に関するコメン
ト, 2010年5月26日.

牛山素行, SBS 静岡放送「SBS イブニング eye」, 豪雨災害時の避難勧告基準策定に関
するコメント, 2010年7月7日.

牛山素行, 静岡だいいちテレビ「静岡〇ごとワイド!news every.しずおか」, チリ地震津波
に関するアンケート報告会の紹介, 2010年7月20日.

牛山素行, 静岡あさひテレビ とびっきり!しずおか, 駿河湾地震から1年 津波対策は進ん
だか, 2010年8月10日

牛山素行, テレビ静岡 特報しずおかスペシャル, 「わが家の防災総点検〜静岡沖地震から
1年〜, 2010年8月12日

牛山素行, SBS 静岡放送「SBS イブニング eye」, 静岡県小山町豪雨災害の現地踏査とコメ
ント, 2010年9月9日

牛山素行, SBS 静岡放送「SBS イブニング eye」, ふじのくに防災フェロー養成講座の募集
開始について, 2011年1月5日

牛山素行, NHK「たっぷり静岡」, ふじのくに防災フェロー養成講座について, 2011年2
月9日

牛山素行, SBS 静岡放送「SBS イブニング eye」, 東日本大震災についてのコメント, 2011
年3月14日

牛山素行, NHK ニュース(全国), 大震災 岩手・陸前高田 津波 20m 駆け上がる 専門家が航空写真で分析, 2011/03/15

牛山素行, NHK 「たっぷり静岡」, 東日本大震災・現地調査を踏まえたコメント, 2011年4月5日.

牛山素行, SBS 静岡放送「SBS イブニング eye」, 東日本大震災についてのコメント, 2011年4月12日

牛山素行, NHK ニュース(全国), 大震災・復興構想会議 専門家 「高所移転」の積極導入を指摘, 2011年4月14日

牛山素行, SBS 静岡放送「SBS イブニング eye」, 東日本大震災についてのコメント, 2011年4月21日

牛山素行, SBS 静岡放送, 静岡発そこ知り 崩れた想定 東海地震で静岡は?～津波・原発の被害再検証～, 2011年4月27日

牛山素行, SBS 静岡放送「SBS イブニング eye」, 豪雨災害に備える雨量・水位情報についてのコメント, 2011年7月5日

牛山素行, SBS 静岡放送「SBS イブニング eye」, 松崎町津波防災施設についてのコメント, 2011年7月11日

牛山素行, SBS 静岡放送「SBS イブニング eye」, 台風6号による静岡市内の斜面崩壊・へりからのコメント, 2011年7月27日

牛山素行, フジテレビ「知りたがり!」, 台風12号災害についての解説, 2011年9月6日

牛山素行, フジテレビ「とくだね」, 台風12号災害についてのコメント, 2011年9月7日

牛山素行, SBS 静岡放送「SBS イブニング eye」, 台風12号災害について・現地からのコメント, 2011年9月7日

牛山素行, テレビ朝日「報道ステーション」, 台風12号災害についてのコメント, 2011年9月7日

牛山素行, 静岡朝日テレビ「とびっきりしずおか」, 津波警報の改善についてのコメント, 2011年9月8日

牛山素行, NHK スペシャル「緊急報告 記録的豪雨の衝撃」, 台風12号災害についての解説, 2011年9月9日

牛山素行, 静岡朝日テレビ「とびっきりしずおか」, 情報局「もし静岡に大型台風が直撃したら…」, 2011年9月12日

牛山素行, フジテレビ「知りたがり!」, 台風15号災害についてのコメント, 2011年9月21日

牛山素行, SBS 静岡放送「SBS イブニング eye」, 台風15号災害についてのコメント, 2011年9月28日

牛山素行, NHK クローズアップ現代「避難の情報が伝わらない 検証 台風12・15号」, 台風12・15号災害の解説, 2011年10月13日

牛山素行, SBS 静岡放送「SBS イブニング eye」, 台風 15 号による静岡県内での災害についてのコメント, 2011 年 10 月 12 日

牛山素行, SBS 静岡放送「SBS イブニング eye」, 災害時の避難についてのコメント, 2011 年 10 月 19 日

牛山素行, 静岡朝日テレビ「とびっきりしずおか」, 台風 15 号による静岡県内での災害についてのコメント, 2011 年 12 月 8 日

5.3 公的な委員会等

千木良雅弘, 日本学術会議連携会員 (地球惑星科学委員会・高レベル放射性廃棄物の処分に関する検討委員会・放射性廃棄物と人間社会小委員会), 2008 年 10 月 1 日~2014 年 9 月 30 日

千木良雅弘, 奈良県国道 169 号防災対策検討委員会 委員長, 委員会での技術指導, 2010 年 7 月 9 日~2011 年 3 月 31 日

千木良雅弘, (独) 日本原子力研究開発機構深地層の研究施設計画検討委員会 委員, 2010 年 8 月 1 日~H2012 年 3 月 31 日

千木良雅弘, 山口大学理学部外部アドバイザー委員会 委員, 2010 年 10 月 1 日~2011 年 9 月 30 日

千木良雅弘, (社) 日本原子力学会「地層処分事業の安全確保 2010」レビュー特別専門委員会 委員, 2010 年 11 月 16 日~2011 年 3 月 31 日

千木良雅弘, 一般社団法人日本技術者教育認定機構認定会議 委員, 2010 年 2 月 3 日~2012 年 7 月 26 日

千木良雅弘, 社団法人資源・素地学会 JSBEE 地球・資源およびその関連分野運営委員会 委員, 2011 年 6 月 1 日~2012 年 5 月 31 日

千木良雅弘, 大阪府今後の土砂災害対策の進め方検討委員会 委員, 2011 年 9 月 26 日~2012 年 3 月 31 日

藤井基貴, 文部科学省 中央教育審議会 専門委員, 2011 年 10 月~

藤井基貴, 白川町教育委員会 外部評価委員, 2011 年度~

藤井基貴, 静岡県教育委員会 道徳教育推進協議会 座長, 2009 年度~

藤井基貴, 白川町教育委員会 子育て支援ネットワーク協議会 アドバイザー, 2007 年度~

秦 康範, 内閣官房 重要インフラ相互依存性解析及び分野横断的演習検討会 委員, 2010 年 7 月~

秦 康範, 財団法人マルチメディア振興センター 公共情報コモンズ運営諮問委員会 委員, 2011 年 10 月~

原田賢治, 静岡県 防災・原子力学術会議 津波分科会 委員, 2011 年度

原田賢治，浜松市 津波対策委員会 委員，2011年度

狩野謙一，南アルプス世界自然遺産登録推進協議会・総合学術検討委員会 委員，2007年度～

狩野謙一，静岡県環境審議会 委員，2008年度～

狩野謙一，静岡県環境審議会・温泉部会 副部長，2009年度～

狩野謙一，環境省リニア中央新幹線環境評価検討委員会 委員，2010年度～

柄谷友香，春日井市「春日井市都市計画審議会」委員，平成22年5月～平成24年5月

柄谷友香，可児市「可児市土地利用対策委員会」委員，平成22年5月～平成24年4月

柄谷友香，(財)地震予知総合研究振興会「地域地震防災基準に関する基本問題研究委員会」委員，平成22年6月～平成25年3月

柄谷友香，名古屋市「上下水道局地震対策事業継続計画の策定における監修」委員，平成22年6月～平成23年2月

柄谷友香，内閣府中央防災会議「専門委員」・「災害時の避難に関する専門調査会」委員，平成22年8月～平成23年1月

柄谷友香，国土交通省中部地方整備局「東海・東南海・南海地震対策中部圏戦略会議」委員，平成23年10月～平成24年3月

柄谷友香，春日井市都市計画審議会委員，平成22年6月～平成24年6月

柄谷友香，可児市土地利用対策委員，平成22年5月～平成24年4月

柄谷友香，岐阜市国土利用計画審議会委員，平成23年4月～平成26年4月

柄谷友香，名古屋市地震対策専門委員，平成23年8月～平成24年3月

柄谷友香，尼崎市開発審査会委員，平成23年9月～平成25年9月

柄谷友香，災害時の避難に関する専門調査，避難指針WG及び防災・災害情報WG委員 平成23年10月～平成24年3月

柄谷友香，国土交通省中部地方整備局「地震・津波災害に強いまちづくり検討委員会」委員，平成24年4月～平成25年3月

柄谷友香，静岡県河川審議会委員，平成24年4月～平成26年3月

柄谷友香，国土交通省中部地方整備局「東海・東南海・南海地震対策中部圏戦略会議」委員，平成24年4月～平成26年3月

片田敏孝，内閣府中央防災会議「災害時の避難に関する専門調査会」委員，2010年12月～2011年3月

片田敏孝，内閣府「災害対策法制のあり方に関する研究会」委員，2011年9月～2012年3月

片田敏孝，総務省消防庁「消防審議会」委員，2011年6月～現在

片田敏孝，気象庁「津波警報の発表基準等と情報文のあり方に関する検討会」委員，2011年9月～2012年3月

片田敏孝，文部科学省：中央教育審議会 委員（スポーツ・青年分科会），2011年11月～

現在

片田敏孝, 国土交通省「東日本大震災復興都市デザイン検討会」委員, 2011年9月～2012年3月ほか、55件

風間聡, IPCC 特別レポート(Managing the Risks of Extreme Events and Disasters to Advance Climate Change Adaptation (SREX)) 査読委員 /IPCC/UN, 2010.

風間聡, 気候変動水質影響検討会委員, 2010年.

風間聡, 宮城県北上川及び名取川流域水循環計画策定検討委員会, 2010年.

近藤昭彦, 千葉県環境審議会, ～平成25年3月31日

近藤昭彦, 千葉県印旛沼水循環健全化会議委員, ～平成25年3月31日

近藤昭彦, 日本学術会議環境学委員会・地球惑星科学委員会合同 IGBP・WCRP・DIVERSITAS 合同分科会 GLP 小委員会委員, ～平成26年9月30日

小山真人, 日本放送協会静岡放送局視聴者懇談会 委員, 2008年7月～2012年3月

小山真人, 伊豆東部火山群の火山防災対策検討会 副会長, 2009年1月～2012年3月

小山真人, 火山噴火予知連絡会コア解析グループ 協力者, 2009年8月～2011年3月

小山真人, 中部圏開発整備地方協議会 委員, 2009年10月～2011年3月

小山真人, ジオパーク静岡県庁内検討会議 アドバイザー, 2009年12月～2011年3月

小山真人, 御殿場市御殿場高原富士山交流センター展示物 監修者, 2010年2月～2011年3月

小山真人, 伊東市ジオパーク構想推進検討会議 アドバイザー, 2010年2月～2011年3月

小山真人, 静岡県総合防災訓練 外部評価委員, 2010年8月31日～9月1日

小山真人, 気象庁「東海地震に関する情報の理解促進のための検討会」委員, 2010年10月～2011年3月

小山真人, 伊豆半島の風力発電に関する有識者会議 委員, 2011年4月～10月

小山真人, 伊東市史編さん委員会編集委員, 2000年4月～現在

小山真人, 伊豆半島ジオパーク推進協議会 顧問, 2011年4月～現在

小山真人, 火山噴火予知連絡会伊豆部会 委員, 2011年12月～現在

小山真人, 伊豆半島ジオガイド認定試験(伊東エリア) 審査員, 2012年1月23日

小山真人, 伊豆半島ジオガイド認定試験(中伊豆北、沼津エリア) 審査員, 2012年1月24日

小山真人, 伊豆半島ジオガイド認定試験(函南エリア) 審査員, 2012年1月31日

小山真人, 伊豆東部火山群防災協議会 委員, 2012年3月～現在

村越 真, 静岡県三ヶ日外部評価委員 委員長, 2011年4月～(2年間予定)

村越 真, 国立登山研修所、調査研究委員会 委員, 2010年～

村越 真, 日本山岳ガイド協会特別委員 委員, 2010年～

村越 真, 日本体育協会 評議員, 2010年～

中川和之, 中央防災会議専門委員「災害時の避難に関する専門調査会」, 2010 年度、2011 年度

中川和之, 内閣府「家具等転倒防止対策の推進に関する検討委員会」委員, 2011 年度

中川和之, 気象庁「気象業務の評価に関する懇談会」委員, 2010 年度、2011 年度

中川和之, 文部科学省「全国生涯学習ネットワークフォーラム」準備委員会・企画実施委員会委員, 2011 年度

中川和之, 総務省消防庁「市町村長を対象とした風水害対策研修の在り方に関する調査・有識者懇談会」委員, 2010 年度

中川和之, 内閣府「防災教育チャレンジプラン」実行委員会 委員, 2010 年度、2011 年度

中川和之, 文部科学省防災教育支援推進プログラム「防災教育支援事業」技術審査委員, 2010 年度

中川和之, 産業総合研究所活断層・地震研究センター研究ユニット評価委員会 委員, 2010 年度、2011 年度

中川和之, 「日本ジオパーク委員会」委員, 2010 年度、2011 年度

中川和之, 文部科学省委託研究「東海・東南海・南海地震の連動性評価研究」運営委員, 2010 年度、2011 年度

中川和之, 独立行政法人建築研究所国際地震工学センター国際地震工学研修・普及会議委員, 2010 年度、2011 年度

中川和之, 日本学術会議 大規模地震災害総合対策分科会WG6「学際研究、複合災害を含めた学協会との連携」自然災害分野の学協会連合に向けた準備会委員, 2010 年度、2011 年度

中川和之, 科学技術戦略推進費「官民協働危機管理クラウドシステム」運営委員会 座長, 2011 年度

中川和之, 防災科学技術研究所 e 防災マップ・防災ラジオドラマ審査委員, 2010 年度、2011 年度

中川和之, 東京大学情報学環総合防災情報研究センター中間評価委員会 委員, 2010 年度

野津憲治, 平成 23 年度神奈川県温泉地学研究所外部評価委員会 委員, 2011

島崎邦彦, 内閣府中央防災会議専門委員（東北地方太平洋沖地震を教訓とした地震・津波対策に関する専門調査会）, 2011 年 5 月 26 日～2011 年 10 月 27 日

島崎邦彦, 内閣府南海トラフの巨大地震モデル検討会委員, 2011 年 8 月～

島崎邦彦, 国土交通省交通政策審議会委員, 2011 年 3 月 13 日～

島崎邦彦, 国土交通省交通政策審議会気象分科会委員, 2011 年 3 月 13 日～

島崎邦彦, 国土交通省交通政策審議会気象分科会会長, 2011 年 9 月 29 日～

島崎邦彦, 気象庁地震対策強化地域判定会委員, 2010 年 4 月 1 日～2012 年 3 月 31 日

島崎邦彦, 国土地理院地震予知連絡会会長, 2009 年 4 月 1 日～2013 年 3 月 31 日

島崎邦彦, 文部科学省地震調査研究推進本部政策委員会総合部会委員, 2010 年 3 月 11 日

～2012年3月10日

島崎邦彦, 文部科学省地震調査研究推進本部地震調査委員会委員, 2010年3月11日～2012年3月10日

島崎邦彦, 文部科学省地震調査研究推進本部地震調査委員会地震活動の予測的な評価手法検討小委員会主査, 2010年3月11日～2012年3月10日

島崎邦彦, 文部科学省地震調査研究推進本部地震調査委員会長期評価部会部会長, 2010.3.11～2012年3月10日

島崎邦彦, 文部科学省地震調査研究推進本部地震調査委員会長期評価部会活断層評価手法等検討分科会主査, 2010年3月11日～2012年3月10日

島崎邦彦, 文部科学省地震調査研究推進本部地震調査委員会長期評価部会海溝型分科会(第二期)主査, 2010年3月11日～2012年3月10日

武村雅之, 浜松市津波対策委員会 委員, 2011～2012

寺村 泰, 静岡大学教育研究評議会評議員, 2010年4月～現在

寺村 泰, 静岡大学ハラスメント防止対策委員, 2010年4月～現在

寺村 泰, 静岡大学施設・環境マネジメント委員, 2010年4月～現在

寺村 泰, 静岡大学情報公開・個人情報保護委員会 委員, 2010年4月～現在

寺村 泰, 人文学部財務マネジメント委員 委員長, 2010年4月～2011年3月

寺村 泰, 人文学部施設委員 委員長, 2010年4月～2011年3月

寺村 泰, 人文学部財務・施設委員 委員長, 2011年4月～現在

寺村 泰, 人文学部防災対策委員, 2010年4月～現在(2011年度は、学部防災規定の見直しとりまとめ責任者)

土屋智, 森の力再生事業評価委員会 静岡県交通基盤部森林局, 平成27年度まで

土屋智, 事業評価委員会 静岡県交通基盤部, 平成24年度まで

土屋智, 環境影響評価審査会委員 静岡県くらし・環境部, 環境局, 平成24年度まで

土屋智, 伊豆東部火山群の火山防災対策検討会検討会 静岡県危機管理部, 平成23年度まで

土屋智, 浜松市産業廃棄物処理施設設置等調整委員会 浜松市, 平成22年度

牛山素行, 東北農業研究センター運営費交付金プロジェクト研究評価会議 評価委員, 2008年7月～2011年3月

牛山素行, 岩手山火山噴火緊急減災対策砂防計画検討委員会 委員, 2009年2月～2011年

牛山素行, 国土交通省 水災害監視・予測勉強会 委員, 2009年12月～

牛山素行, 内閣府 中央防災会議専門委員(災害時の避難に関する専門調査会), 2010年7月～

牛山素行, 静岡県袋井市 防災対策推進アドバイザー, 2011年5月～2013年3月

牛山素行, 静岡県袋井市津波被害軽減対策検討会 委員長, 2011年5月～2013年3月

牛山素行，内閣府 災害時の避難に関する専門調査会 避難指針 WG 及び防災・災害情報 WG 委員，2011年10月～2012年3月
牛山素行，東海・東南海・南海地震対策中部圏戦略会議 委員，2011年10月～
牛山素行，浜松市津波対策委員会 委員，2011年10月～2012年3月
牛山素行，愛知県東海地震・東南海地震・南海地震等被害予測調査災害情報 WG 委員，
2011年12月～
牛山素行，国土交通省中部地方整備局 地震・津波災害に強いまちづくり検討会 委員，
2012年2月～

5.4 学会活動

千木良雅弘，一般社団法人日本応用地質学会 会長，2010年6月～
千木良雅弘，社団法人日本地すべり学会 理事，
千木良雅弘，日本自然災害学会 評議員
千木良雅弘，日本地形学連合 委員
秦 康範，地域安全学会 学術委員会 委員，2009年4月～
秦 康範，日本災害情報学会 企画委員会 委員，2009年4月～
秦 康範，日本災害情報学会 学術委員会 委員，2011年11月～
秦 康範，土木学会地震工学委員会 ライフラインの地震時相互連関を考慮した都市機能
防護戦略に関する研究小委員会 委員，2011年5月～2014年3月
原田賢治，土木学会東日本大震災特別委員会津波特定テーマ委員会 委員
林 能成，公益社団法人日本地震学会 代議員，2006-
林 能成，公益社団法人日本地震学会 大会・企画委員会委員，2009-
林 能成，歴史地震研究会，広報幹事，2009-
生田領野，日本地震学会 大会企画委員，2011年4月から2年間
生田領野，日本地震学会 代議員，2012年4月から1年間
石川有三，(公)日本地震学会 理事（副会長），2008年5月～2012年5月
石川有三，日本情報地質学会 評議員，2008年4月～2013年3月
狩野謙一，静岡県地学会 会長，2009年度～
柄谷友香，地域安全学会 理事，平成24年度～平成25年度
柄谷友香，地域安全学会 編集委員，平成23年度～
柄谷友香，日本災害情報学会 学会誌編集委員，平成23年度～
片田敏孝，日本災害情報学会 廣井賞表彰審査委員会 委員，2006年11月～2010年10
月
片田敏孝，日本災害情報学会 理事，2009年9月～現在
片田敏孝，日本自然災害学会 理事・評議員，2011年4月～2014年3月
風間聡，水文・水資源学会財務委員，2010年.

風間聡, 水文・水資源学会研究調整委員長, 2010年.
北村晃寿, 日本地質学会中部地方区代議員, 2008年～
北村晃寿, 日本地球惑星科学連合代議員, 2009年～
北村晃寿, 日本古生物学会評議員・常務委員(庶務), 2011年7月～
北村晃寿, 日本第四紀学会評議員・幹事(庶務(法務)), 2011年8月～
北村晃寿, Island Arc 編集委員, 2005年～
小山真人, 日本地震学会普及行事委員会 委員, 2003年5月～現在
小山真人, 日本災害情報学会学会誌編集委員会 委員, 2005年5月～現在
小山真人, 歴史地震研究会広報委員会 委員, 2006年10月～現在
村越 真, 日本国際地図学会 評議員, 2005年～
中川和之, 日本地震学会普及行事委員会 委員長, 2010年度、2011年度
中川和之, 日本災害情報学会広報委員会 委員, 2010年度、2011年度
島崎邦彦, (社)日本地震学会代議員, 2010年5月24日～2012年3月31日
島崎邦彦, (社)日本地震学会倫理委員会 委員, 2010年5月24日～2012年3月31日
島崎邦彦, 日本活断層学会会長, 2010年5月26日～2012年3月31日
武村雅之, 歴史地震研究会 会長, 2011年9月～
土屋智, (社)砂防学会 専務理事, 平成22-23年度
土屋智, (社)日本地すべり学会 理事, 平成22-23年度
土屋智, (社)日本地すべり学会中部支部 支部長, 平成22-23年度
牛山素行, 日本自然災害学会 編集委員会 委員, 2005年5月～
牛山素行, 日本自然災害学会 災害情報委員会 委員長, 2008年4月～
牛山素行, 水文・水資源学会 研究調整委員会 委員, 2008年9月～
牛山素行, 京都大学防災研究所「自然災害研究協議会」委員, 2009年4月～
牛山素行, 日本自然災害学会 評議員, 2011年4月～2014年3月

防災総合センター年報 第2号

2012年6月30日発行

著者・発行者

静岡大学防災総合センター

〒422-8529 静岡市駿河区大谷 836

電話：054-238-4502

E-mail：sbosai@sakuya.ed.shizuoka.ac.jp

URL：http://sakuya.ed.shizuoka.ac.jp/sbosai/